# 第２章　秋田県の地域公共交通を取り巻く状況

# 1. 秋田県全体の地域特性の概要

## 1-1 地勢・自然特性

### (1)面積・地勢

本県は、東京都のほぼ真北約 450km の日本海沿岸にあり、東西約 111km、南北 181km、総面積は 11,637.52km² と、全国では 6 番目の広さで、日本の面積の約 3.1%を占めており、周囲は、北は青森県と、東は岩手県と、南は山形県及び宮城県と隣接し、西は日本海に面しています。

東の県境を奥羽山脈と那須火山帯が縦走し、八幡平、駒ヶ岳、栗駒山の各火山と田沢湖、十和田湖の両カルデラ湖を形成しています。また、北の県境には、世界自然遺産に登録された白神山地、南の県境には、東北第二位の高峰である鳥海山が位置しており、これらはいずれも本県の代表的な観光名所となっています。

また、県北には花輪、大館、鷹巣の各盆地、県南には横手盆地などがあり、一方、雄物川、米代川、子吉川の三大河川の下流には秋田、能代、本荘の各平野が広がっており、これらの地域には多くの生活圏が存在しています。

本県の可住地面積は、3,204.37km²（総面積の 27.5%）となっており、圏域別では、秋田圏域が約 707.53km² で約 2.2 割と最も多く、仙北圏域が約 616.29km² で約 1.9 割、平鹿・雄勝圏域が約 572.56km² で約 1.8 割、鹿角・北秋田圏域が約 566.15km² で約 1.8 割、由利圏域が約 375.4km² で約 1.2 割、山本圏域が約 366.45km² で約 1.1 割となっています。

図 地勢図

表 面積及び可住面積

| 項目 | | 総面積 | 可住面積 |
|---|---|---|---|
| 単位 | | km² | km² |
| 秋田県全体 | | 11,637.6 | 3,204.4 |
| 鹿角・北秋田圏域 | | 3,231.9 | 566.2 |
| | 県対比 | 27.8% | 17.7% |
| 山本圏域 | | 1,191.2 | 366.5 |
| | 県対比 | 10.3% | 11.4% |
| 秋田圏域 | | 1,716.9 | 707.5 |
| | 県対比 | 14.8% | 22.1% |
| 由利圏域 | | 1,450.7 | 375.4 |
| | 県対比 | 12.5% | 11.7% |
| 仙北圏域 | | 2,128.7 | 616.3 |
| | 県対比 | 18.3% | 19.2% |
| 平鹿・雄勝圏域 | | 1,918.2 | 572.6 |
| | 県対比 | 16.5% | 17.9% |

出典：統計で見る市区町村のすがた 2021

## (2)気候

県内の全域が豪雪地帯（12 市町村）又は特別豪雪地帯（13 市町村）に指定されており、降雪量の多い環境に加えて、特に冬季の 12 月から 3 月にかけては北西の季節風の影響により、荒天が続くなど、厳しい積雪環境が特徴です。

**表【月ごとの降水量】過去 30 年間の平均値(1991 年～2020 年)**

(mm)

| | 鹿角 | 鷹巣 | 阿仁合 | 能代 | 秋田 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1月 | 79.4 | 116.7 | 164.3 | 114.8 | 118.9 |
| 2 月 | 68.7 | 92.4 | 125.0 | 86.0 | 98.5 |
| 3 月 | 84.1 | 97.0 | 132.0 | 79.5 | 99.5 |
| 4 月 | 89.2 | 103.4 | 131.8 | 86.3 | 109.9 |
| 5 月 | 93.1 | 116.3 | 133.9 | 105.5 | 125.0 |
| 6 月 | 108.3 | 119.8 | 136.6 | 100.2 | 122.9 |
| 7 月 | 200.6 | 214.7 | 233.8 | 162.5 | 197.0 |
| 8 月 | 190.4 | 198.1 | 240.0 | 155.9 | 184.6 |
| 9 月 | 149.3 | 164.7 | 193.9 | 154.6 | 161.0 |
| 10 月 | 138.8 | 162.7 | 191.2 | 147.7 | 175.5 |
| 11 月 | 136.0 | 167.8 | 218.0 | 157.5 | 189.1 |
| 12 月 | 116.3 | 151.4 | 199.3 | 143.9 | 159.8 |
| 計 | 1454.1 | 1704.7 | 2099.7 | 1494.4 | 1741.6 |

| | 本荘 | 矢島 | 角館 | 横手 | 湯沢 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1月 | 153.7 | 234.5 | 171.6 | 184.1 | 155.8 |
| 2 月 | 106.5 | 158.6 | 140.5 | 119.5 | 94.2 |
| 3 月 | 105.0 | 142.8 | 135.7 | 95.4 | 80.8 |
| 4 月 | 101.6 | 113.5 | 129.1 | 85.3 | 69.8 |
| 5 月 | 112.6 | 109.2 | 148.7 | 100.1 | 86.6 |
| 6 月 | 119.7 | 127.5 | 152.3 | 113.8 | 104.9 |
| 7 月 | 190.2 | 196.8 | 273.6 | 194.4 | 172.8 |
| 8 月 | 202.4 | 191.5 | 254.9 | 183.6 | 166.1 |
| 9 月 | 180.4 | 179.0 | 180.5 | 136.6 | 137.6 |
| 10 月 | 189.9 | 217.0 | 171.5 | 144.6 | 141.2 |
| 11 月 | 217.0 | 287.0 | 202.5 | 174.1 | 164.2 |
| 12 月 | 190.1 | 293.5 | 197.8 | 206.0 | 189.0 |
| 計 | 1838.7 | 2250.8 | 2158.4 | 1737.3 | 1567.4 |

出典：気象庁

**表【月ごとの降雪の深さ合計】過去 30 年間の平均値（1991 年～2020 年）**

（cm）

| | 鹿角 | 鷹巣 | 阿仁合 | 能代 | 秋田 | 本荘 | 矢島 | 角館 | 横手 | 湯沢 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1月 | 182 | 183 | 259 | 129 | 100 | 125 | 225 | 218 | 276 | 266 |
| 2 月 | 150 | 145 | 198 | 106 | 79 | 99 | 166 | 175 | 202 | 195 |
| 3 月 | 100 | 68 | 127 | 30 | 30 | 22 | 87 | 95 | 106 | 99 |
| 4 月 | 2 | 1 | 13 | 1 | 1 | | 4 | 7 | 6 | 7 |
| | | | | | | | | | | |
| 11 月 | 13 | 8 | 21 | 5 | 6 | 10 | 15 | 12 | 23 | 16 |
| 12 月 | 132 | 113 | 170 | 66 | 59 | 62 | 135 | 130 | 186 | 177 |
| 計 | 579 | 514 | 778 | 337 | 273 | 315 | 625 | 630 | 793 | 754 |

出典：気象庁

**表【最積雪深の観測記録】2021 年 10 月 30 日現在**

（cm）

| | 鹿角 | 鷹巣 | 阿仁合 | 能代 | 秋田 | 本荘 | 矢島 | 角館 | 横手 | 湯沢 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 最深積雪 | 130 | 131 | 188 | 92 | 117 | 93 | 177 | 169 | 203 | 175 |
| 年月日 | H27.2.10 | H24.1.30 | H25.2.25 | H18.1.5 | S49.2.10 | H10.11.19 | H23.1.30 | S61.2.26 | H13.2.5 | H23.2.1 |

出典：気象庁

## 1-2 土地利用

県民等の移動手段として地域公共交通を考える上で、市街地の形成状況（施設の集積）など、土地利用状況を踏まえることが重要です。

ここでは、地域公共交通を考える上での基礎資料として、本県における土地利用状況について、圏域ごとに整理します。

**表 使用するデータ**

| |
|---|
| ○出典：国土数値情報（国土交通省）<br>○整理年度：2016 年度（平成 28 年度）　※2021 年 12 月時点の最新データ<br>○概要：衛星画像を用いて土地利用状況を判別し、整理したデータ。<br>家屋やさまざまな施設などに利用されている土地については、建物用地として整理されるほか、農用地・森林・水系（河川・湖・海など）を整理。 |

## （1）鹿角・北秋田圏域

鹿角市や大館市、北秋田市においては、駅周辺に建物用地が多く、市街地が形成されています。他方で、各市の郊外部でも主要な道路沿線に建物用地があり、広い範囲に居住環境が形成されています。

小坂町と上小阿仁村には鉄道が運行していませんが、比較的まとまった範囲に建物用地があり市街地を形成しています。

## （2）山本圏域

能代市では、能代駅や東能代駅周辺に建物用地が多く、駅周辺を中心に市街地が形成されています。郊外部では、駅周辺での建物用地は少なく、主要な道路沿線に建物用地があり、広い範囲に居住環境が分散して形成される状況となっています。

八峰町、藤里町及び三種町においても、主要な道路沿線に建物用地が多く、広い範囲に居住環境が形成されています。

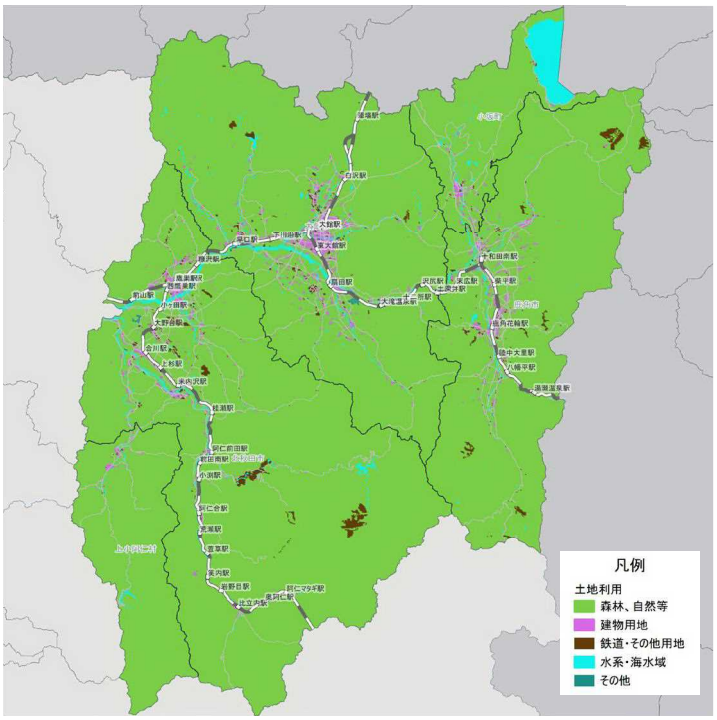



図　鹿角・北秋田圏域の土地利用状況図（2016）

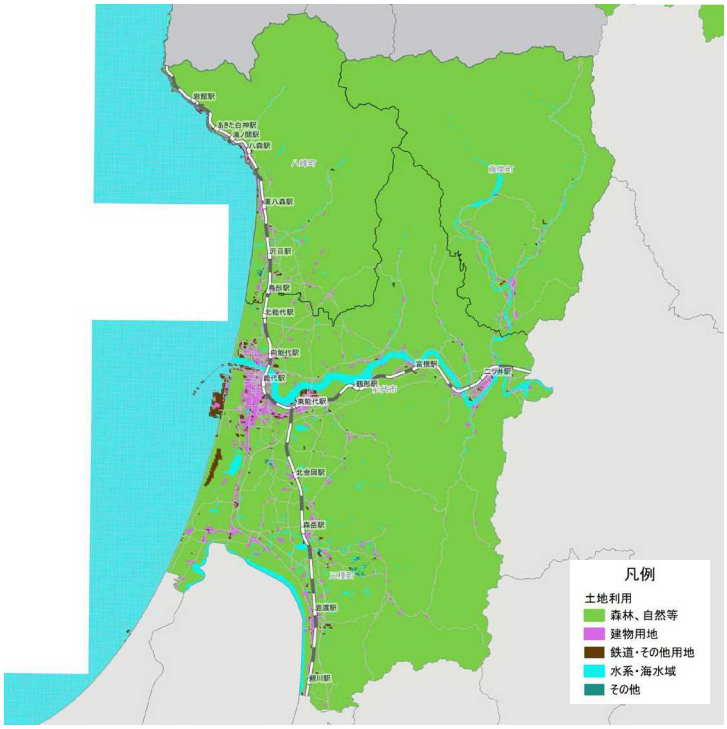



図　山本圏域の土地利用状況図（2016）

出典：国土数値情報

## （3）秋田圏域

秋田市では、都市計画により市街化区域と市街化調整区域を設定していることから、市街化区域内には建物用地が多く、区域一体に市街地を形成しています。また、市街化調整区域においても分散して建物用地があり、郊外部の広い範囲でも居住環境が形成されている状況となっています。

潟上市や男鹿市、八郎潟町では鉄道沿線に建物用地の集約がみられる一方で、男鹿市や五城目町、井川町においては、郊外部の広い範囲に建物用地が分散しています。

大潟村では比較的まとまった範囲に建物用地がみられ、特定の範囲内に市街地が形成される状況にあります。

## （4）由利圏域

由利本荘市では、羽後本荘駅周辺に建物用地が多く、市街地を形成しています。また、主要な道路の沿線などにも建物用地があり、広い範囲に居住環境が形成される状況にあります。

にかほ市では市内の３駅周辺（仁賀保駅、金浦駅、象潟駅）に建物用地がみられ、駅周辺に市街地が形成されている一方で、郊外部の広い範囲にも建物用地があり、広い範囲に居住環境が形成される状況にあります。

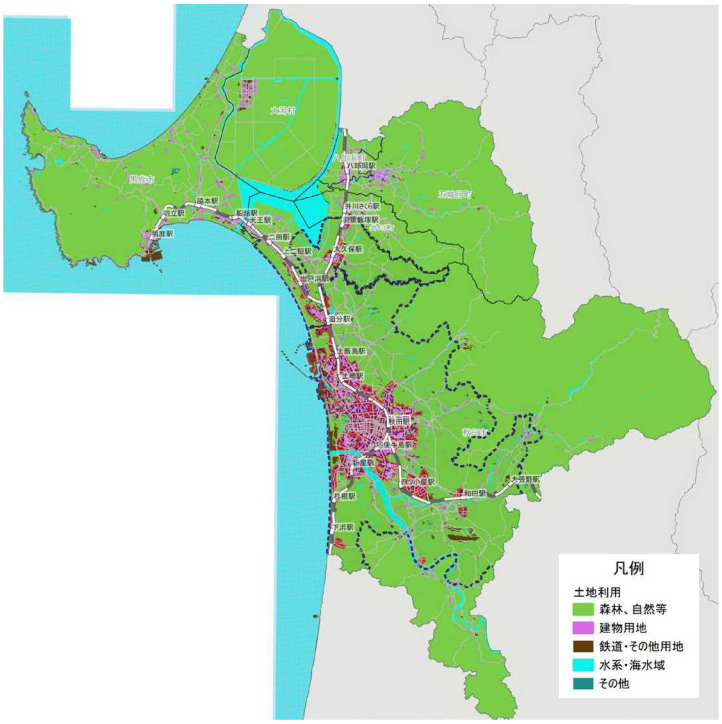



図　秋田圏域の土地利用状況図（2016）

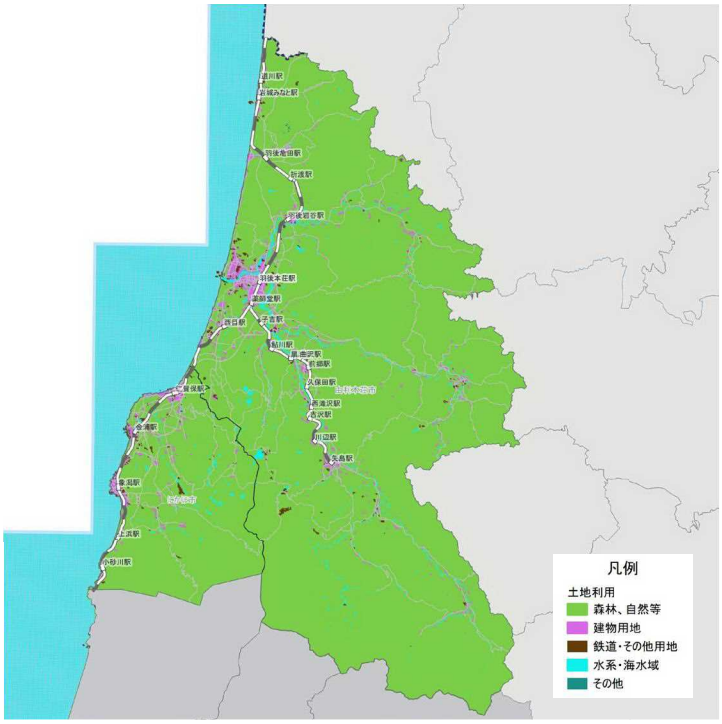



図　由利圏域の土地利用状況図（2016）

出典：国土数値情報

## （5）仙北圏域

大仙市では大曲駅や神宮寺駅、刈和野駅周辺、仙北市では角館駅や田沢湖駅周辺に建物用地が多く、各駅の周辺に市街地が形成される状況にあります。

また、主要な道路沿線などにも建物用地があり、広い範囲に居住環境が形成される状況となっています。特に大仙市や美郷町では他の市町村に比べても、その傾向が顕著となっています。

## （6）平鹿・雄勝圏域

横手市では横手駅や十文字駅周辺、湯沢市では湯沢駅周辺に特に建物用地が多く、各駅の周辺に市街地を形成する状況にあります。

なお、横手市では特に郊外部の広い範囲に建物用地が分散しており、居住環境が広範囲に形成されている状況となっています。

羽後町や東成瀬村においても、主要な道路沿線に建物用地があり、広い範囲に居住環境が分散して形成されている状況となっています。

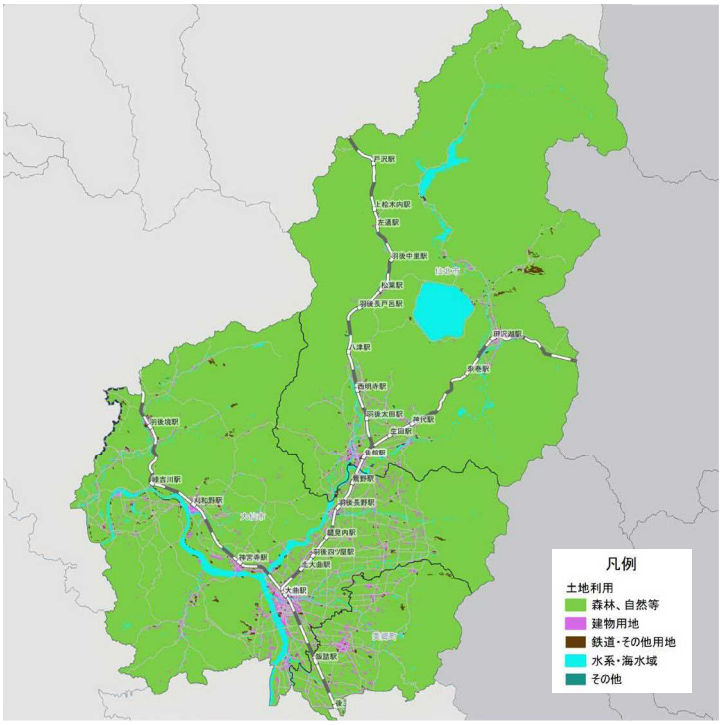



図　仙北圏域の土地利用状況図（2016）

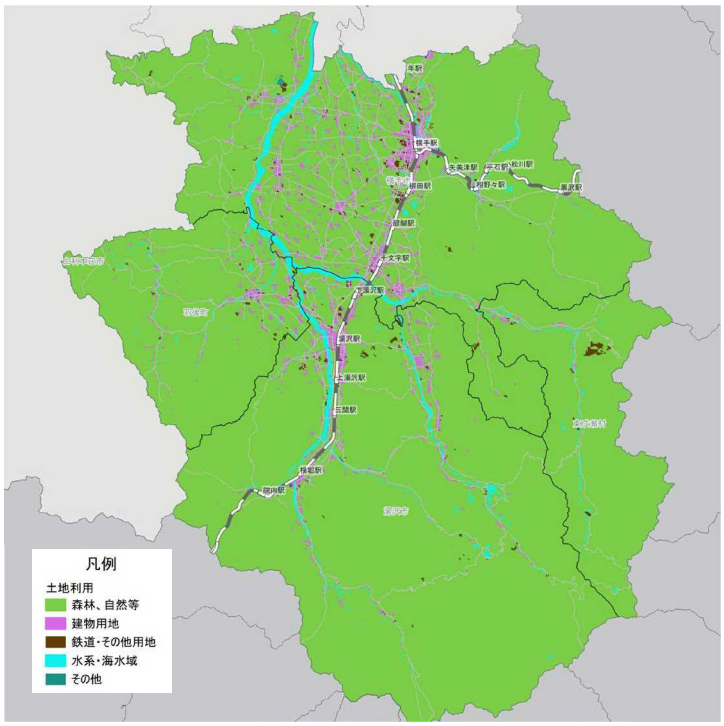



図　平鹿・雄勝圏域の土地利用状況図（2016）

出典：国土数値情報

## 1-3 人口の推移等

2021 年（令和 3 年）10 日 1 日現在の秋田県の人口は 937,377 人となっています。昭和 57 年以降減少が続いており、2017 年（平成 29 年）には 100 万人台を割り込み、その後も 1 万人を超えるペースで減少しています。

本県では、県外への転出数が県内への転入を上回る社会減に加え、平成 5 年以降は、出生数を死亡数が上回る自然減も同時に進行しています。2020 年（令和 2 年）国勢調査結果では、前回の 2015 年（平成 27 年）国勢調査からの人口減少率が 6.2%と全国で最も大きくなっており、国立社会保障・人口問題研究所が 2018 年（平成 30 年）3 月に公表した「日本の地域別将来推計人口」では、2045 年（令和 27 年）の県人口を約 60 万人に減少すると推計しています。

また、2020 年（令和 2 年）の総人口に占める年齢 3 区分別の割合を 2015 年（平成 27 年）と比較すると、年少人口では 0.8 ポイントの減少、生産年齢人口では 3.0 ポイントの減少の一方で、老齢人口では 3.8 ポイントの増加となっており、人口減少とともに高齢化も進行しています。

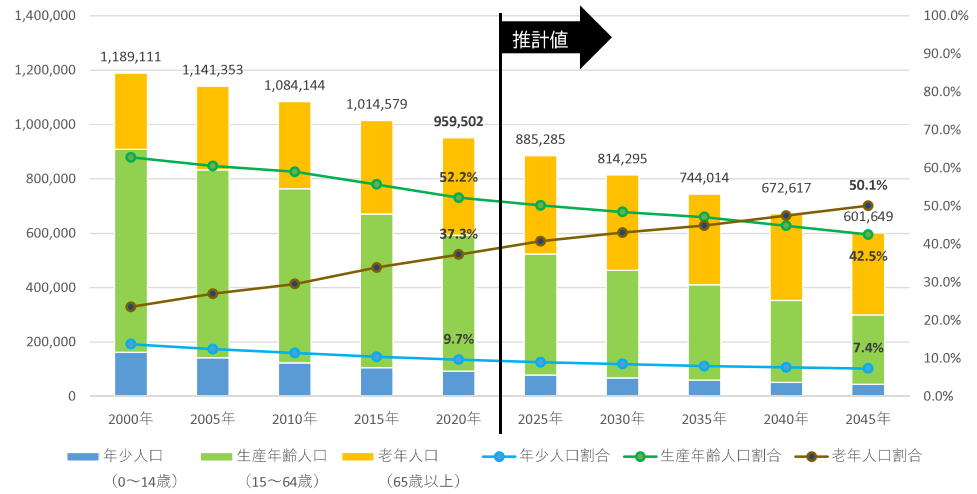



**図 総人口及び年齢3区分人口の推移**

出典：国勢調査、日本の地域別将来推計人口（国立社会保障・人口問題研究所）

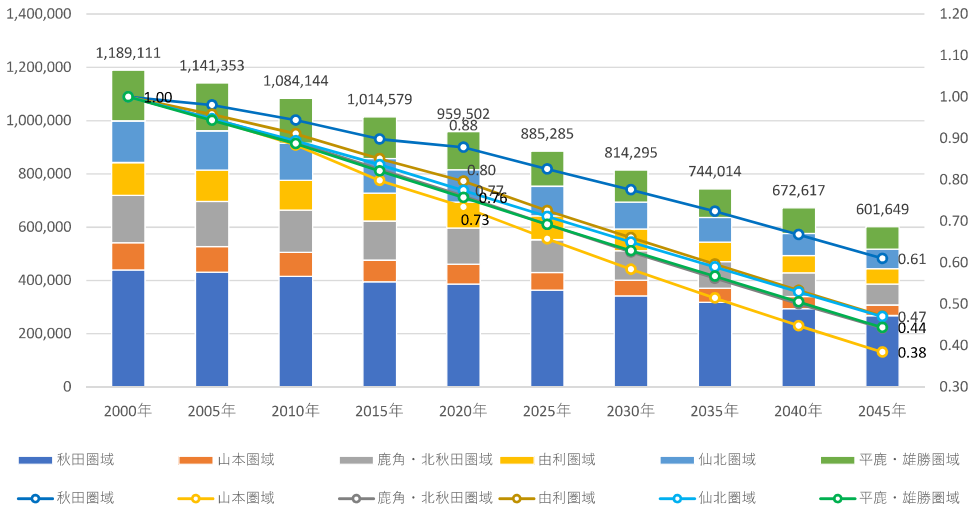



**図 圏域別人口の推移（2020 年を 1.0 とした場合の推移）**

出典：国勢調査、日本の地域別将来推計人口（国立社会保障・人口問題研究所）

## 1-4 転入・転出(社会増減)の推移

本県では県外への転出者が県内への転入者を上回る、転出超過の状況が過去 10 年続いており、定住化が進まないことが人口減少の大きな要因となっています。

2018 年（平成 30 年）から 2020 年（令和 2 年）にかけて転出超過がやや緩和したものの、今後も同様の傾向が続く場合には、人口減少にも大きく影響するものと考えられます。

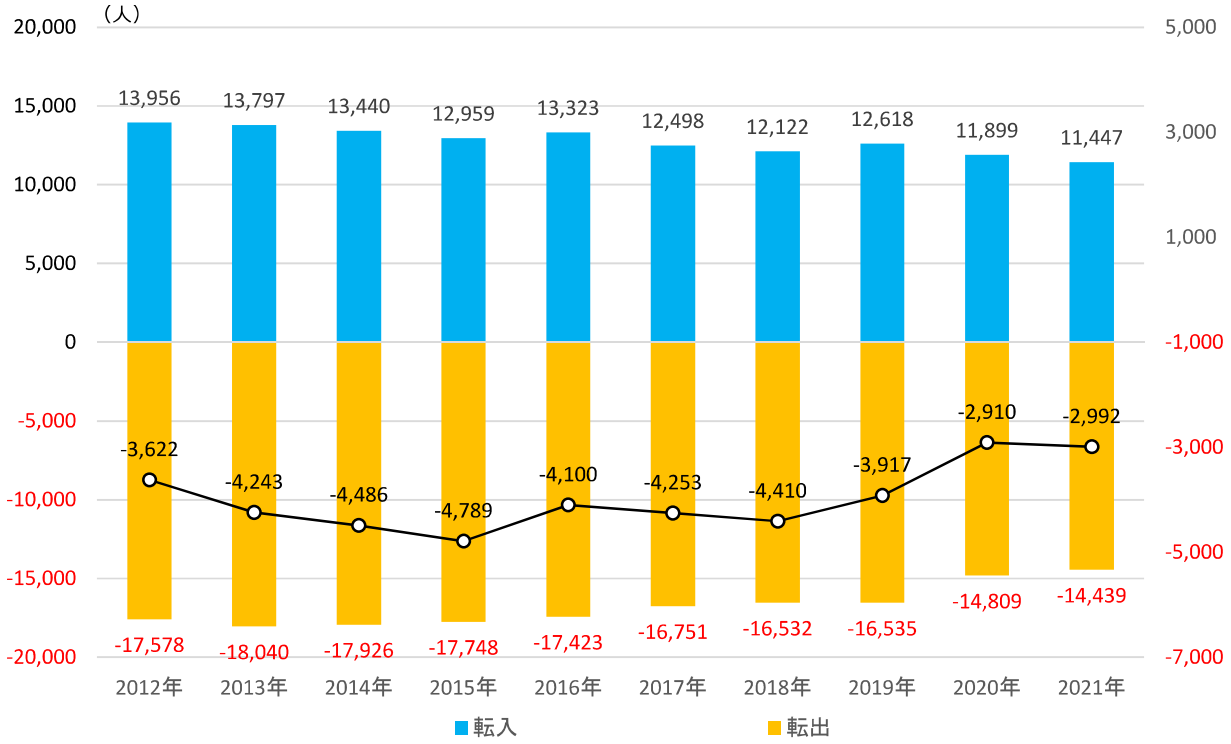



**図 転入・転出(社会増減)の推移**

出典：秋田県の人口と世帯（秋田県）

## 1-5 圏域別の人口推移・人口分布

### (1)鹿角・北秋田圏域

①人口推移

鹿角・北秋田圏域では、2035 年（令和 17 年）に圏域の総人口が 10 万人を下回り、また同年には老年人口（65 歳以上）が生産年齢人口（15～64 歳）を上回る推計となっています。

2045 年（令和 27 年）には、高齢化率が 51.0%と、住民 2 人に 1 人以上が 65 歳以上となり、移動に制約の大きい高齢者が増加することが見込まれます。

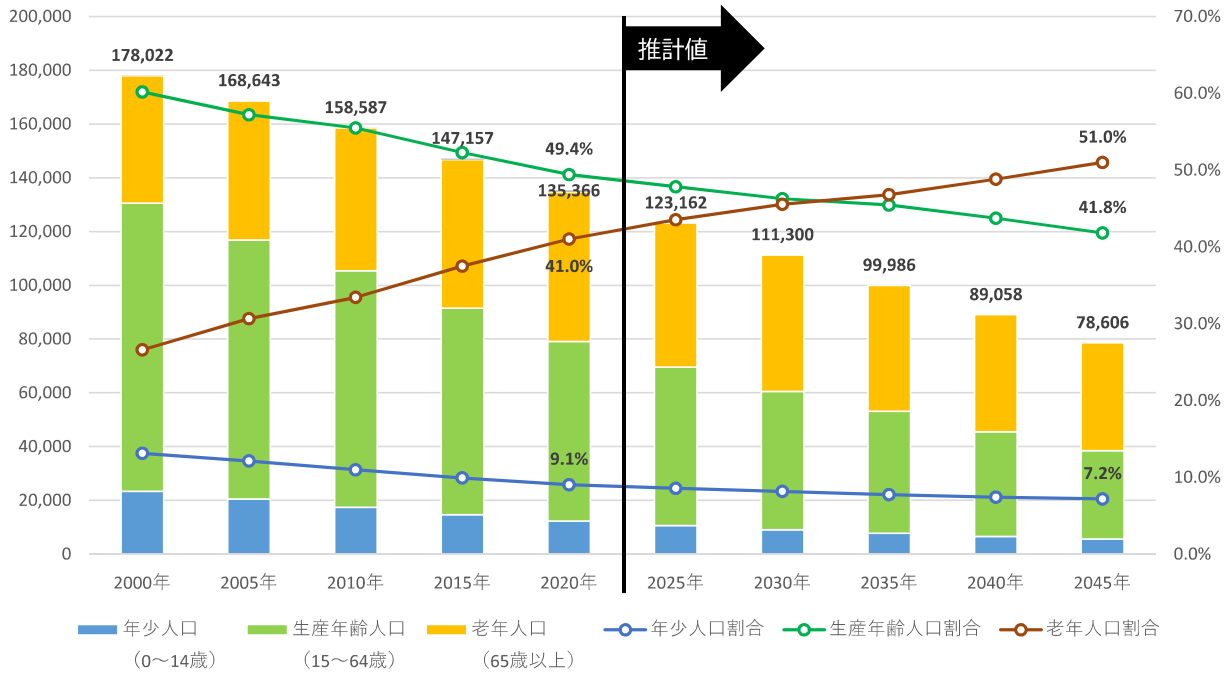



**図 圏域の人口及び年齢3区分人口の推移**

出典：国勢調査、日本の地域別将来推計人口（国立社会保障・人口問題研究所）

②人口分布(現状:2015)

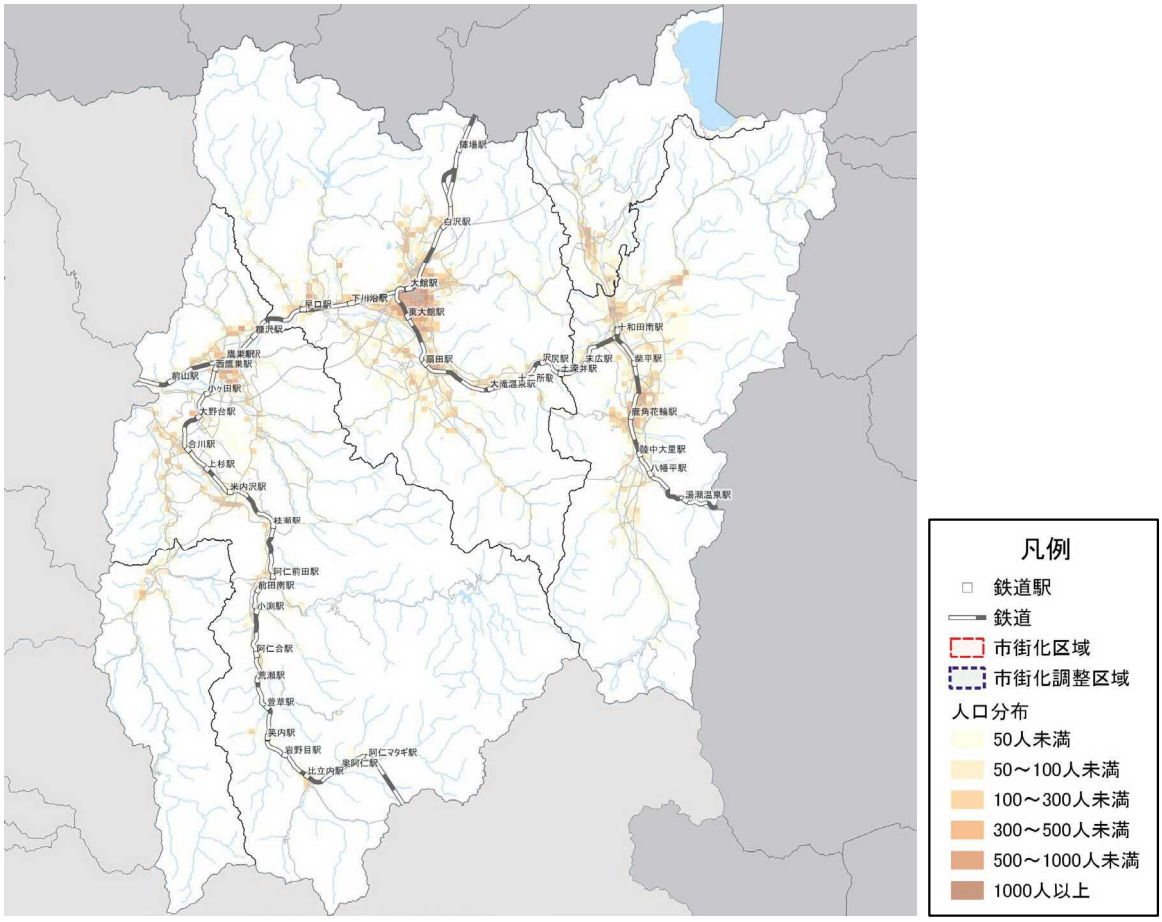



図　鹿角・北秋田圏域の人口分布(現状:2015)

出典：国勢調査

③高齢化率(65 歳以上)の人口分布(現状:2015)

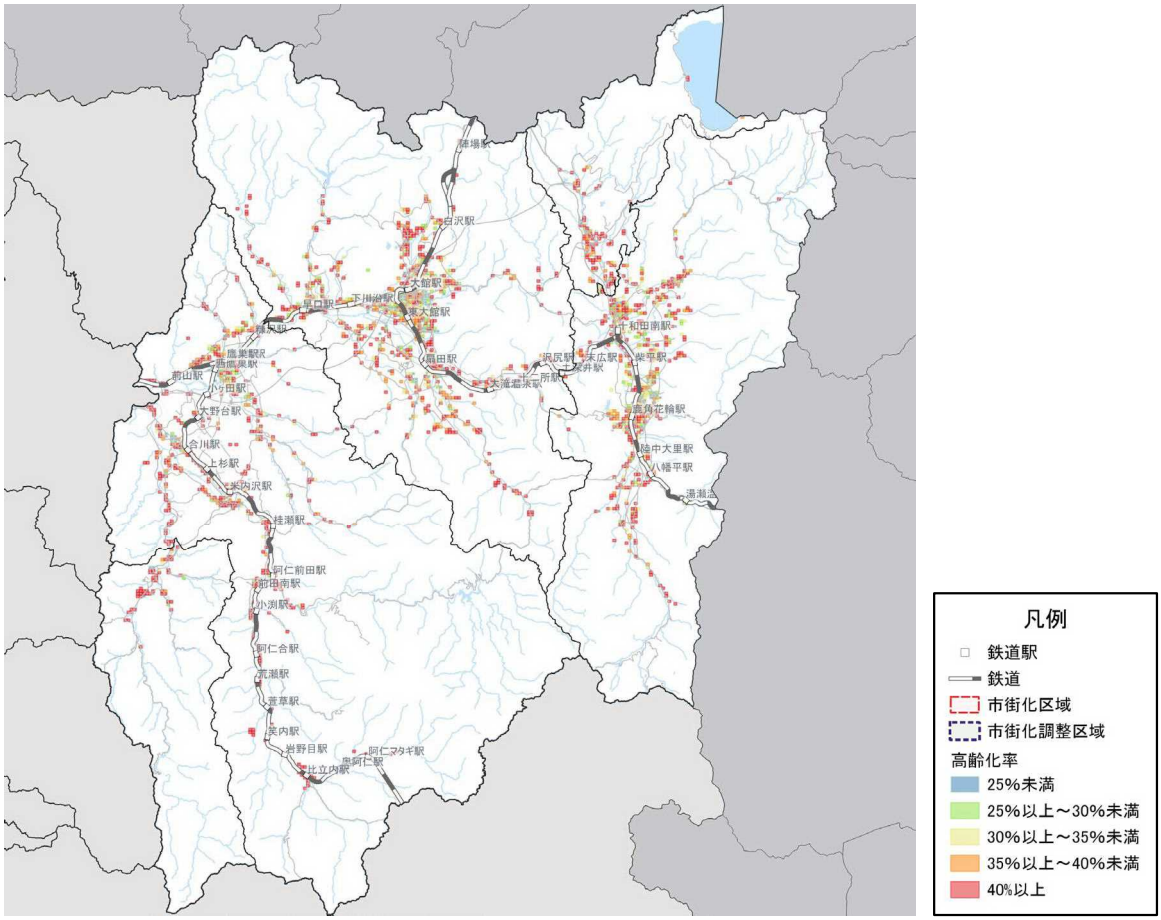



図　鹿角・北秋田圏域の高齢化率(65 歳以上)の人口分布(現状:2015)

出典：国勢調査

## （2）山本圏域

### ①人口推移

山本圏域では、2025 年（令和 7 年）に老年人口（65 歳以上）が生産年齢人口（15～64 歳）を上回る推計となっており、他圏域に比べても早い段階で高齢化が進行することが見込まれます。

2045 年（令和 27 年）には、人口は 4 万人を下回り、高齢化率が 58.2%と、おおよそ住民 3 人に 2 人以上が 65 歳以上になる推計となっています。

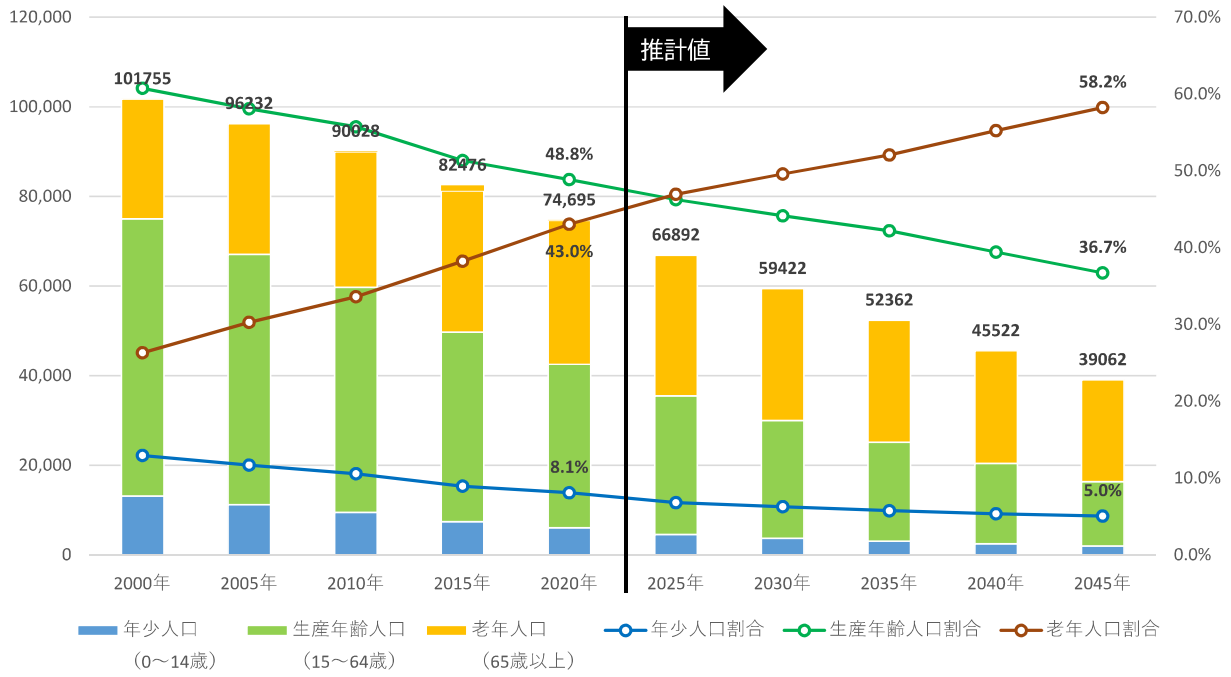



**図　圏域の人口及び年齢3区分人口の推移**

出典：国勢調査、日本の地域別将来推計人口（国立社会保障・人口問題研究所）

②人口分布(現状:2015)

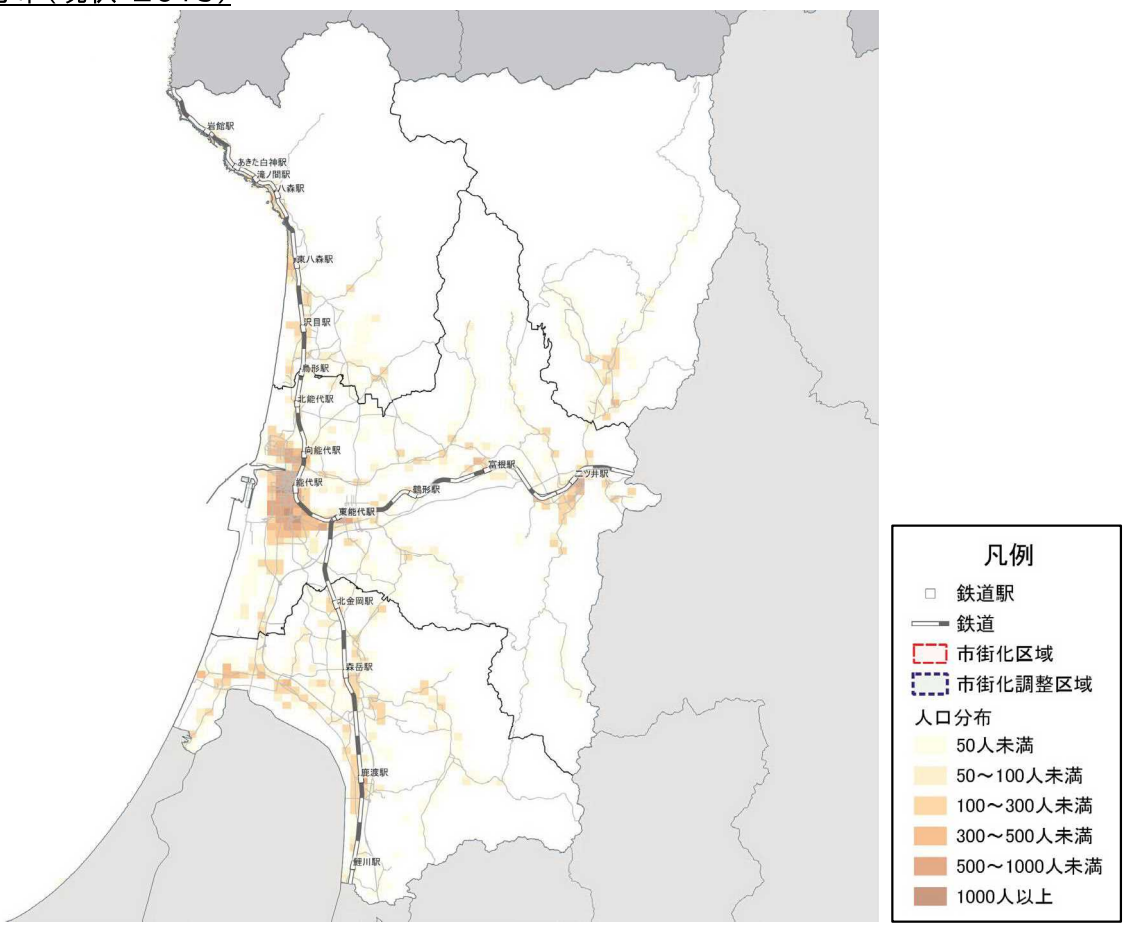



**図　山本圏域の人口分布(現状:2015)**

出典：国勢調査

③高齢化率(65 歳以上)の人口分布(現状:2015)

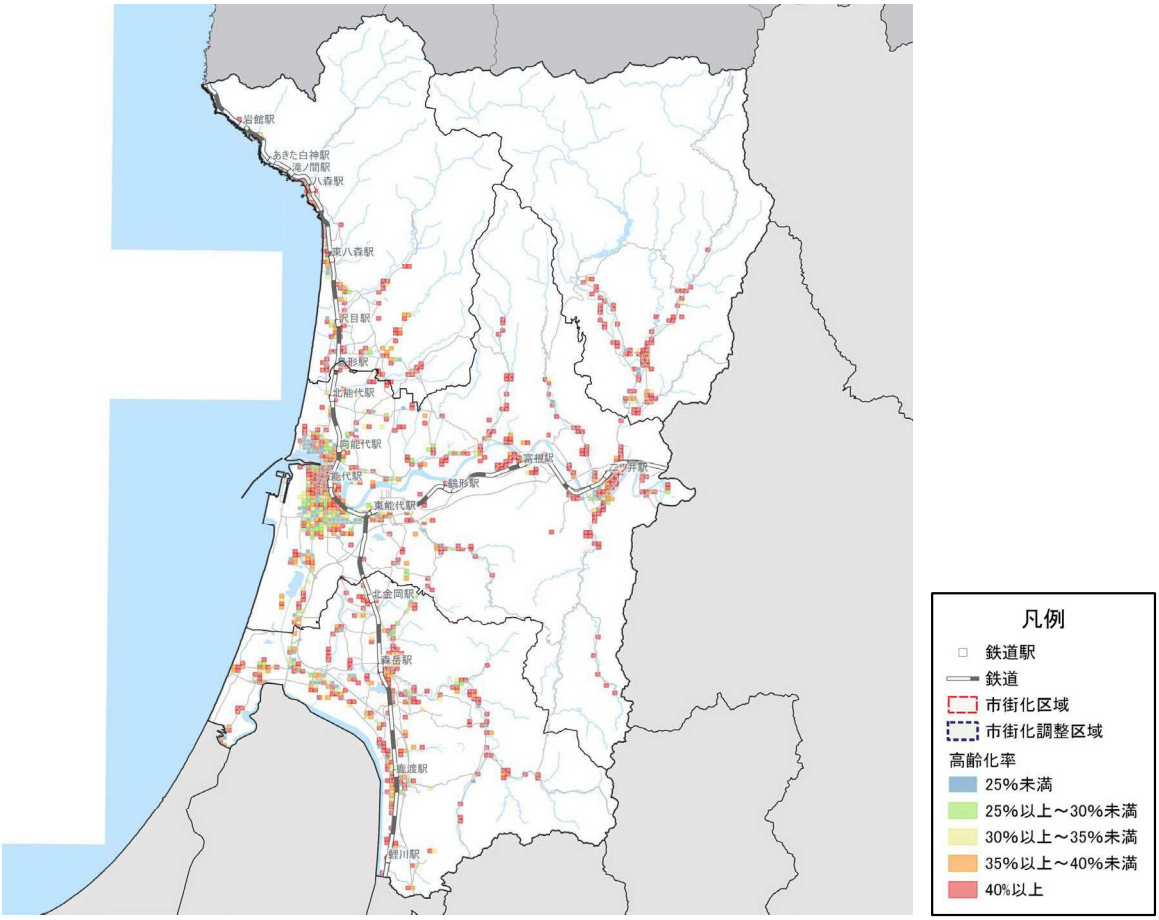



**図　山本圏域の高齢化率(65 歳以上)の人口分布(現状:2015)**

出典：国勢調査

## （3）秋田圏域

### ①人口推移

秋田圏域では、2040 年（令和 22 年）に圏域の総人口が 30 万人を下回り、2045 年（令和 27 年）には、老年人口（65 歳以上）が生産年齢人口（15～64 歳）を上回る推計となっています。

他の圏域に比べて高齢化率の進展は緩やかな傾向にはあるものの、他圏域よりも人口の母数が大きいことから、移動に制約を抱える高齢者の総数は他圏域に比べて多くなることが見込まれます。

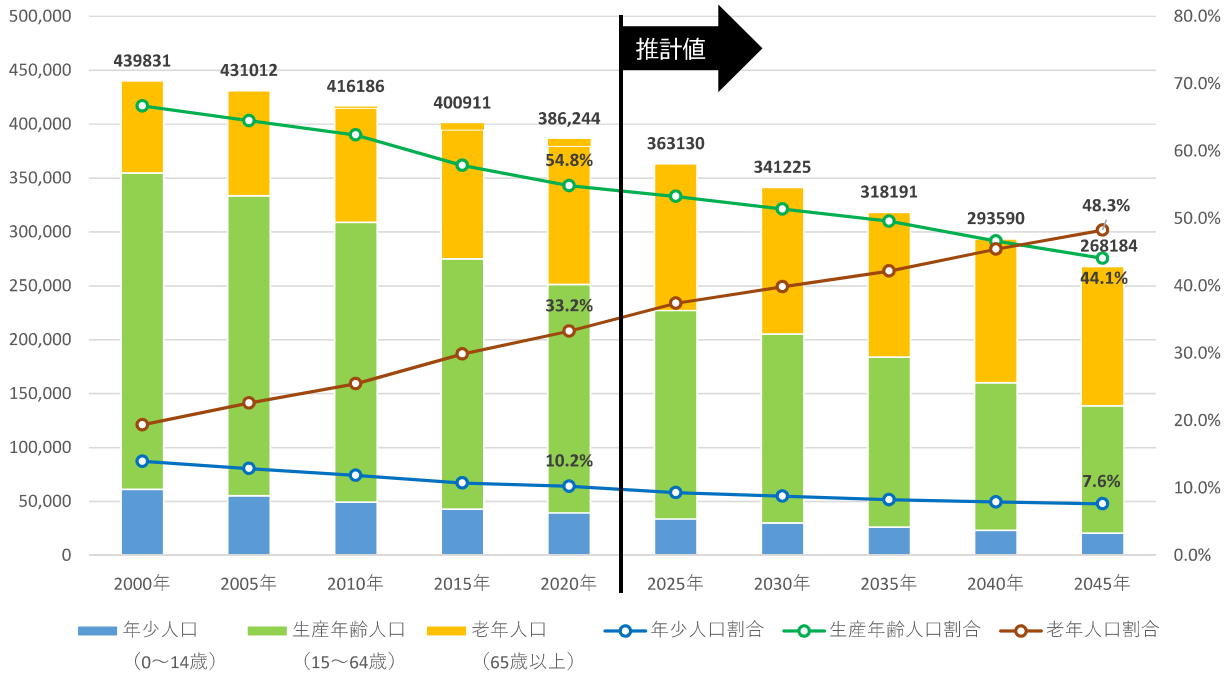



**図　圏域の人口及び年齢3区分人口の推移**

出典：国勢調査、日本の地域別将来推計人口（国立社会保障・人口問題研究所）

②人口分布(現状:2015)

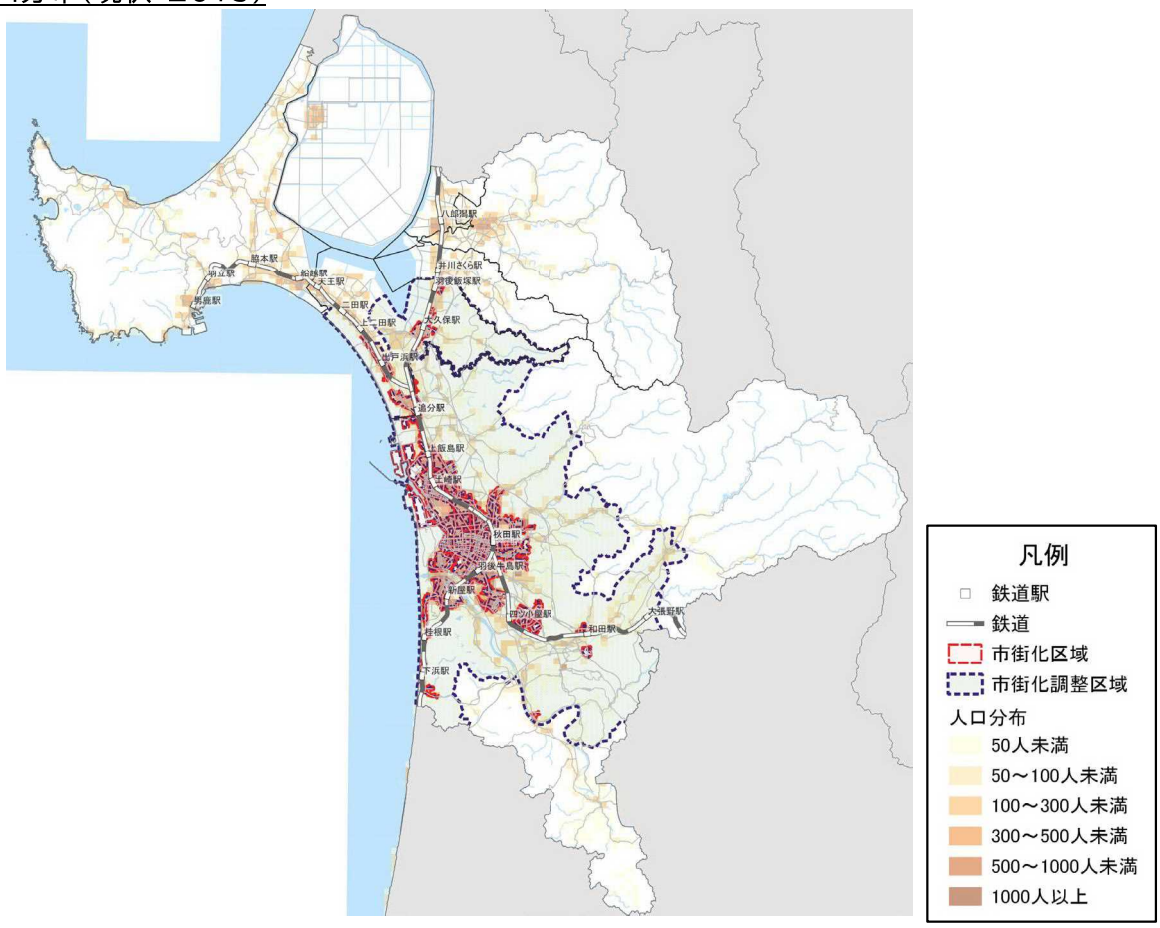



図　秋田圏域の人口分布(現状:2015)

出典：国勢調査

③高齢化率(65 歳以上)の人口分布(現状:2015)

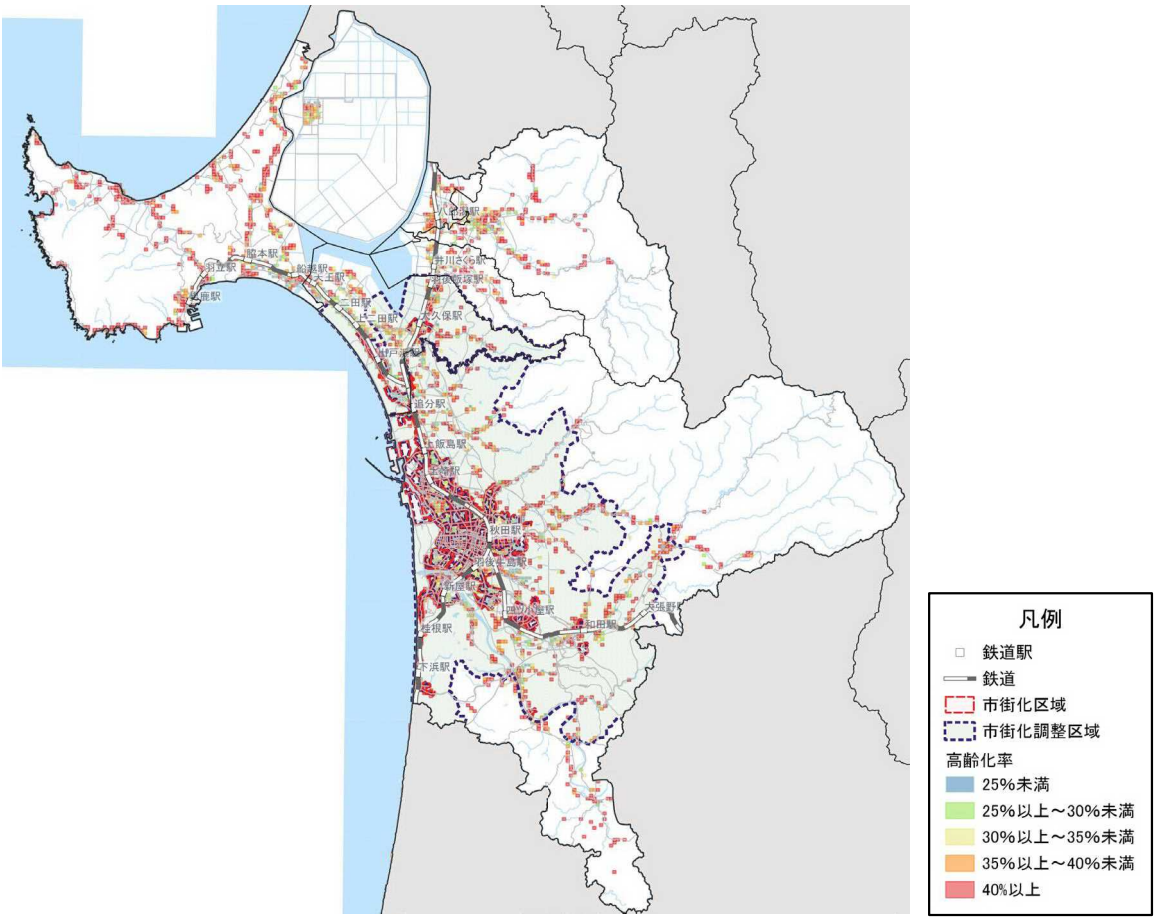



図　秋田圏域の高齢化率(65 歳以上)の人口分布(現状:2015)

出典：国勢調査

## （4）由利圏域

### ①人口推移

由利圏域では、2040 年（令和 22 年）に老年人口（65 歳以上）が生産年齢人口（15～64 歳）を上回る推計となっています。

また、2045 年（令和 27 年）には総人口が 6 万人を下回るほか、高齢化率は 50.3%、住民 2 人に 1 人以上が 65 歳以上となり、移動に制約の大きい高齢者が増加することが見込まれます。

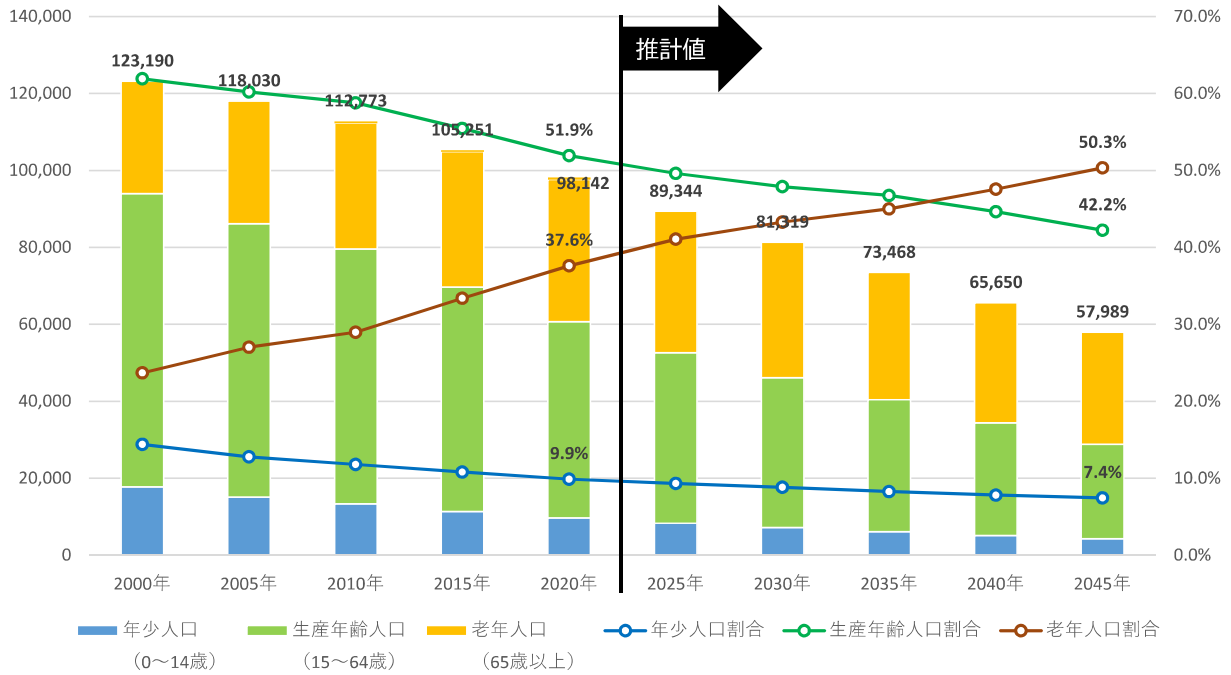



**図　圏域の人口及び年齢3区分人口の推移**

出典：国勢調査、日本の地域別将来推計人口（国立社会保障・人口問題研究所）

②人口分布(現状:2015)

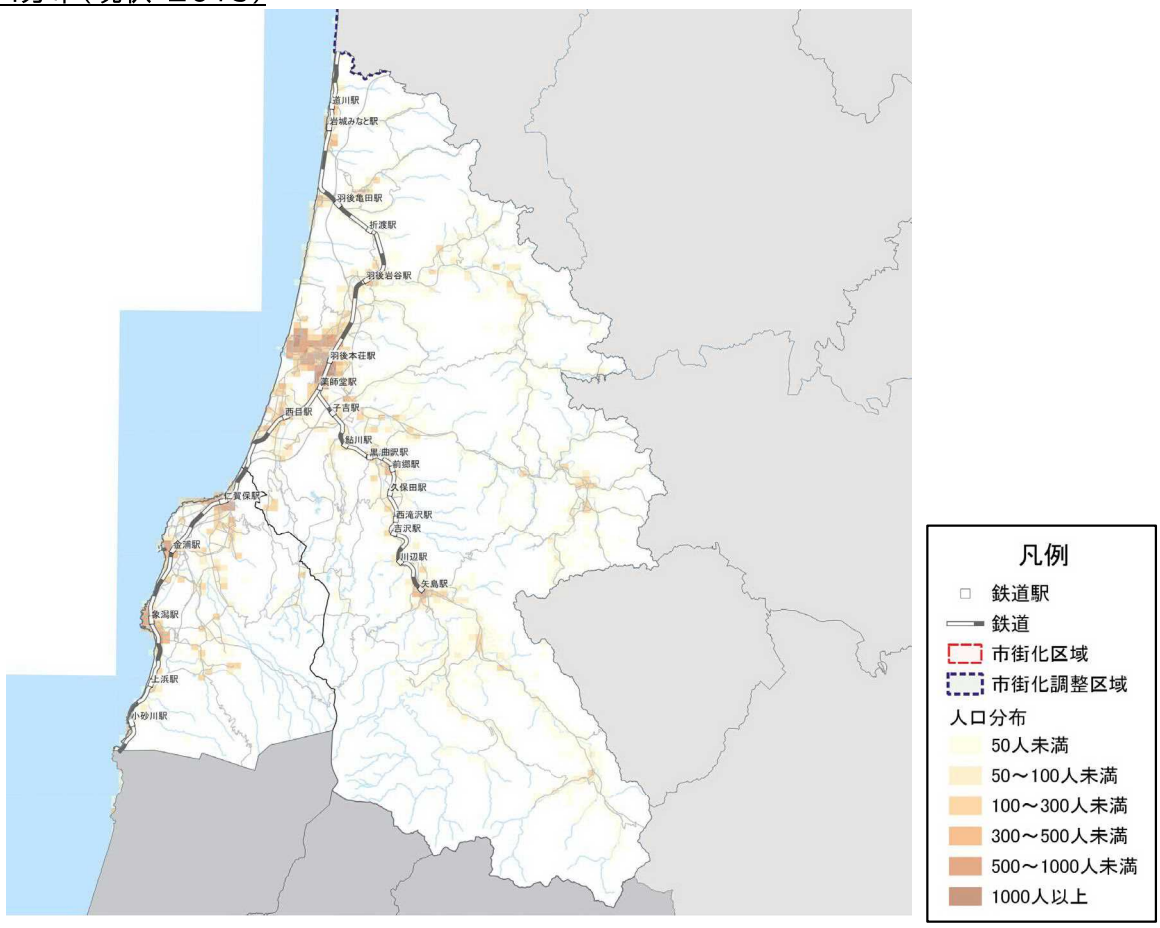



**図　由利圏域の人口分布(現状:2015)**

出典：国勢調査

③高齢化率(65 歳以上)の人口分布(現状:2015)

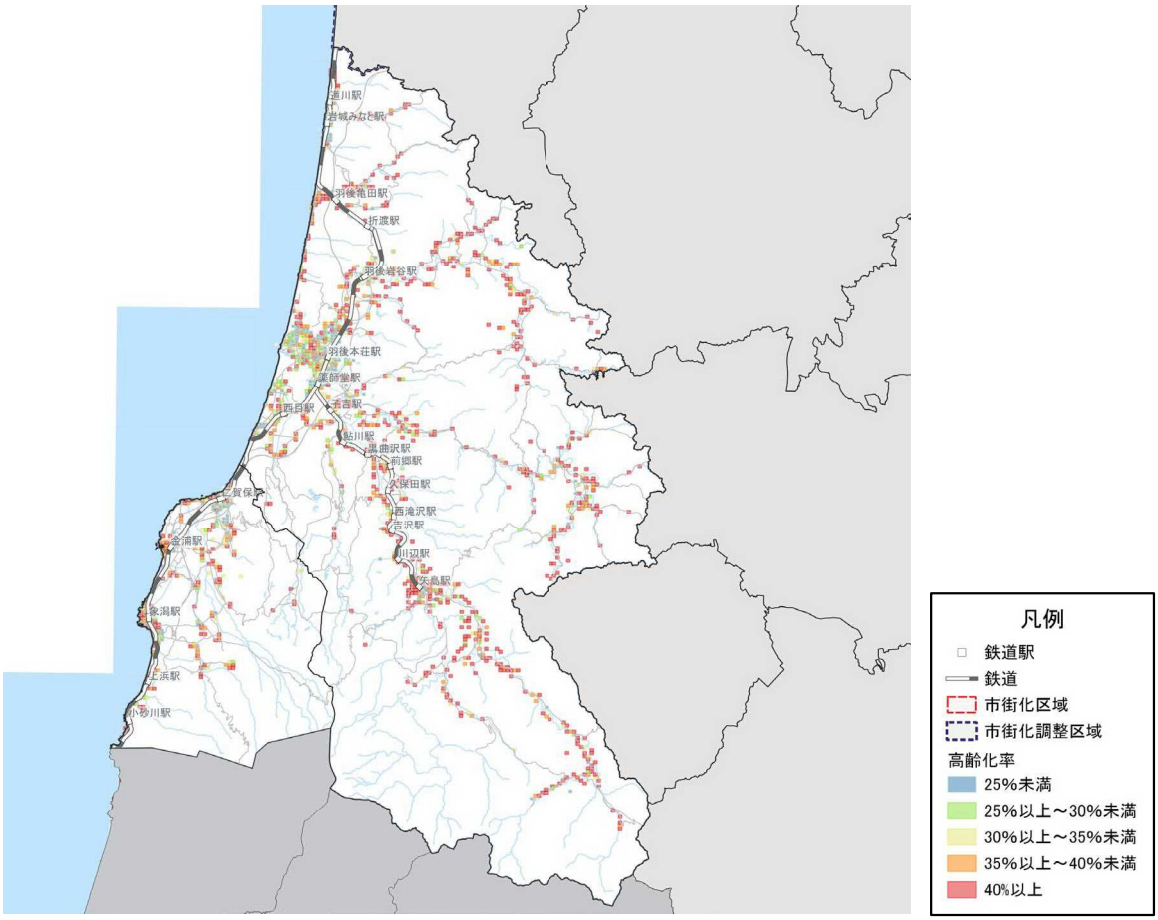



**図　由利圏域の高齢化率(65 歳以上)の人口分布(現状:2015)**

出典：国勢調査

## （5）仙北圏域

### ①人口推移

仙北圏域では、2040 年（令和 22 年）に老年人口（65 歳以上）が生産年齢人口（15～64 歳）を上回る推計となっています。

2045 年（令和 27 年）の高齢化率は 48.6％と、圏域別では秋田圏域に次いで低いものの、秋田圏域に比べて人口規模が小さいことから、高齢者等の移動を支援する生産年齢人口も減少していくことが見込まれます。

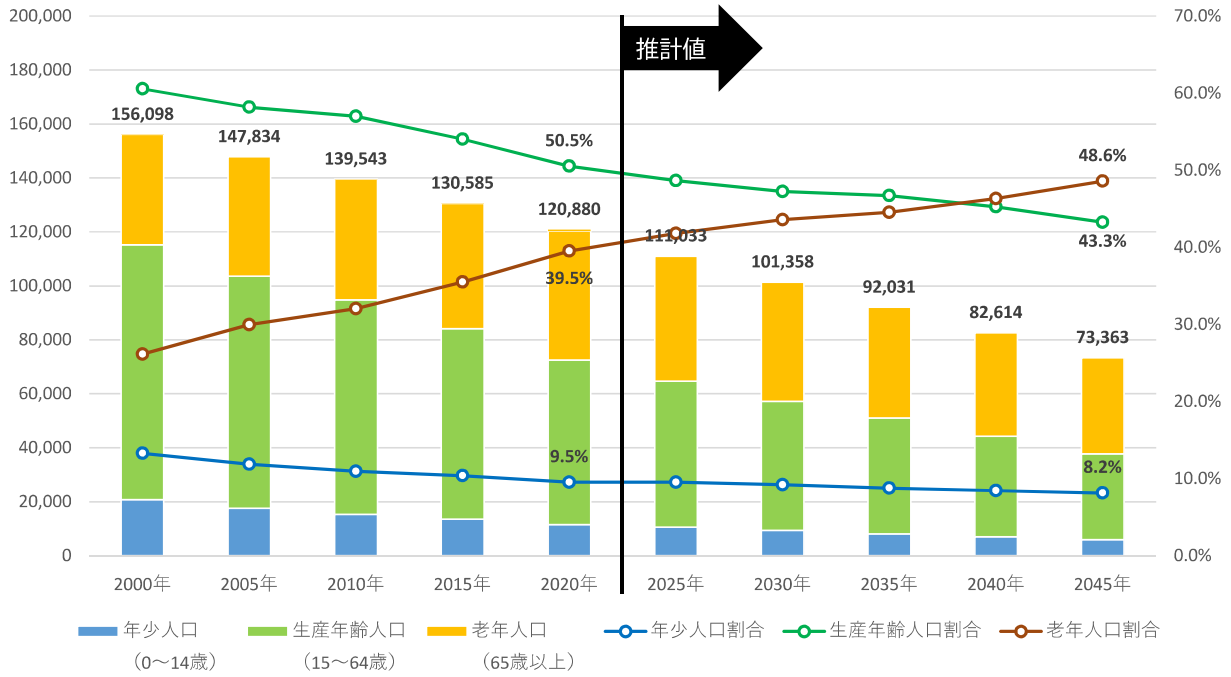



**図　圏域の人口及び年齢3区分人口の推移**

出典：国勢調査、日本の地域別将来推計人口（国立社会保障・人口問題研究所）

②人口分布(現状:2015)

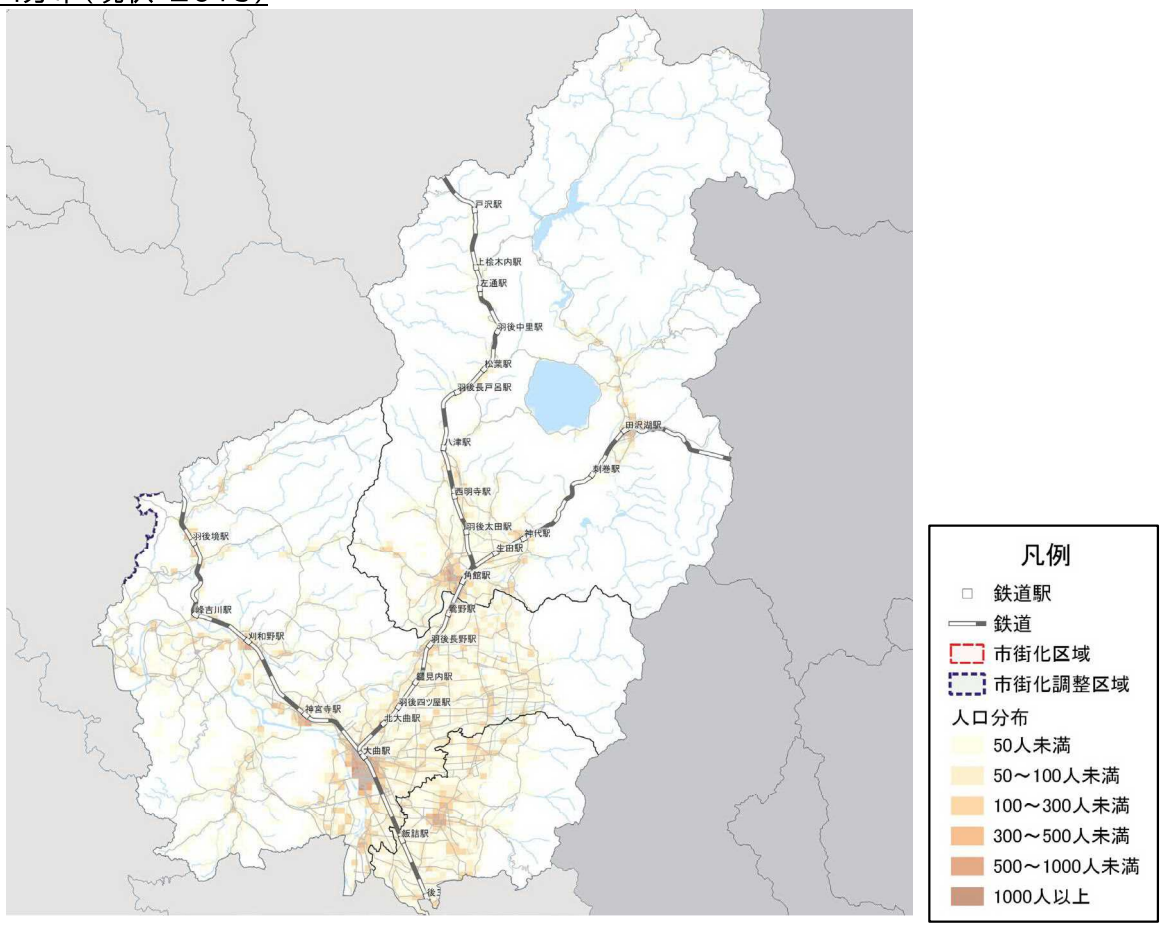



図　仙北圏域の人口分布(現状:2015)

出典：国勢調査

③高齢化率(65 歳以上)の人口分布(現状:2015)

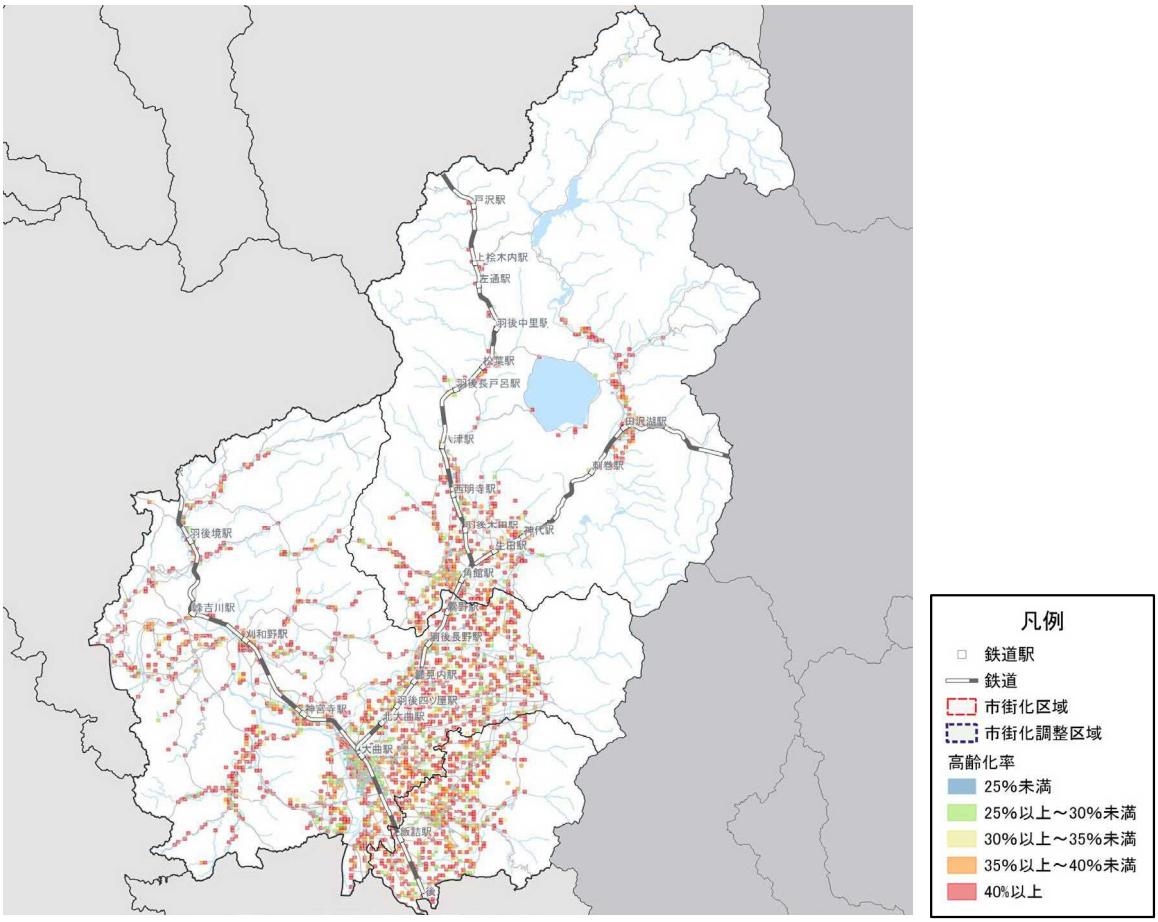



図　仙北圏域の高齢化率(65 歳以上)の人口分布(現状:2015)

出典：国勢調査

## (6)平鹿・雄勝圏域

①人口推移

平鹿・雄勝圏域では、2030 年（令和 12 年）に老年人口（65 歳以上）が生産年齢人口（15～64 歳）を上回り、山本圏域に次ぐ早いペースで高齢化が進展することが見込まれます。

また、2045 年（令和 27 年）には総人口が 9 万人を下回るほか、高齢化率は 52.5%、住民 2 人に 1 人以上が 65 歳以上となり、移動に制約の大きい高齢者が増加することが見込まれます。

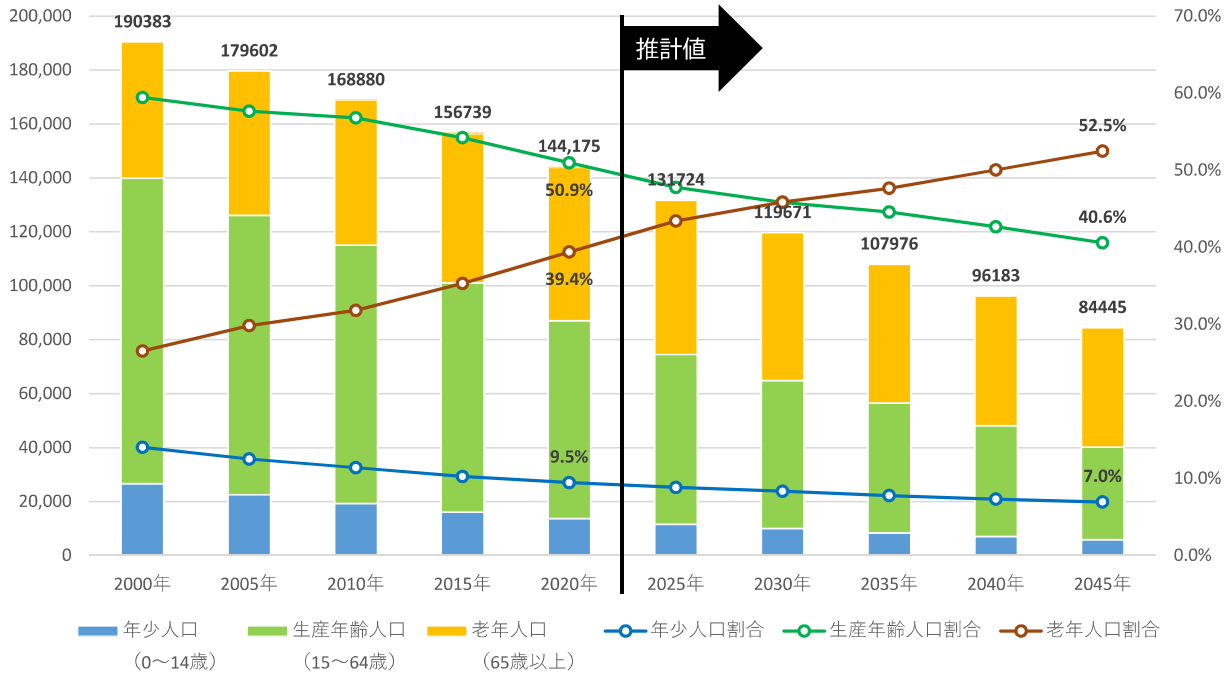



**図　圏域の人口及び年齢3区分人口の推移**

出典：国勢調査、日本の地域別将来推計人口（国立社会保障・人口問題研究所）

②人口分布(現状:2015)

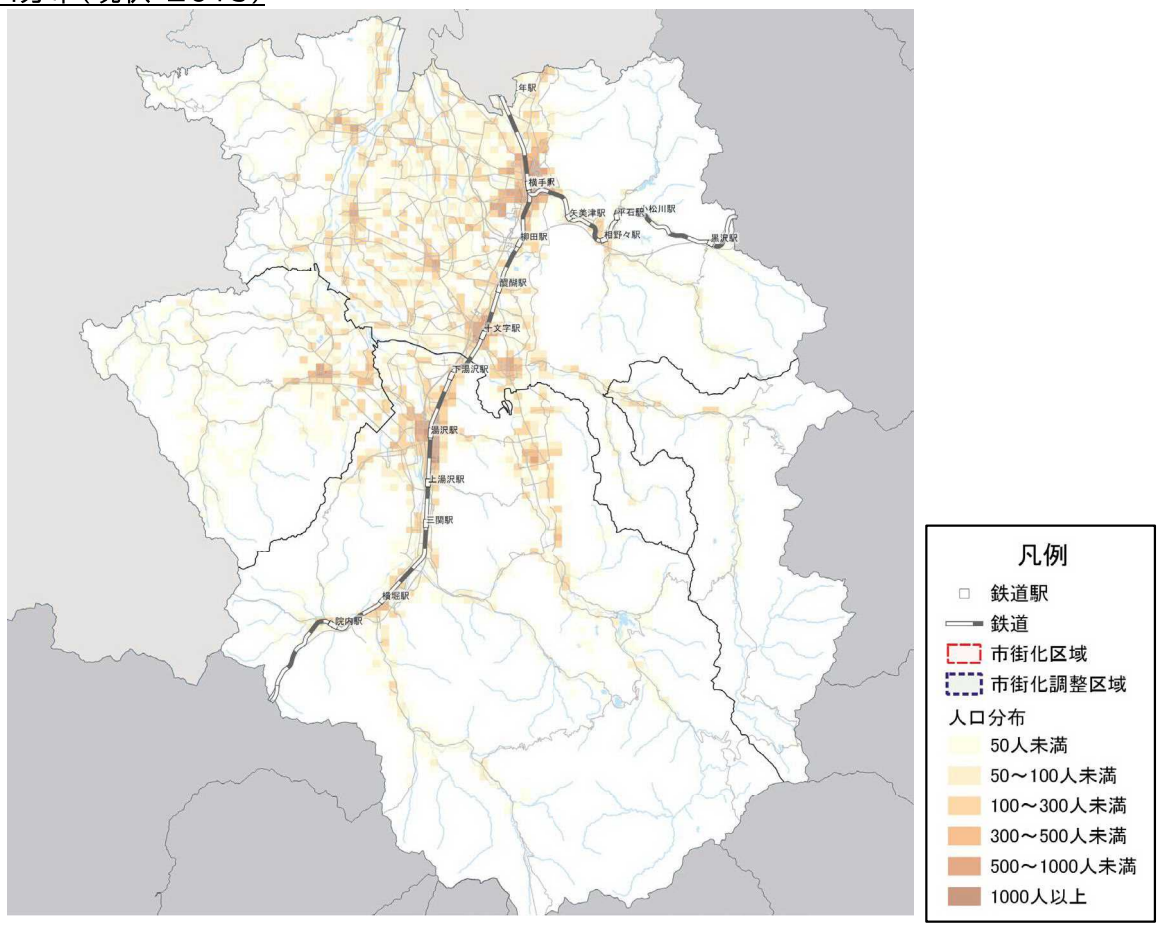



**図　平鹿・雄勝圏域の人口分布(現状:2015)**

出典：国勢調査

③高齢化率(65 歳以上)の人口分布(現状:2015)

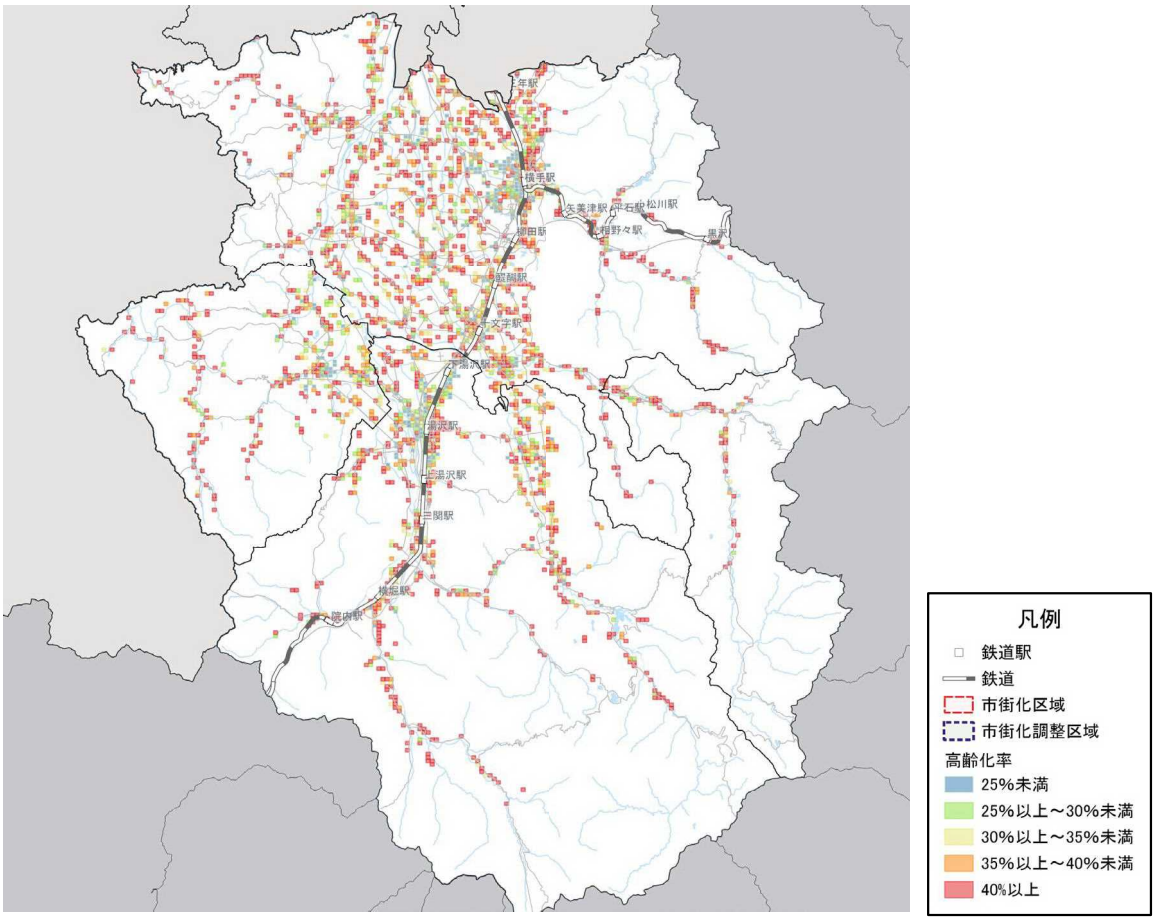



**図　平鹿・雄勝圏域の高齢化率(65 歳以上)の人口分布(現状:2015)**

出典：国勢調査

## 1-6 移動特性

### (1)通勤目的での移動

①市町村間の移動実態

○鹿角･北秋田圏域

5 市町村とも、居住する自治体内での移動が最も多い状況ですが、小坂町では通勤者の約 20%が鹿角市へ、約 10%が大館市へ、上小阿仁村では約 29%が北秋田市へ移動しているなど、市町村を跨いだ移動が発生しています。

また、割合としては少ないながらも、大館市と小坂町から青森県へ、鹿角市から岩手県への移動も一定程度みられる状況となっています。

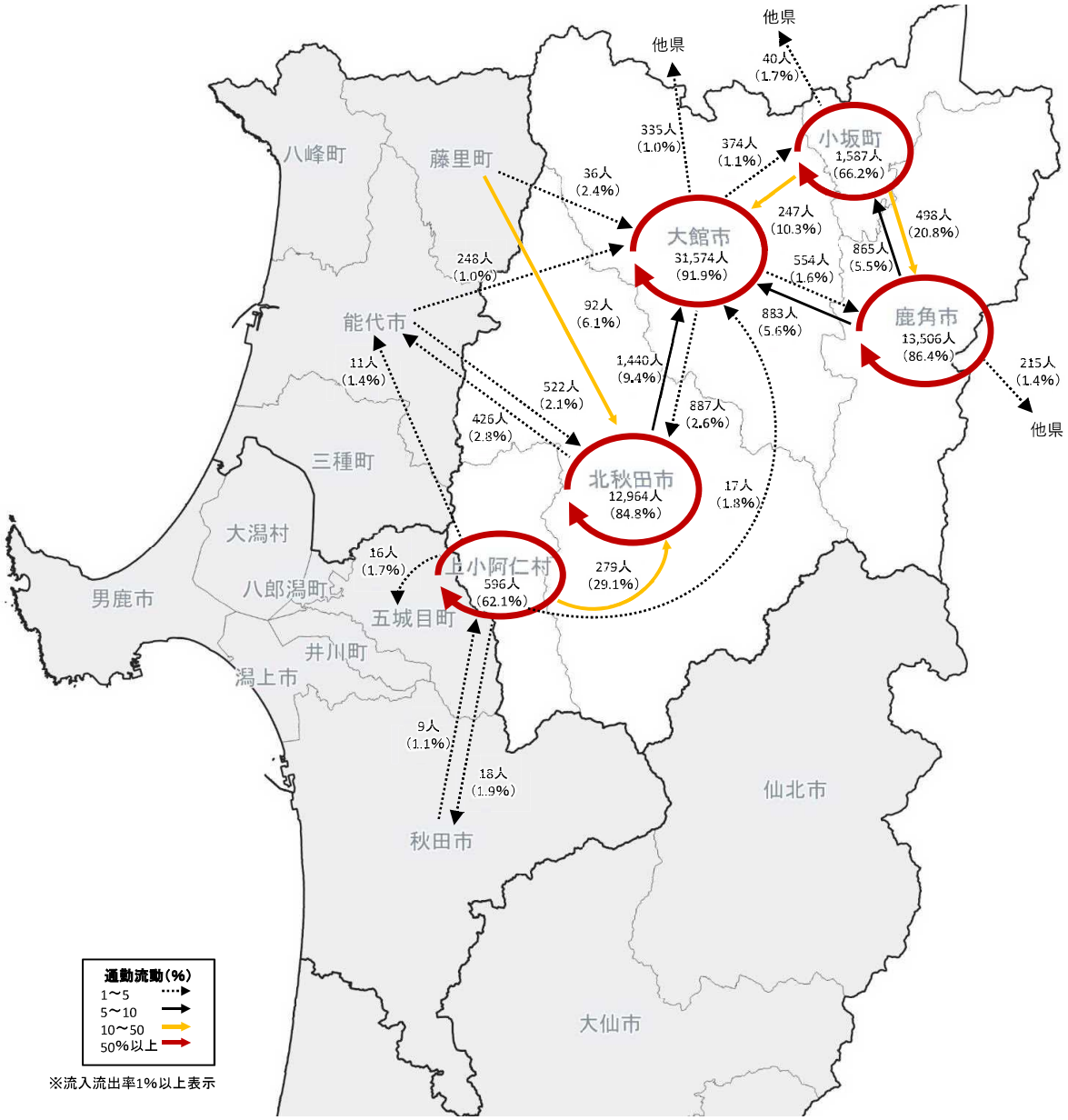
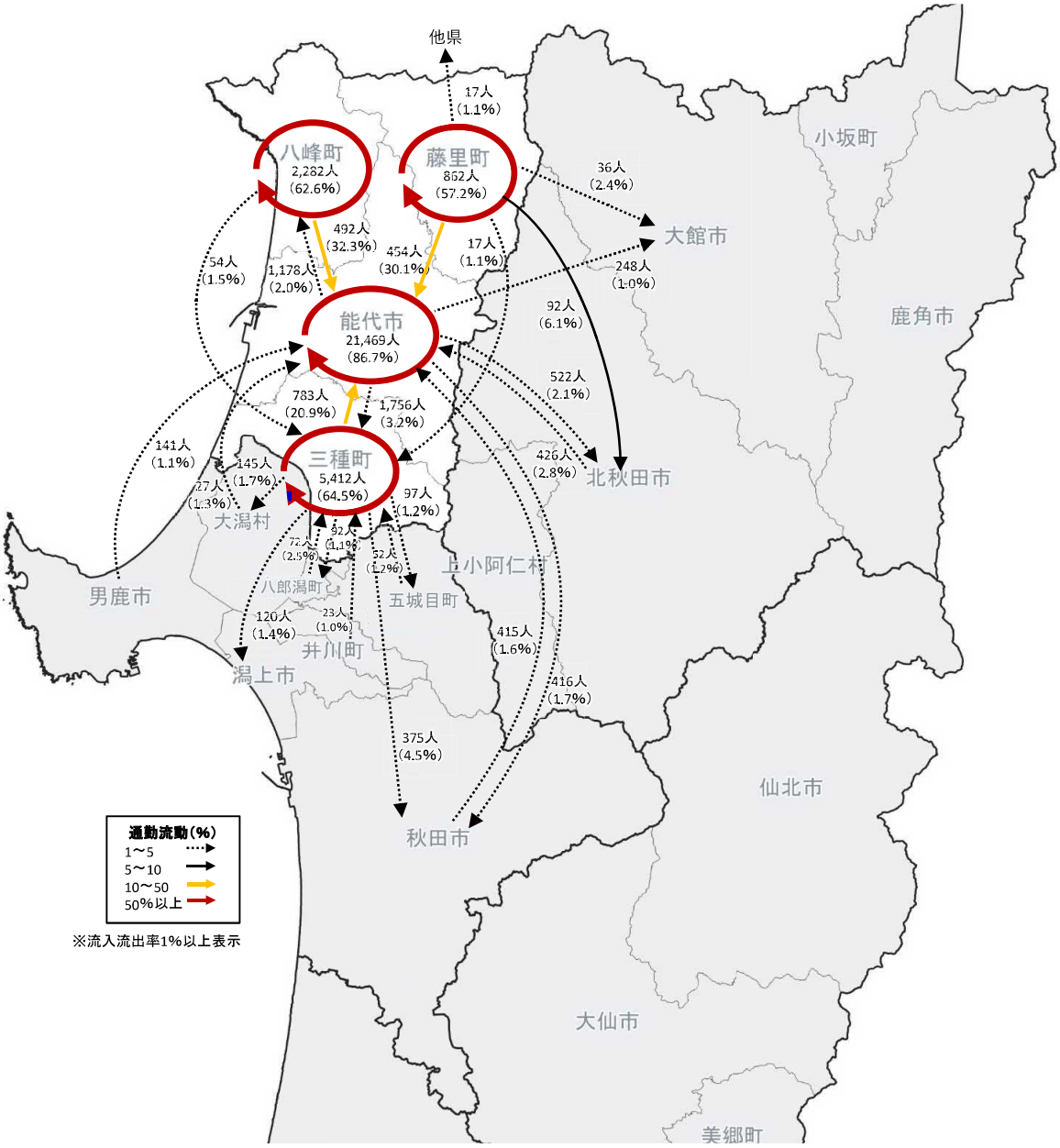



図 鹿角･北秋田圏域の通勤流動(2015)

出典：国勢調査

○山本圏域

4 市町とも、居住する自治体内での移動が最も多い状況ですが、藤里町では通勤者の約 30%、八峰町では約 32%、三種町では約 21%が能代市へ移動しているほか、割合としては少ないものの、各市町から北秋田圏域や秋田圏域への移動も一定程度みられる状況となっています。



○秋田圏域

7 市町村とも、居住する自治体内での移動が最も多い状況ですが、周辺市町村から秋田市への移動割合が高いなど、他の圏域に比べて市町村を跨いだ移動が多く発生しています。特に潟上市では、市内での移動が約 43%に対し、秋田市への移動も約 40%とほぼ同水準となっています。

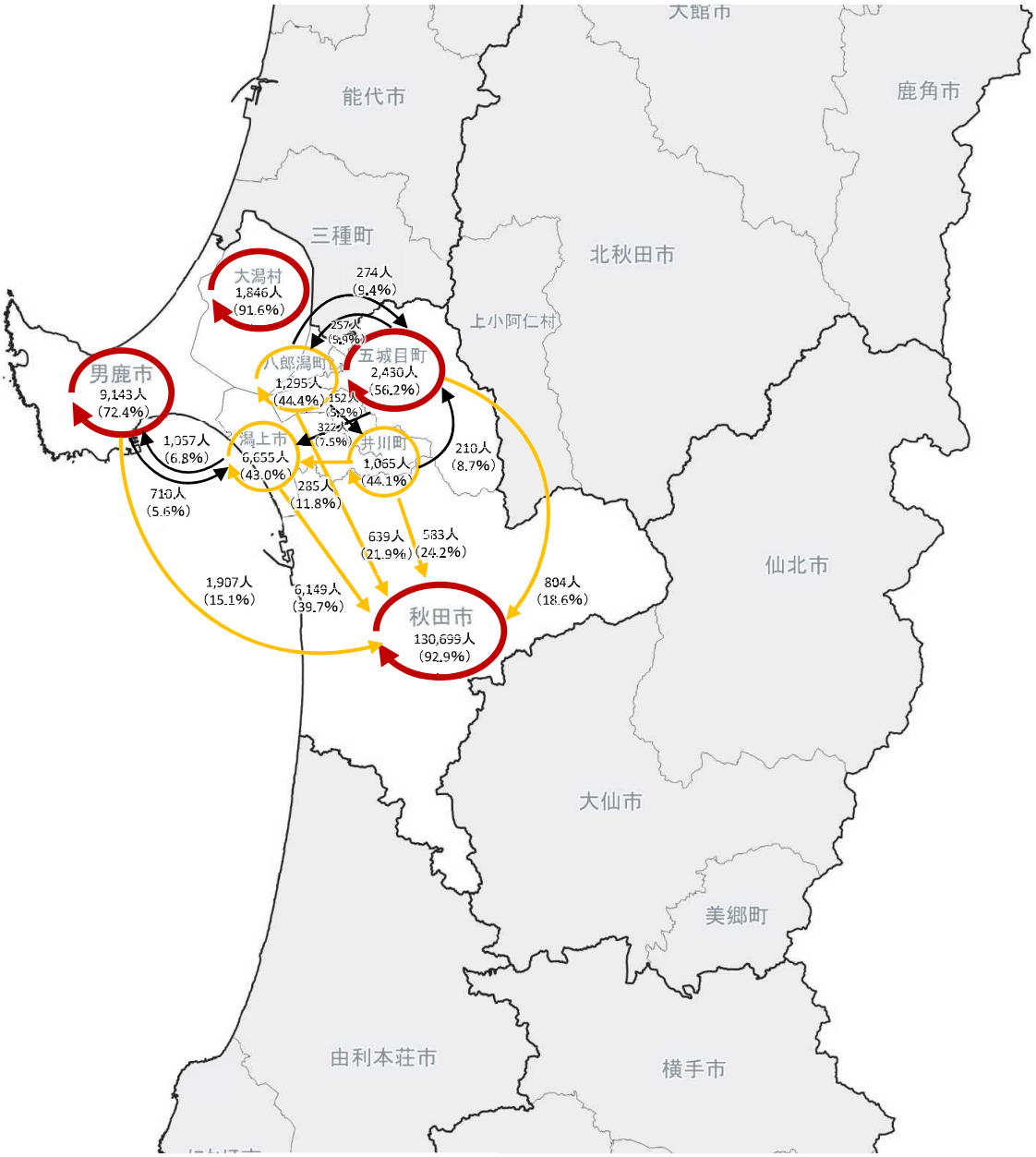



**図 秋田圏域の通勤流動(2015)**

出典：国勢調査

○由利圏域

2 市とも、それぞれの市内での移動が最も多い状況ですが、にかほ市から約 18%の通勤者が由利本荘市へ移動しているなど、市域を跨いだ移動が発生しているほか、割合は少ないものの、由利本荘市から秋田市への移動も一定程度みられる状況となっています。

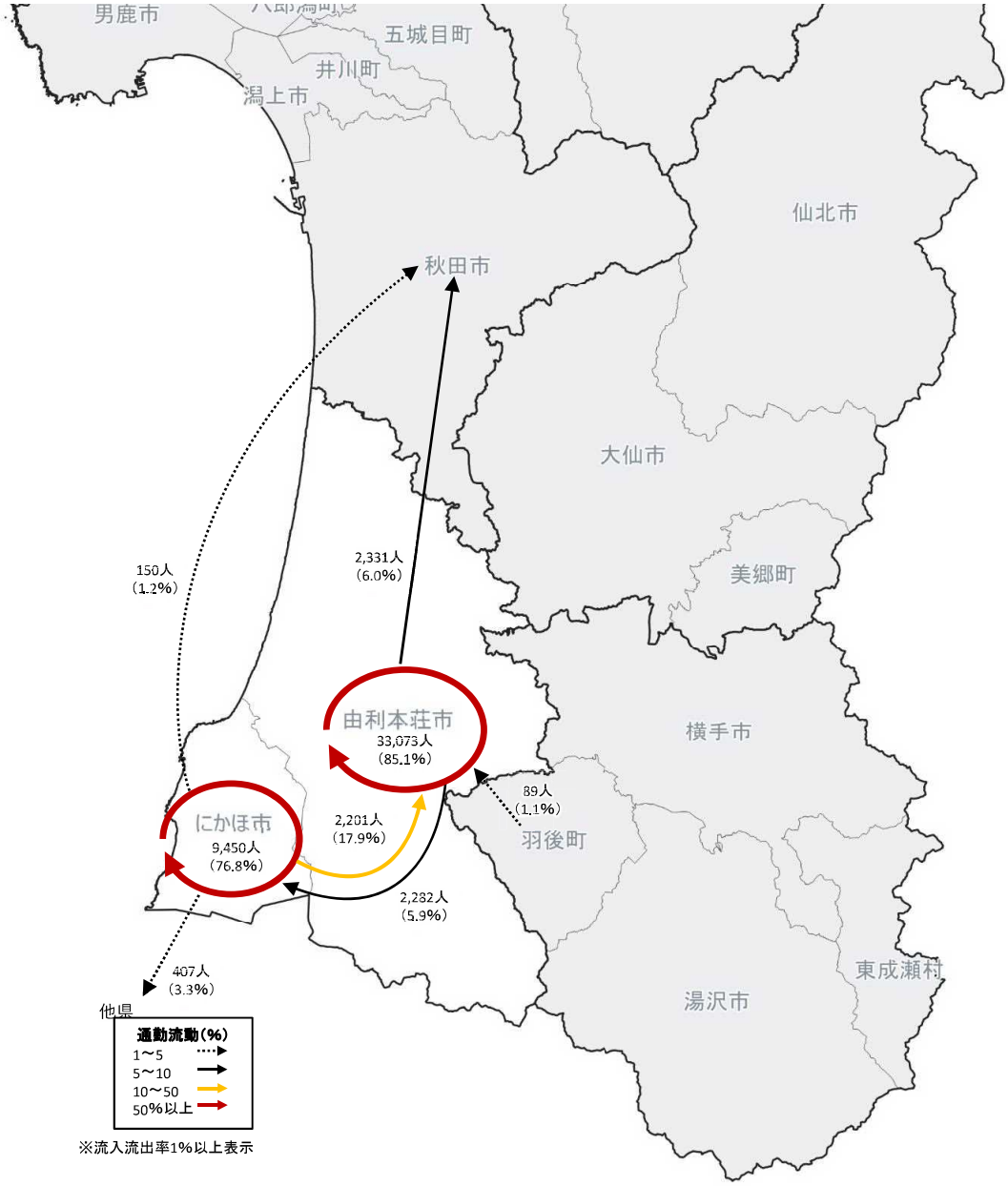



**図 由利圏域の通勤流動(2015)**

出典：国勢調査

○仙北圏域

3 市町とも、居住する自治体内での移動が最も多い状況ですが、美郷町では通勤者の約 28%、仙北市では 12%が大仙市に移動しているなど、大仙市を中心に市町間を跨いだ移動が発生しています。

また、美郷町では通勤者の約 12%が横手市へ移動しているなど、圏域を跨いだ移動も一定程度みられる状況となっています。

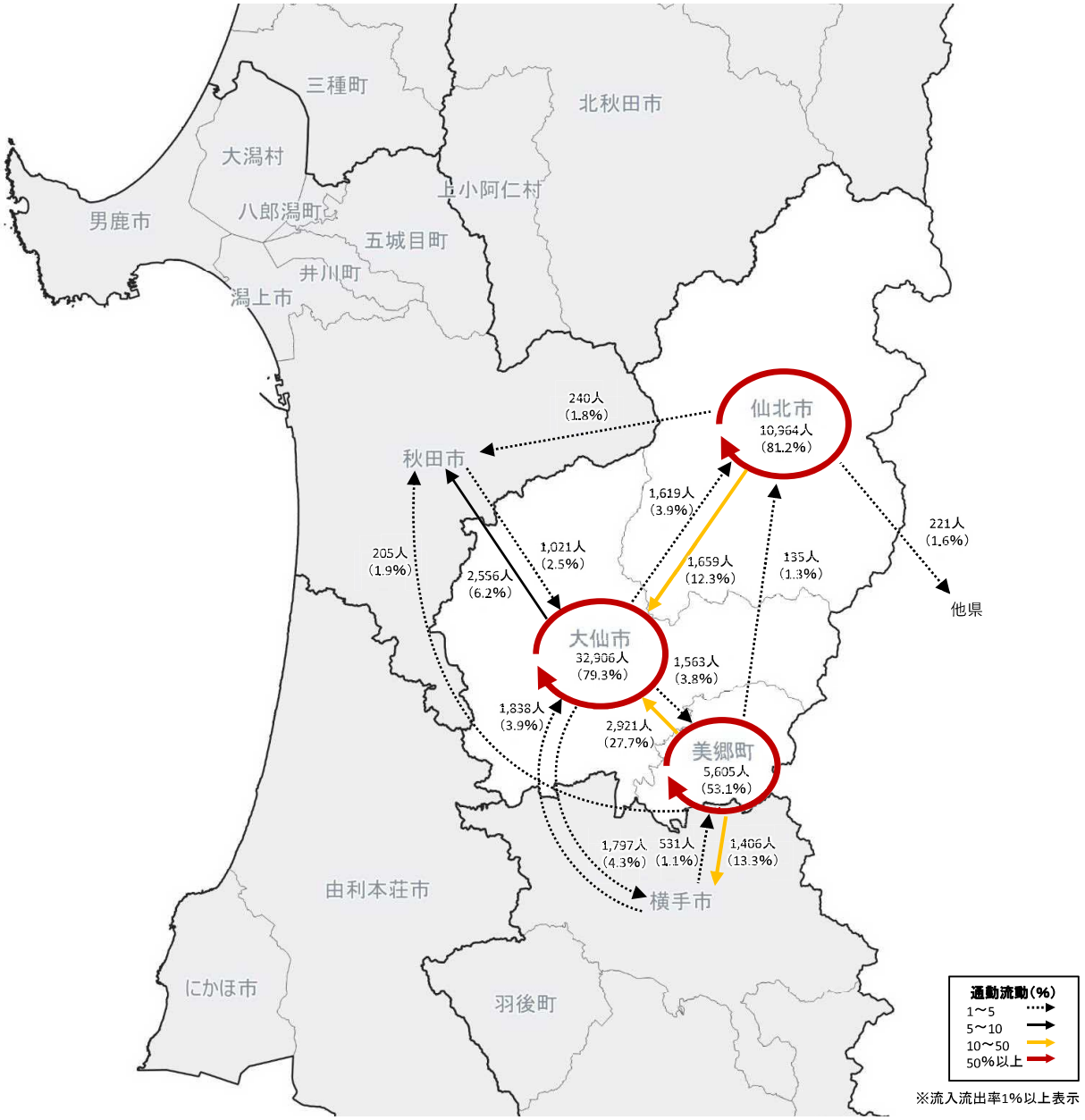



**図 仙北圏域の通勤流動(2015)**

出典：国勢調査

○平鹿・雄勝圏域

4 市町村とも、居住する自治体内での移動が最も多くなっていますが、羽後町では通勤者の約 22%が湯沢市へ、約 11%が横手市へ、東成瀬村では通勤者の約 30%が横手市へ、約 12%が湯沢市へ移動しているなど、町村から２市への移動が発生しています。

また、湯沢市の通勤者の約 12%が横手市へ、横手市の約 5%が湯沢市へ移動しており、2 市間での移動も一定程度みられる状況となっています。

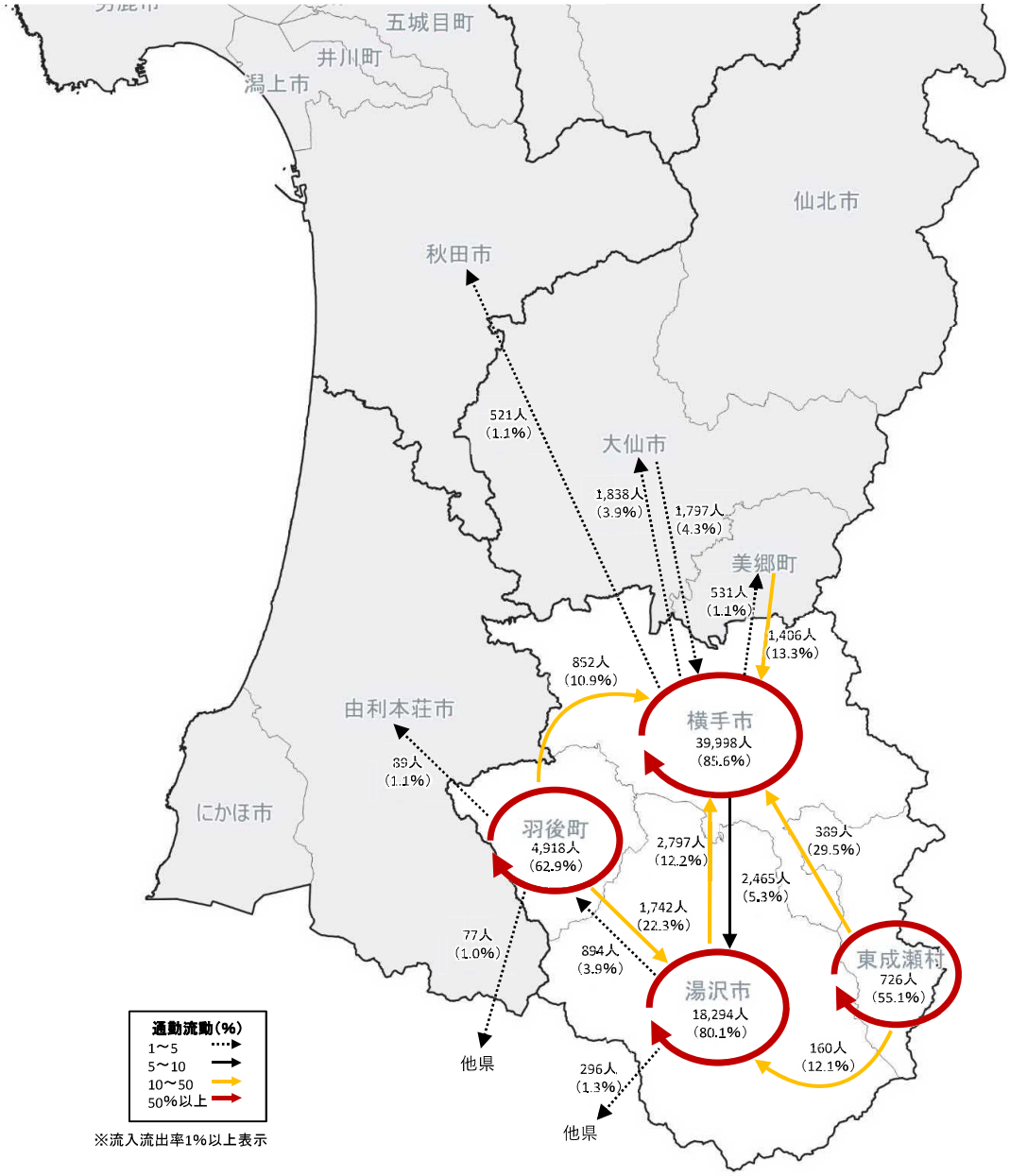



**図　平鹿・雄勝圏域の通勤流動(2015)**

出典：国勢調査

②移動手段

県民アンケート結果によれば、通勤・通学時の移動手段として、20～80 歳代では「自家用車（自分で運転）」と「友人、家族等の送迎」が 8～9 割以上を占めており、乗合バス等や鉄道などの地域公共交通の利用は極めて少ない状況です。

また、全ての世代において、乗合バス等や鉄道などの地域公共交通を利用する割合も一定数あるものの、全体に占める割合としては低く、自家用車（自分で運転、もしくは送迎）による移動が日常化している実態となっています。

圏域別でも同様の傾向にありますが、特に秋田圏域では、他の圏域に比べて、60 歳代以上の年齢層で乗合バス等の割合が増加する傾向となっています。

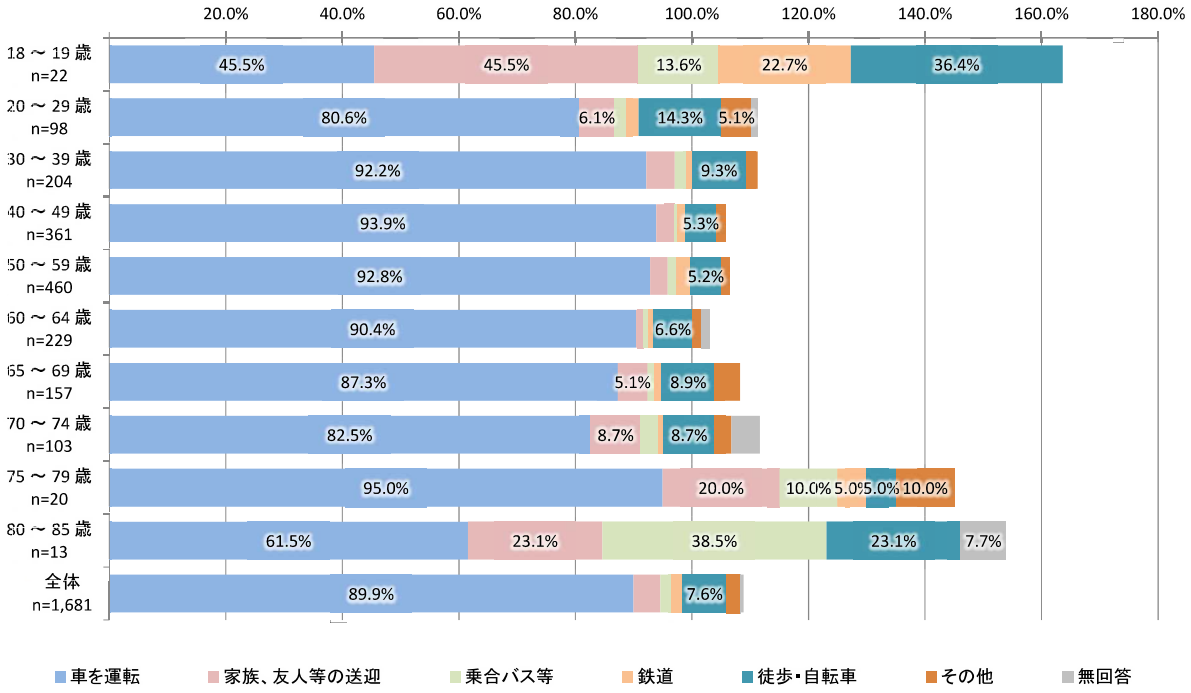



**図　年齢別通勤・通学時の移動手段（県全体）**

出典：県民アンケート調査（R3 実施）

※5%未満非表示

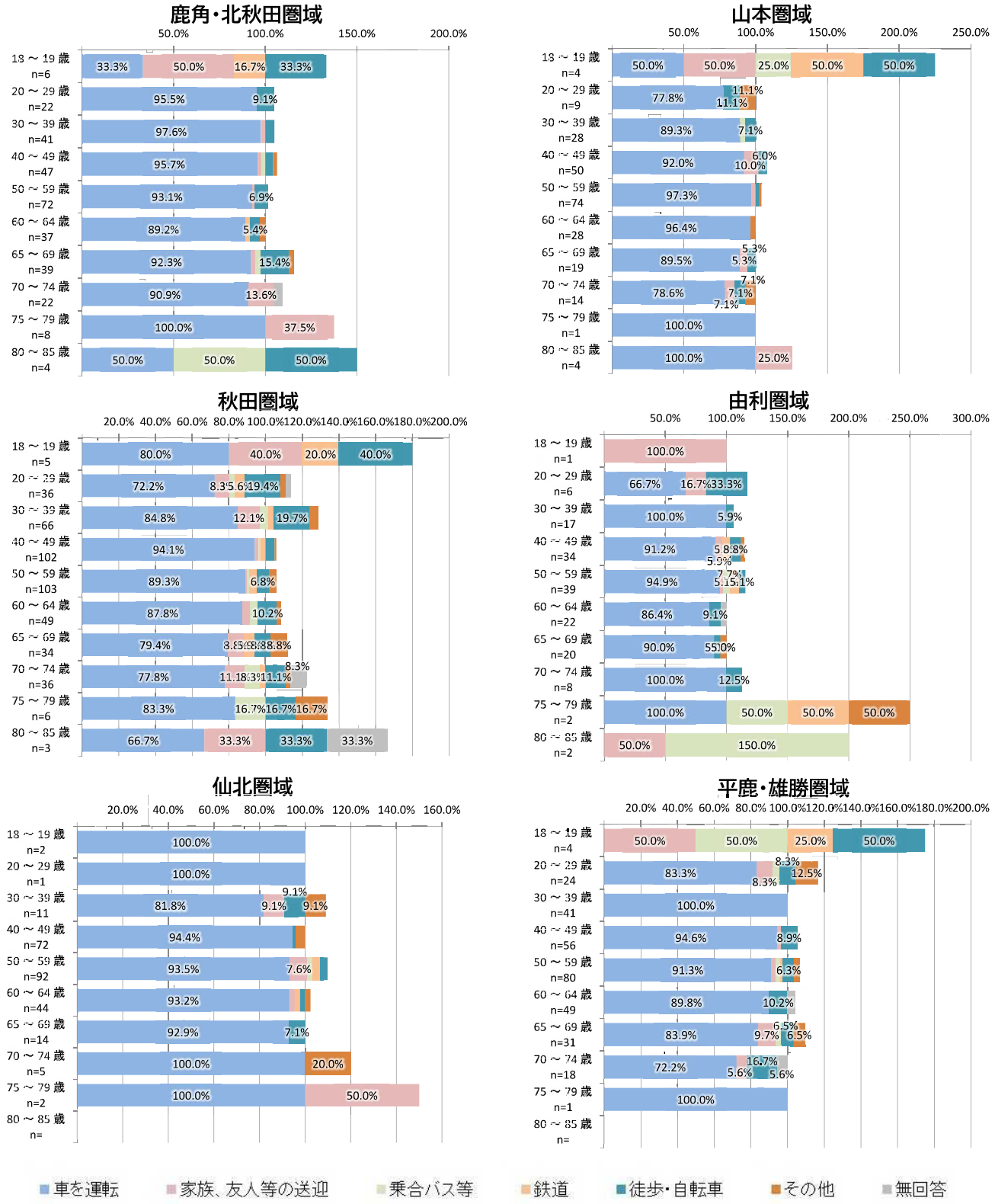



**図　圏域別年齢別通勤・通学時の移動手段**

出典：県民アンケート調査（R3 実施）

※5%未満非表示

## （2）通学目的での移動

※以下の集計は国勢調査によるものであり、15 歳以上の就学者を対象としているため、高校生だけではなく大学生なども含まれるほか、通信制なども対象となる。このため、市町村内に教育機関が立地していない場合でも移動が生じることがある。

### ①市町村間の移動実態

**○鹿角･北秋田圏域**

鹿角市、小坂町、大館市、北秋田市においては、それぞれ居住する自治体内での移動が最も多い状況ですが、上小阿仁村では村内での移動が約 7%と少なく、北秋田市や秋田市など村外への移動が多くなっています。小坂町では、通学者の約 34%が鹿角市へ移動しているなど、町内での移動に占める割合（約 36%）とほぼ同水準となっています。

また、割合は少ないものの、隣接する青森県や岩手県への移動が一定程度みられる状況となっています。

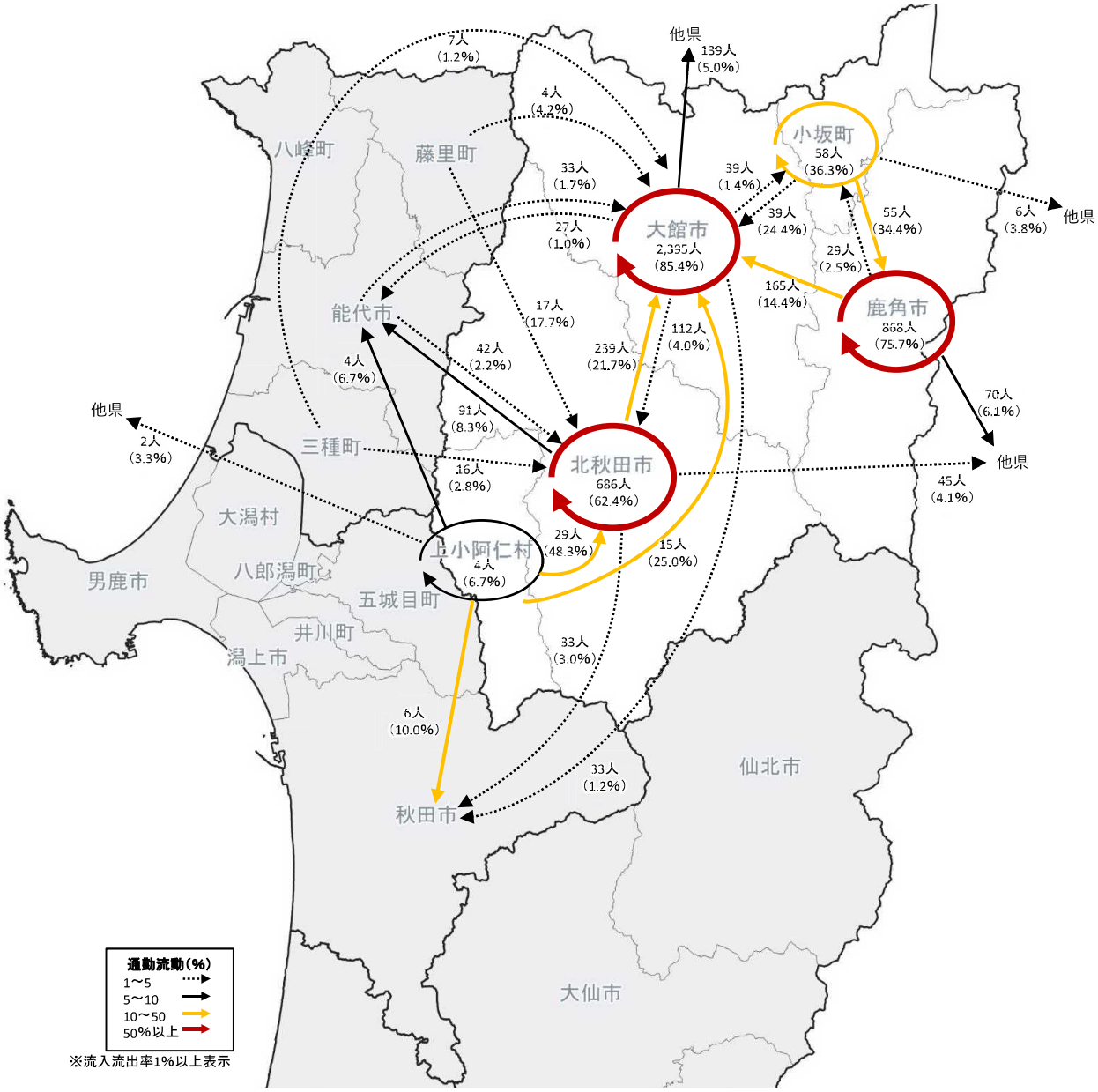



**図 鹿角･北秋田圏域の通学流動(2015)**

出典：国勢調査

○山本圏域

藤里町、八峰町、三種町の 3 町では、複数の教育機関が立地する能代市への移動が最も多くなっています。なお、三種町では通学者の約 18%が秋田市へ移動しているなど、他圏域への移動も発生しています。

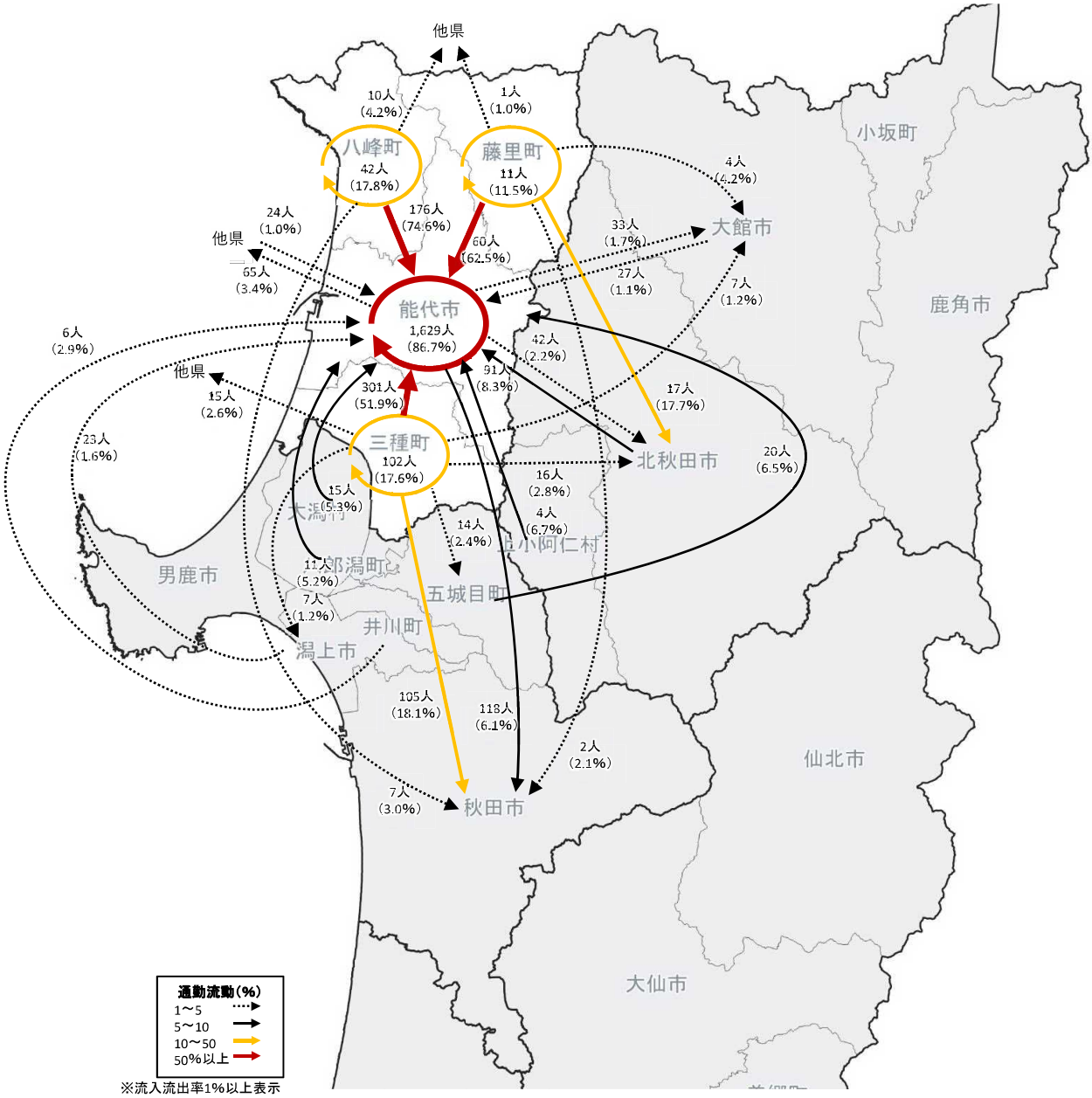



図 山本圏域の通学流動(2015)

出典：国勢調査

○秋田圏域

全ての市町村において、複数の教育機関が立地する秋田市への移動が最も多くなっています。また、井川町と八郎潟町から五城目高校が立地する五城目町への移動や、割合は少ないものの、大潟村、八郎潟町、五城目町から能代市への移動が発生しています。

このほか、秋田市には、由利圏域や仙北圏域（大仙市、美郷町）からの移動が発生しています。

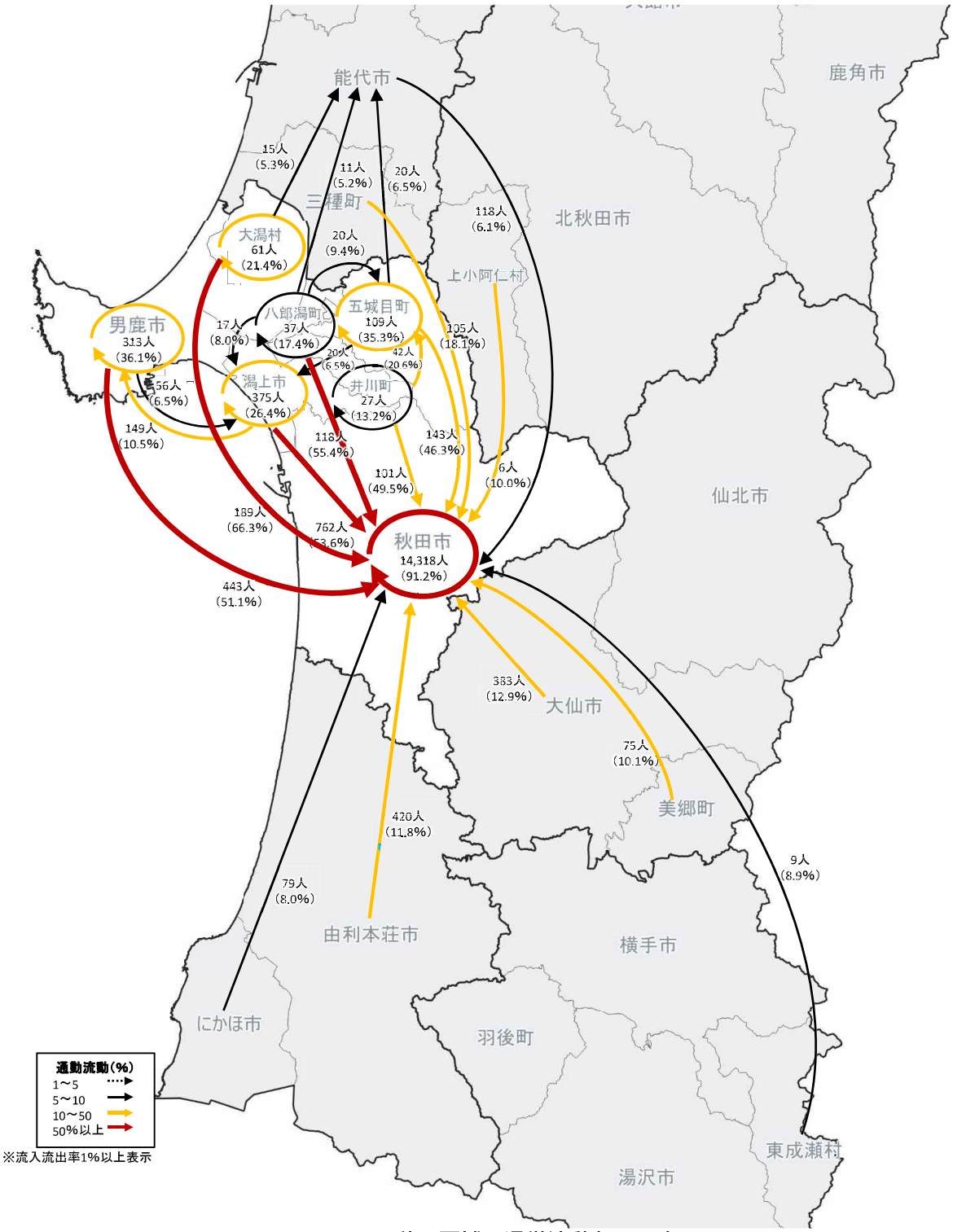



図　秋田圏域の通学流動(2015)

出典：国勢調査

○由利圏域

由利本荘市では、市内での移動が最も多くなっていますが、にかほ市では、通学者の約 43%が由利本荘市へ移動している状況となっています。

また、由利本荘市の約 12%が秋田市へ、にかほ市の約 7%が隣接する山形県等へ移動しているなど、圏域を超えた移動が発生しています。

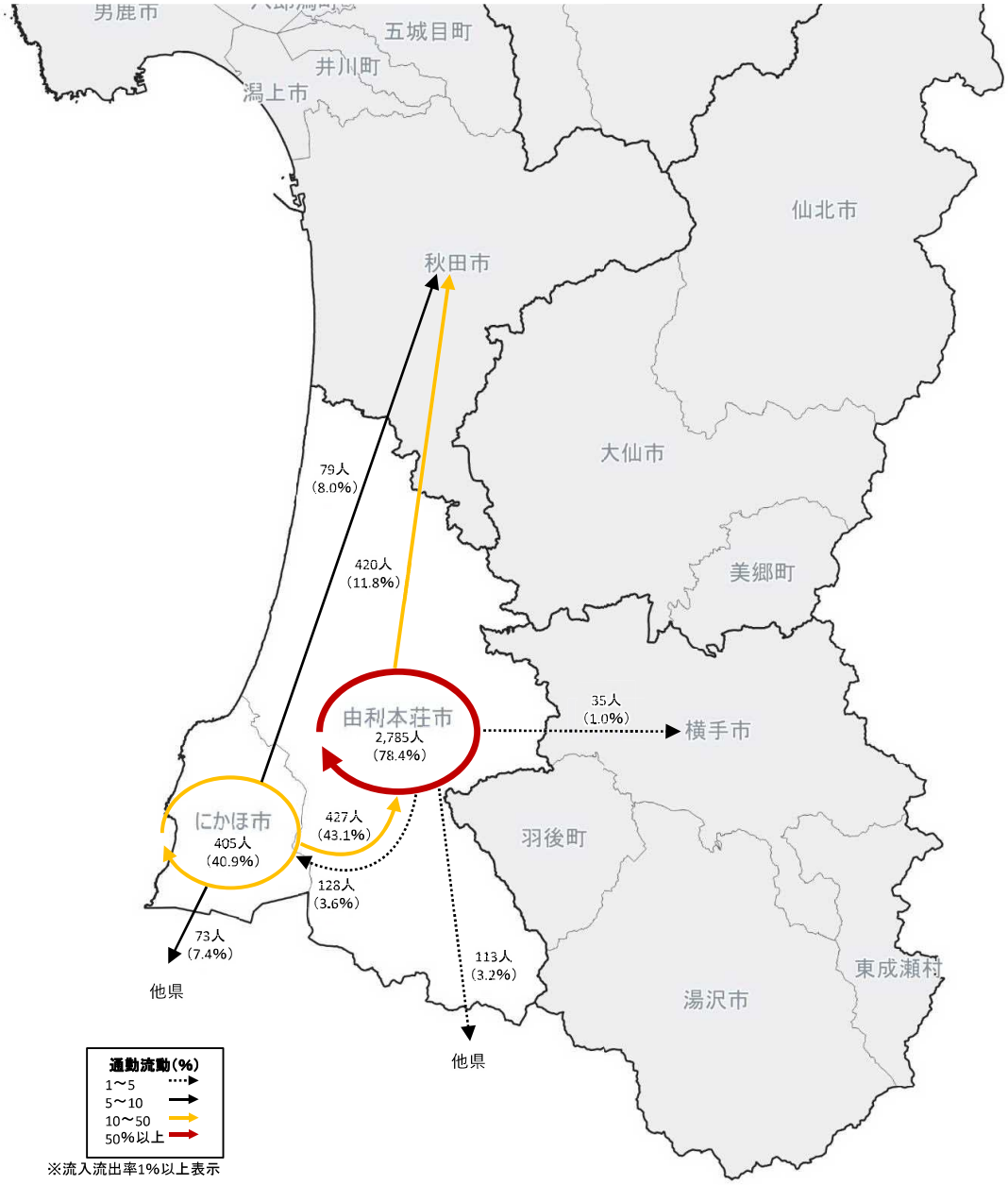



図 由利圏域の通学流動(2015)

出典：国勢調査

○仙北圏域

大仙市及び仙北市では、市内での移動が最も多い状況ですが、美郷町では通学者の約30%が大仙市へ、約20%が横手市へ移動しているなど、多くの通学者が市外へ移動している状況となっています。

また、仙北市の約11%が岩手県などの他県に移動しているなど、一定の割合で県を跨いだ移動が行われている状況となっています。

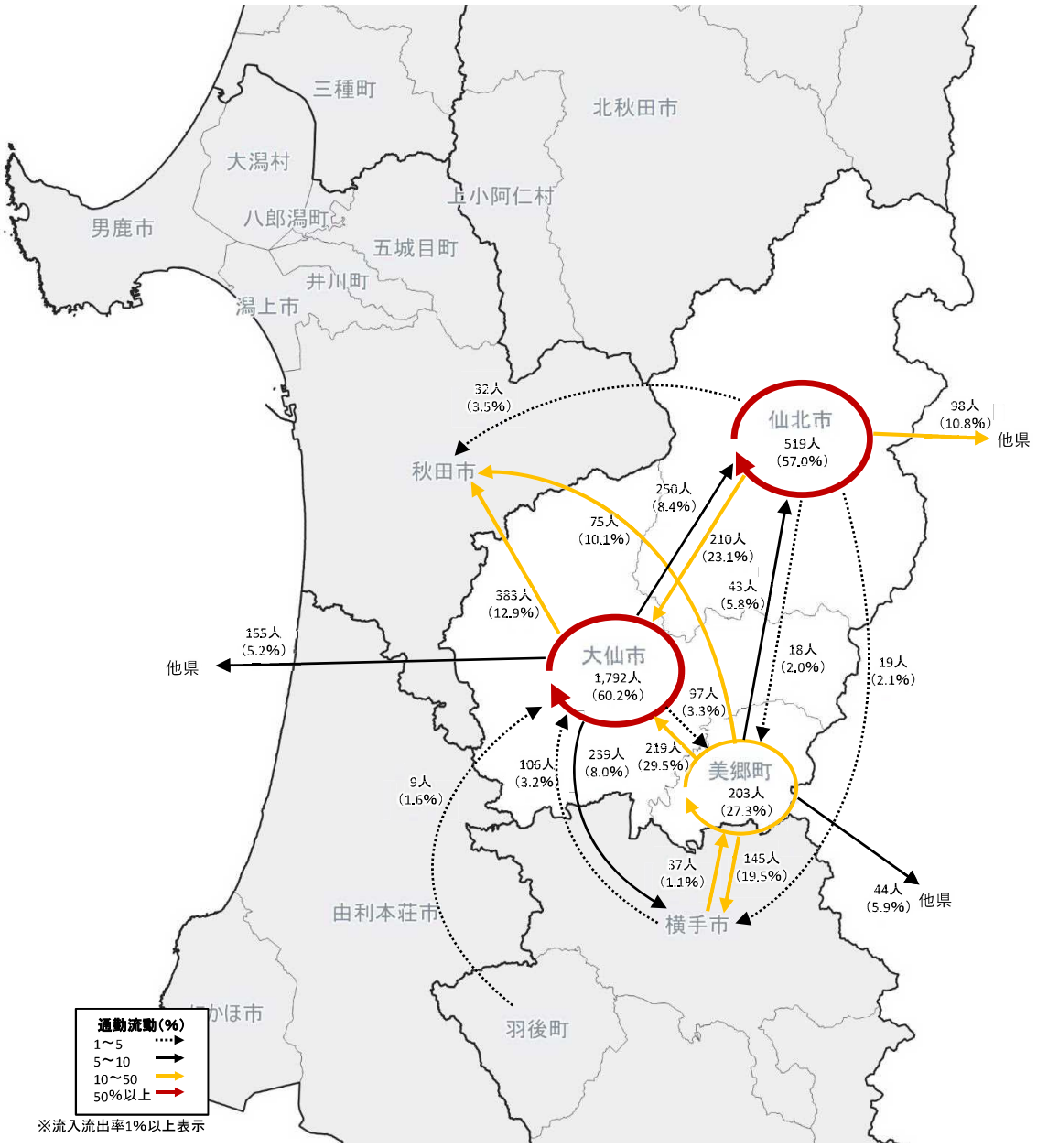



図　仙北圏域の通学流動(2015)

出典：国勢調査

○平鹿・雄勝圏域

横手市、湯沢市、羽後町では、居住する自治体内での移動が最も多くなっていますが、東成瀬村では、横手市への移動が約 43%、湯沢市への移動が約 29%など、村外への移動が多い傾向にあります。

また、羽後町でも、湯沢市への移動が約 39%と、町外への移動が発生しています。

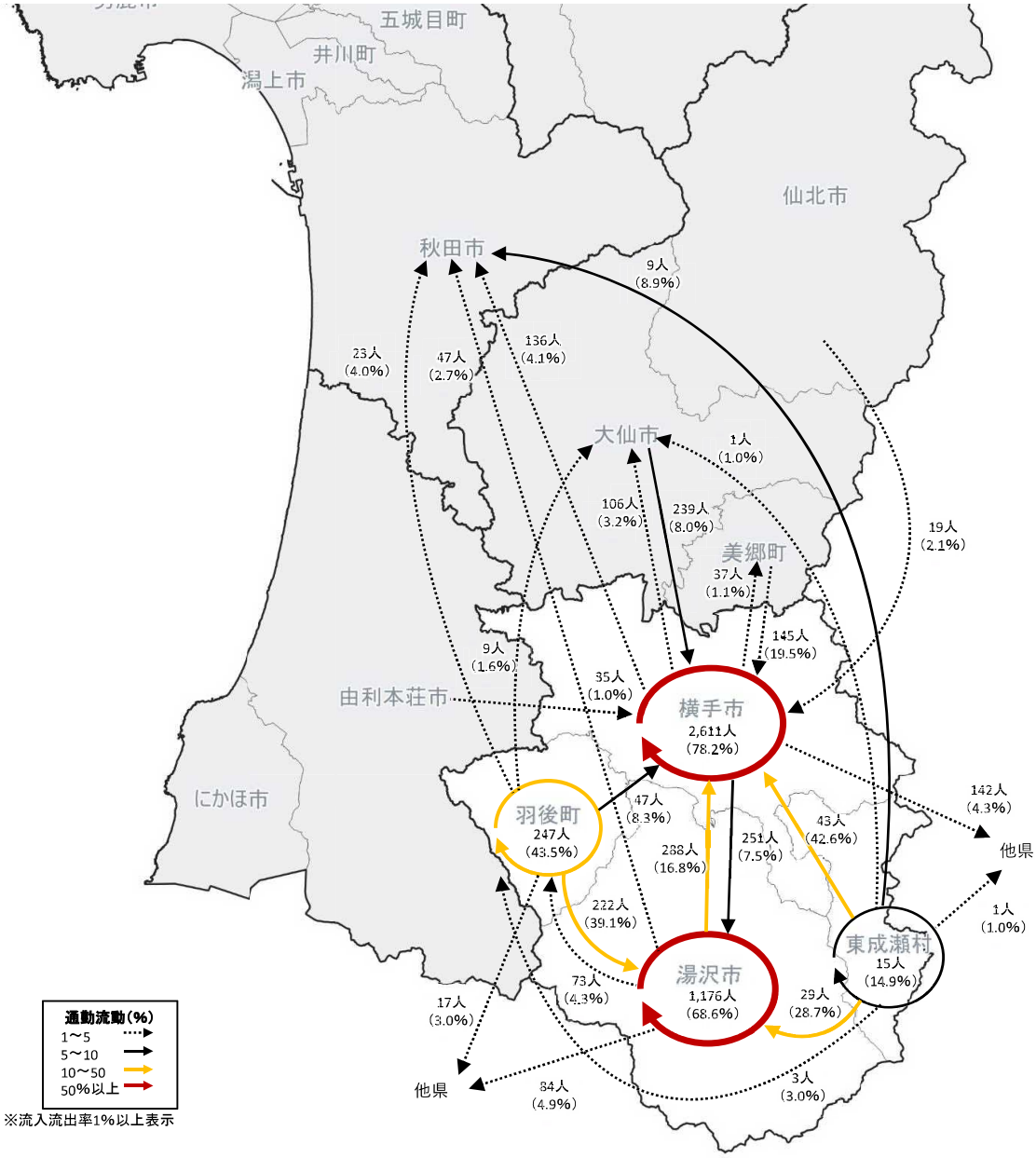



**図 平鹿・雄勝圏域の通学流動(2015)**

出典：国勢調査

## ②移動手段

高校生の通学手段等について大まかな傾向を把握するため、各高等学校へアンケート調査を実施した結果、各圏域とも「徒歩または自転車」、「鉄道」、「保護者の送迎」が一定程度を占め、バスによる通学は少ないことが分かりました。

このことにより、鉄道を利用した市町村を跨ぐ移動が発生している実態が把握できたほか、圏域によっては、「保護者の送迎」が占める割合が非常に大きく、積雪シーズンとなる冬季にはその割合が更に高まり、「徒歩または自転車」が減る一方で、高校の立地状況によっては、バスによる通学割合が増加することが分かりました。

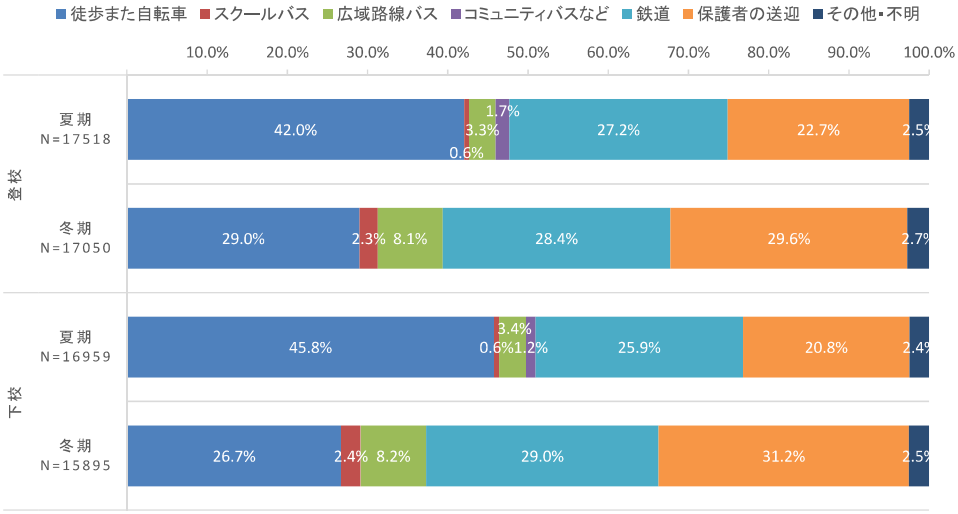



**図　高校生の季節別の通学手段(県全体)**

出典：高等学校アンケート調査（R3 実施）

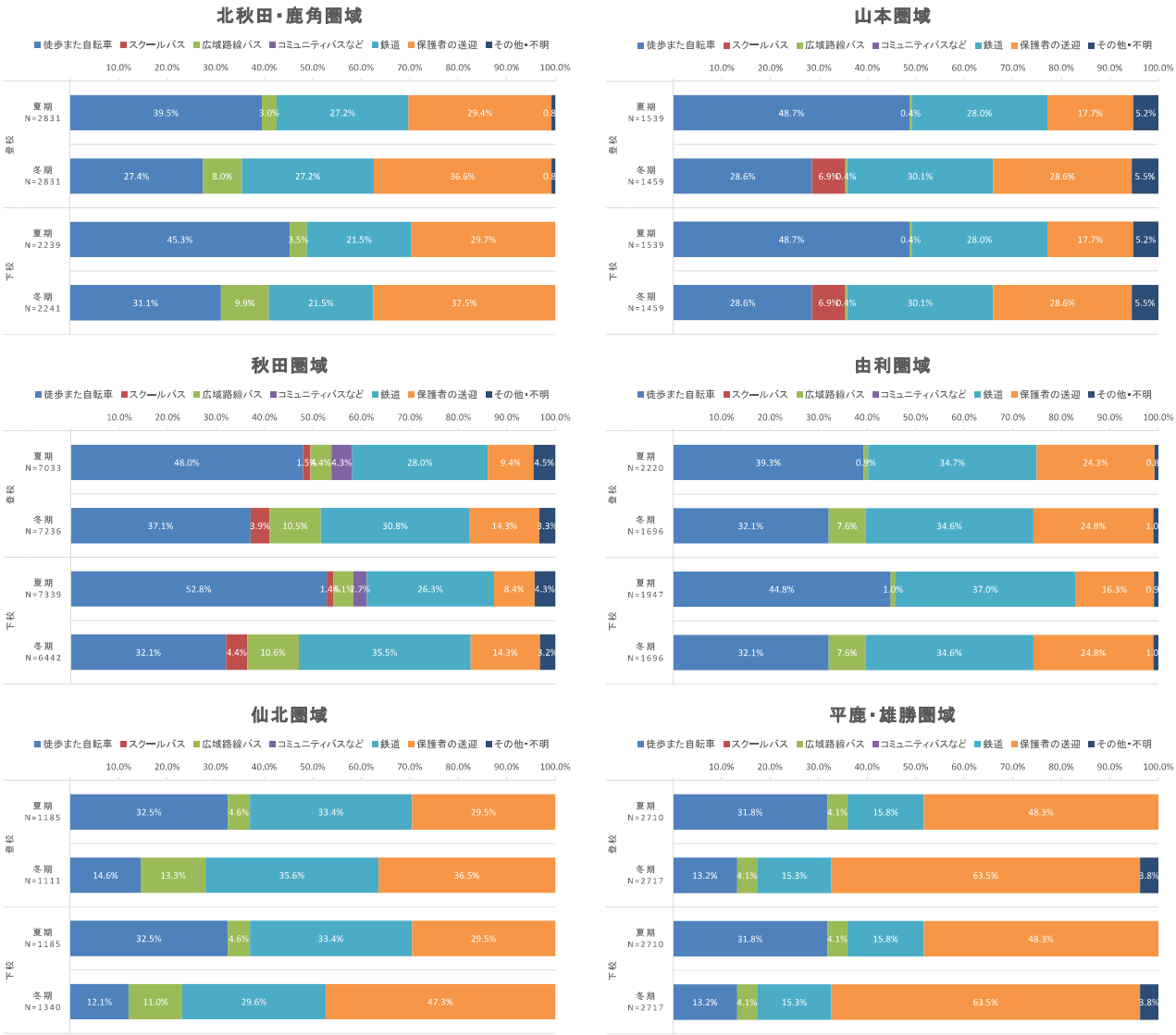



図　圏域別高校生の季節別の通学手段

出典：高等学校アンケート調査（R3 実施）

## (3)買物での移動

### ①市町村間の移動実態

**○鹿角･北秋田圏域**

上小阿仁村を除く 4 市町では、居住する自治体内での移動が最も多い状況ですが、上小阿仁村では約 58%が北秋田市に移動しているほか、五城目町や井川町などにも移動しており、市域を跨いだ移動が発生しています。

また、小坂町においても約 5 割が大館市や鹿角市へ移動しており、一定程度の割合が市域を跨いだ移動を行っています。

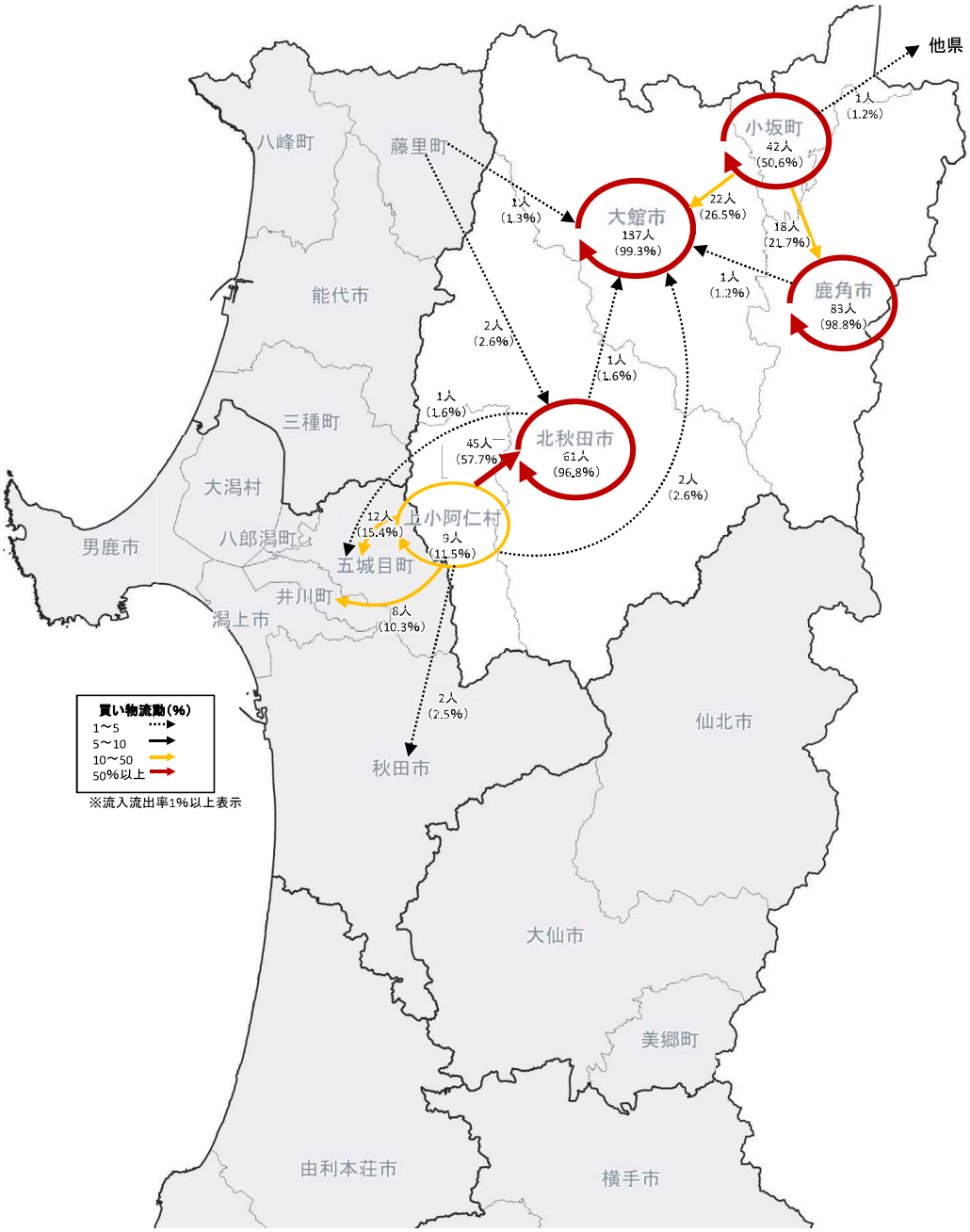



**図 鹿角･北秋田圏域の買い物流動**

出典：県民アンケート調査（R3 実施）

○山本圏域

能代市、藤里町、三種町において、居住する自治体内での移動が最も多い状況となっています。

八峰町では、町内での移動は約 26%と低く、能代市への移動が約 74%と日常的に町外への移動が多い状況です。

三種町については能代市方面だけではなく、約 13%が五城目町へ移動しています。

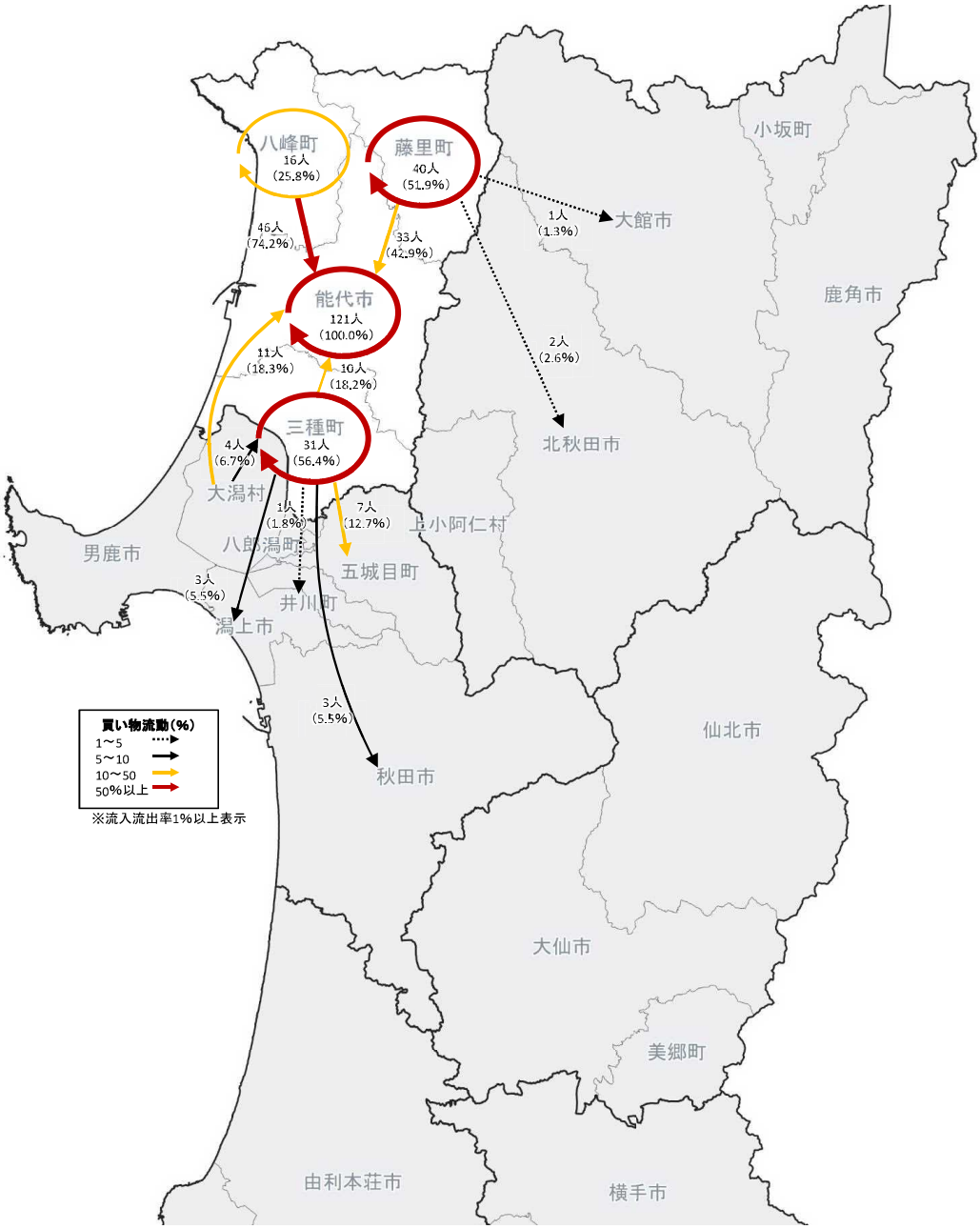



**図　山本圏域の買い物流動**

出典：県民アンケート調査（R3 実施）

○秋田圏域

秋田市、男鹿市、潟上市、五城目町、井川町においては、それぞれ居住する自治体内での移動が最も多い状況となっています。

大潟村では、男鹿市への移動割合が約 32%、能代市への移動割合が約 18%など他自治体への移動が村内移動より多くなっています。

また、潟上市、五城目町、井川町の 3 市町間の移動も一定程度あり、広域的な移動が発生しています。

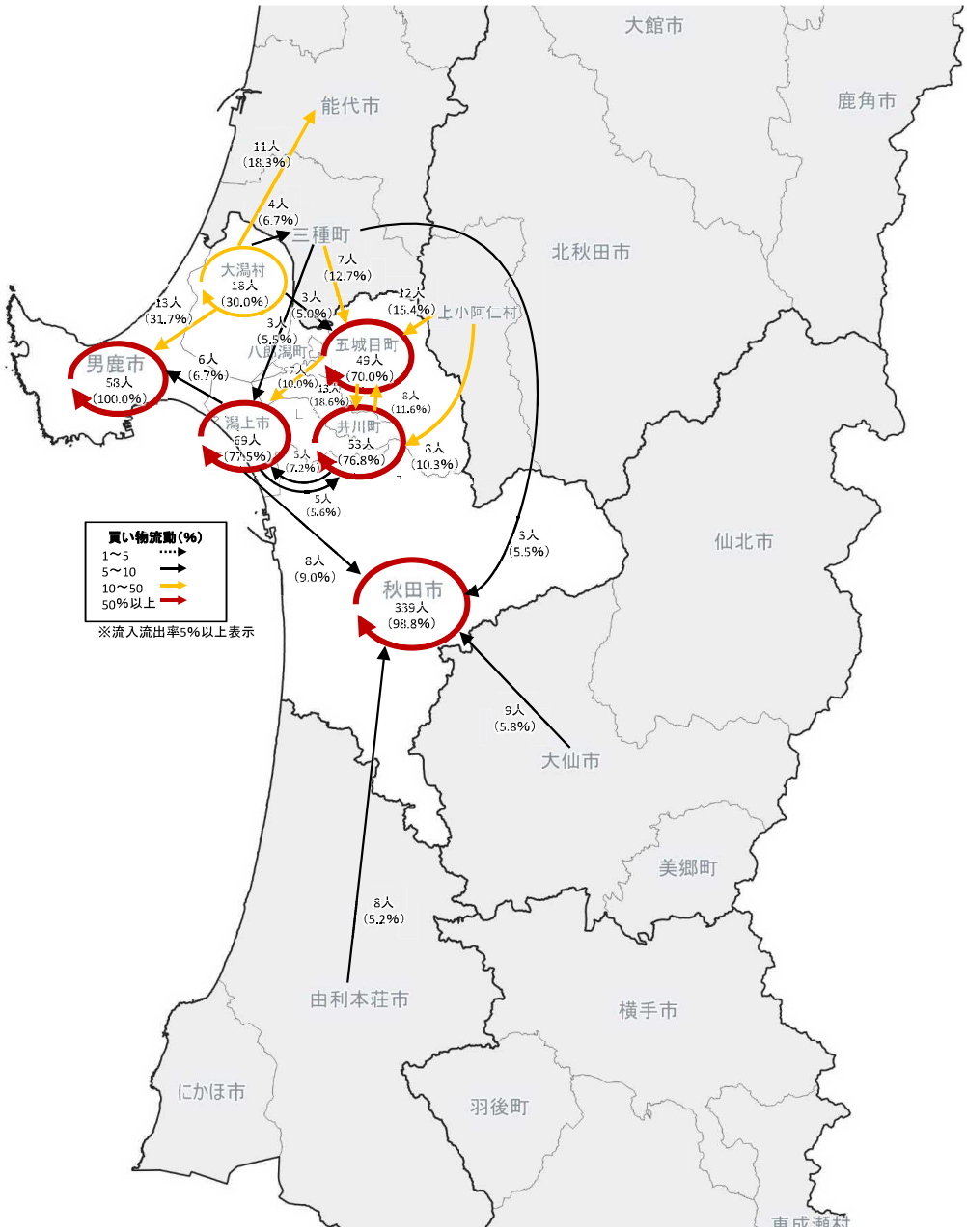



**図 秋田圏域の買い物流動**

出典：県民アンケート調査（R3 実施）

○由利圏域

両市とも、それぞれの市内での移動が 90%以上と最も多い状況となっています。

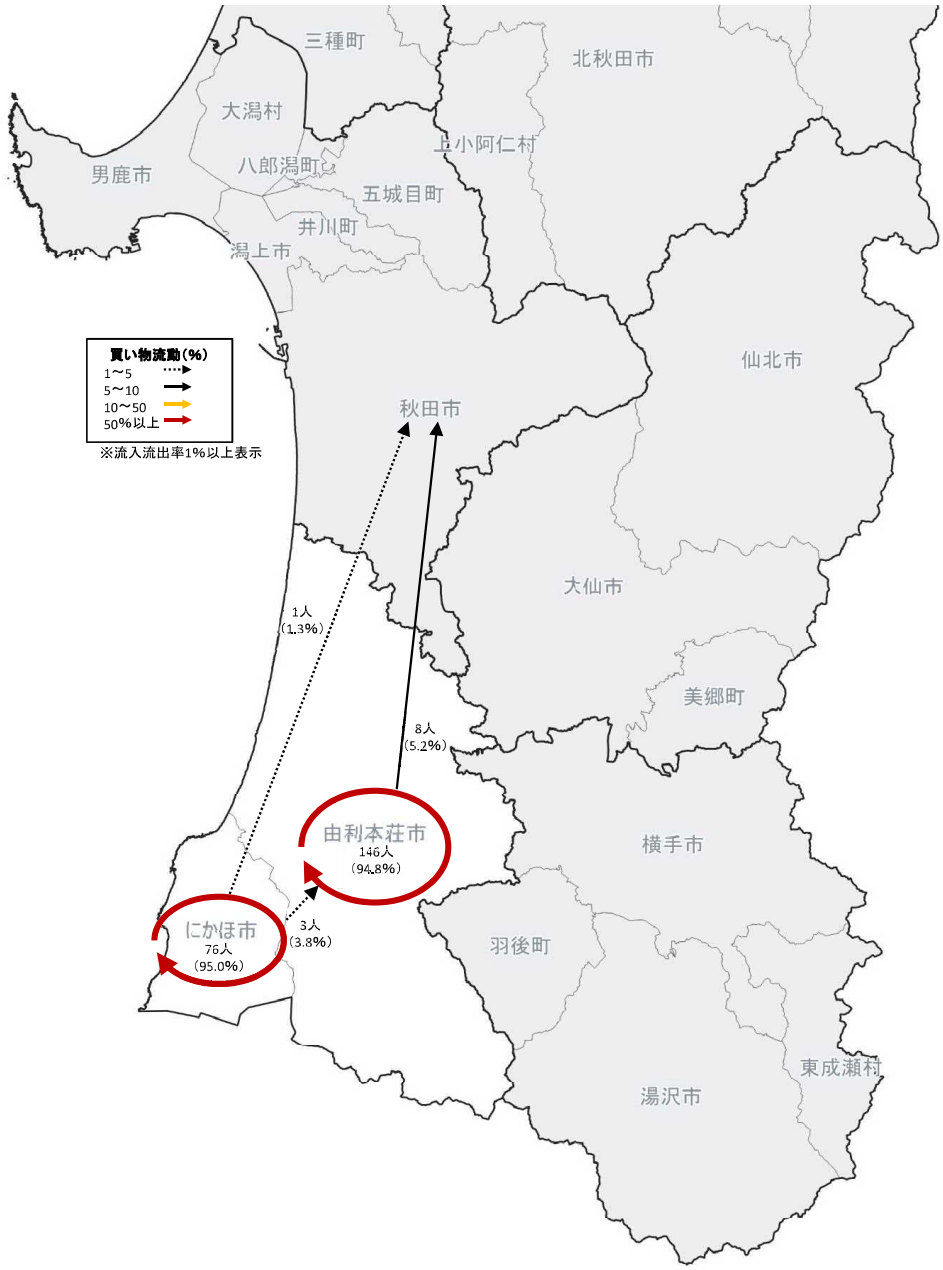



**図　由利圏域の買い物流動**

出典：県民アンケート調査（R3 実施）

○仙北圏域

3 市町とも、居住する自治体内での移動が最も多い状況ですが、美郷町では約 39%が大仙市に移動しています。

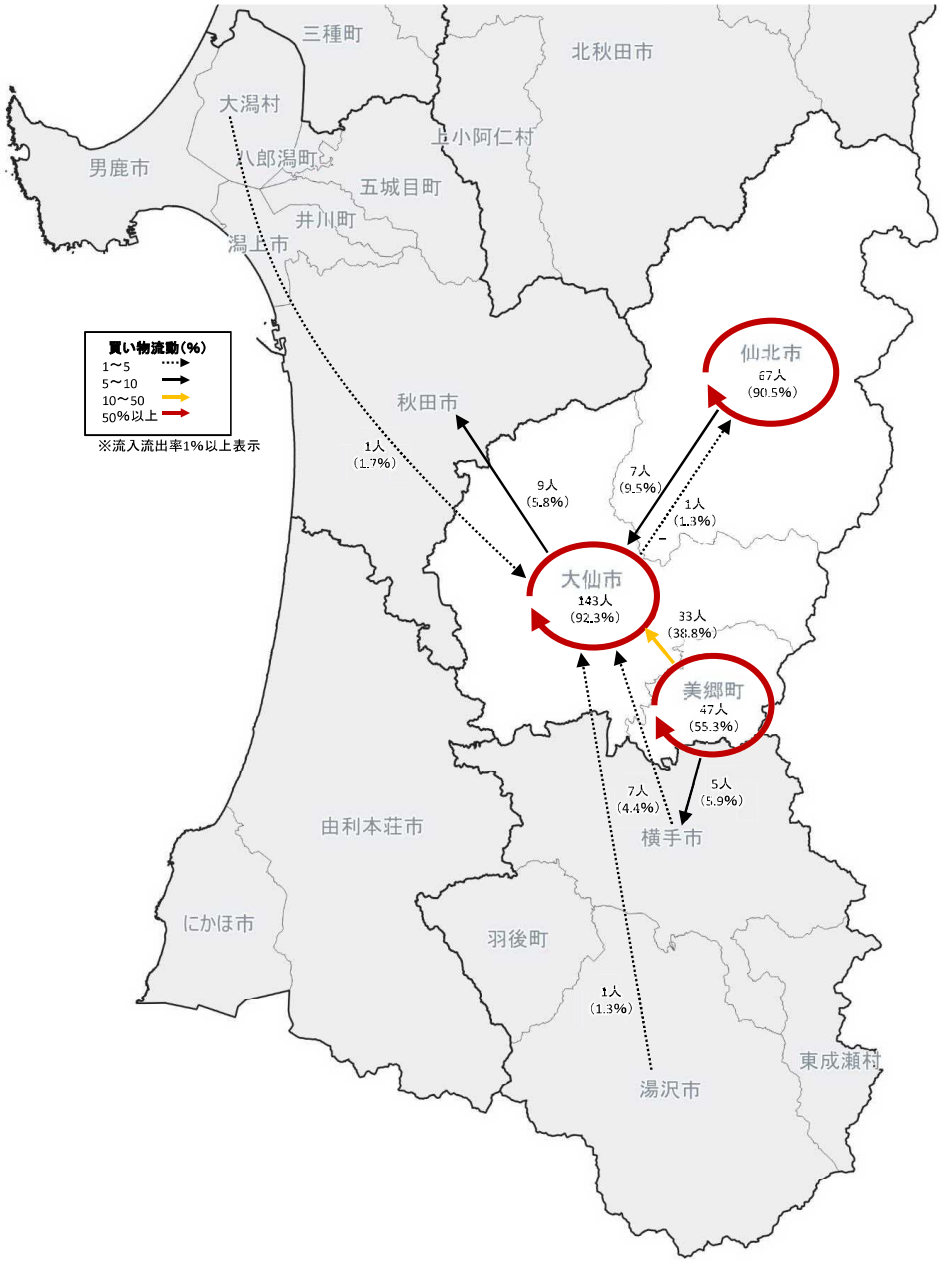



**図 仙北圏域の買い物流動**

出典：県民アンケート調査（R3 実施）

○平鹿・雄勝圏域

横手市、湯沢市、羽後町では、居住する自治体内での移動が最も多い状況ですが、羽後町では約 25%が湯沢市に移動しています。

東成瀬村では、村内での移動は約 4%で、横手市への移動が約 85%と、日常的に村外に移動している状況がみられます。

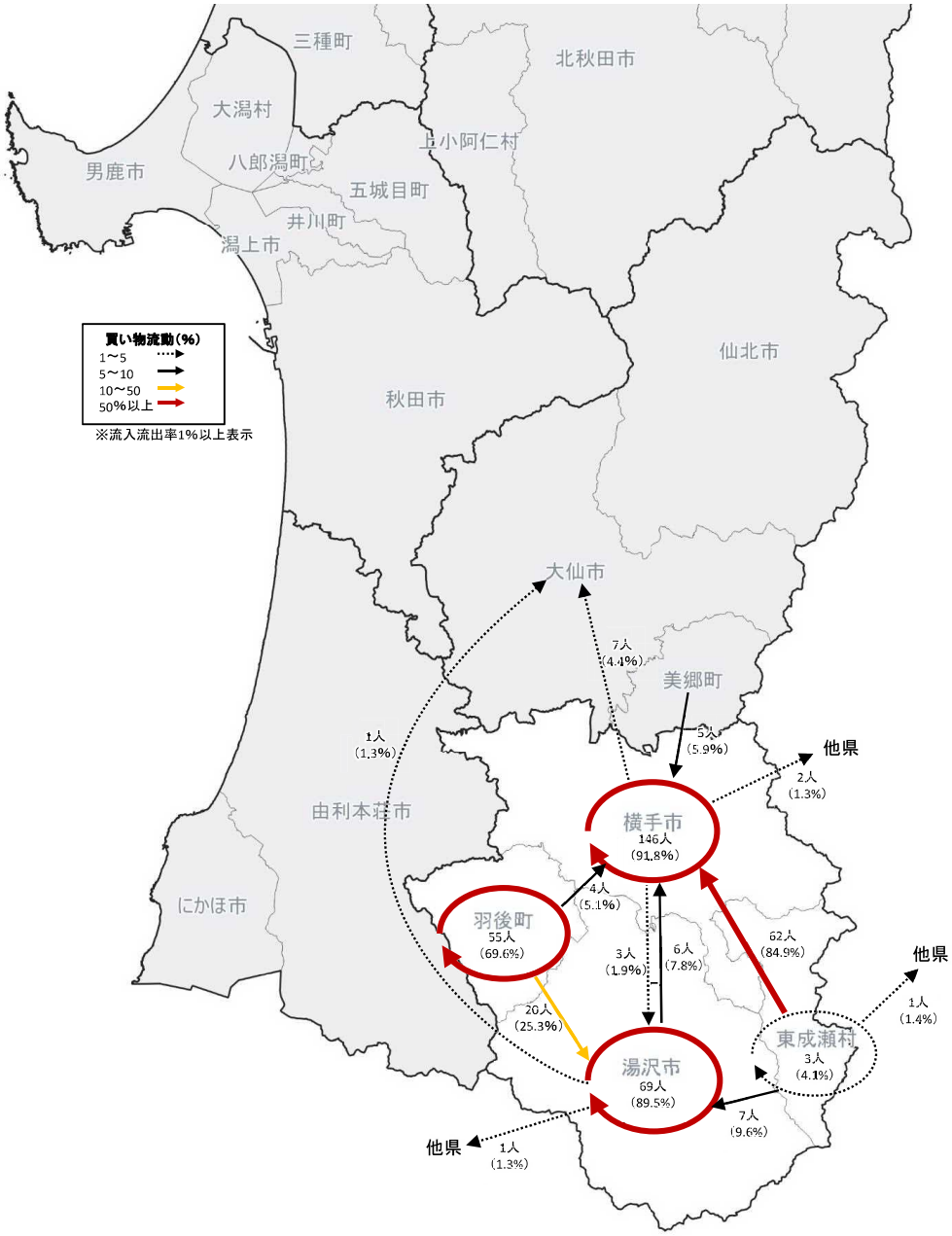



**図　平鹿・雄勝圏域の買い物流動**

出典：県民アンケート調査（R3 実施）

②移動手段

県民アンケート結果によれば、20～60 歳代では 8～9 割以上が「自家用車（自分で運転）」により移動しており、地域公共交通を利用する割合は極めて少ない状況となっています。

70 歳代以上においては、高齢になるにつれて「自家用車（自分で運転）」の割合は減少していますが、「自家用車（家族等の送迎）」の割合が増加しているなど、移動手段として自家用車の利用が引き続き高い傾向にあります。

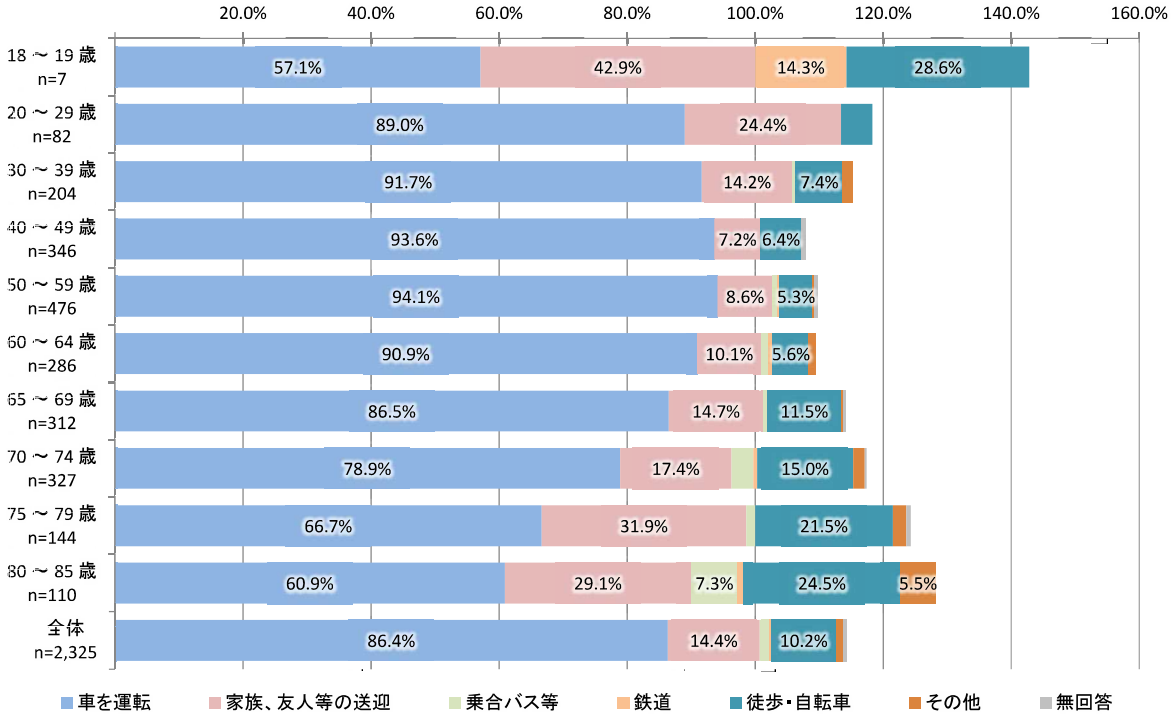



**図　年齢別買い物時の移動手段(県全体)**

出典：県民アンケート調査（R3 実施）

※5%未満非表示

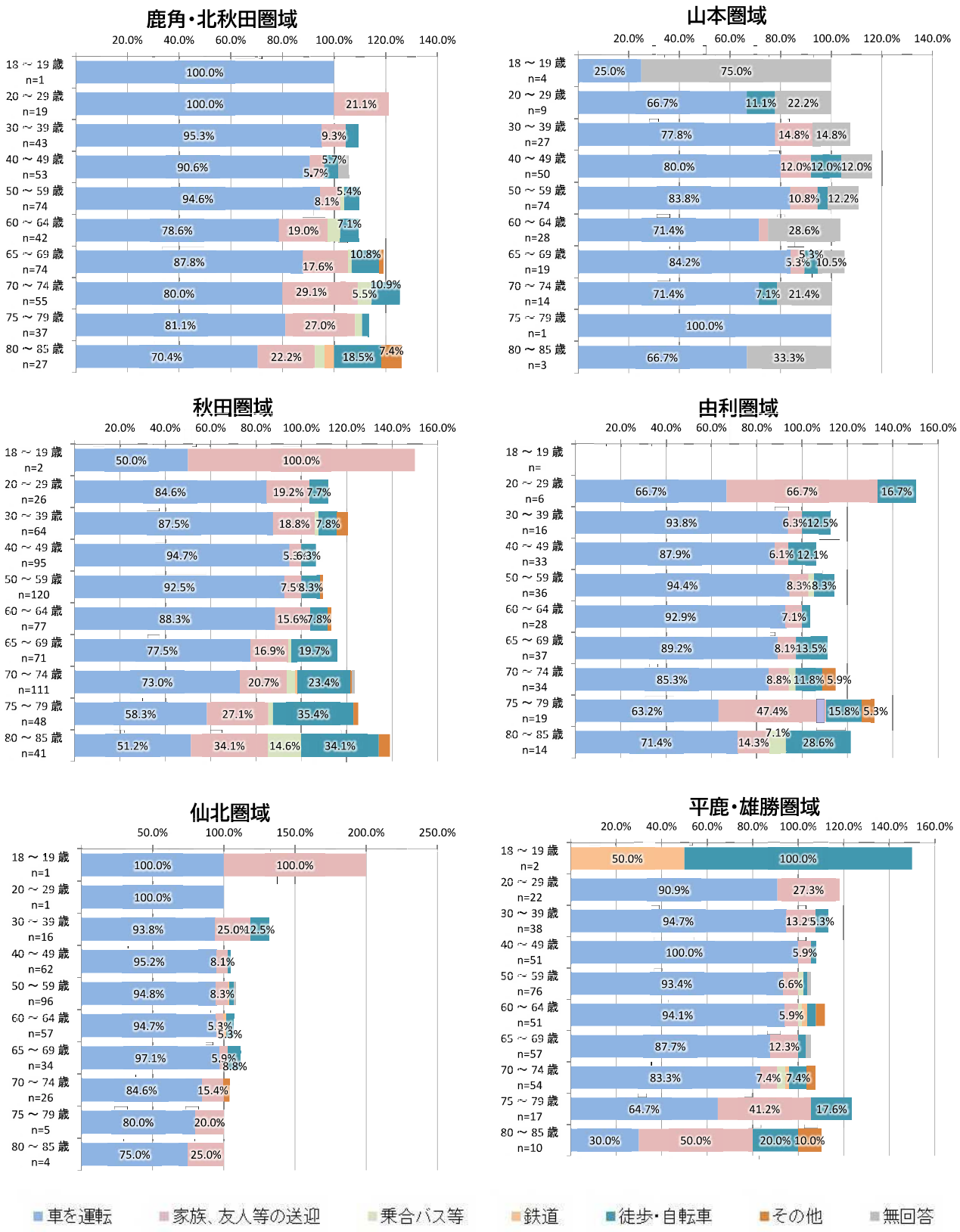



図　圏域別年齢別買い物時の移動手段

出典：県民アンケート調査（R3 実施）

※5%未満非表示

## （4）通院での移動

### ①市町村間の移動実態

**○鹿角・北秋田圏域**

鹿角市、大館市、北秋田市では、居住する自治体内での移動が最も多い状況ですが、小坂町や上小阿仁村では、病院等の施設がより多く立地する隣接市へ移動する割合が高く、市域を跨いだ移動が発生しています。

また、青森県や岩手県と隣接する市町においては、割合は少ないものの、県を跨いだ広域的な移動が発生しています。

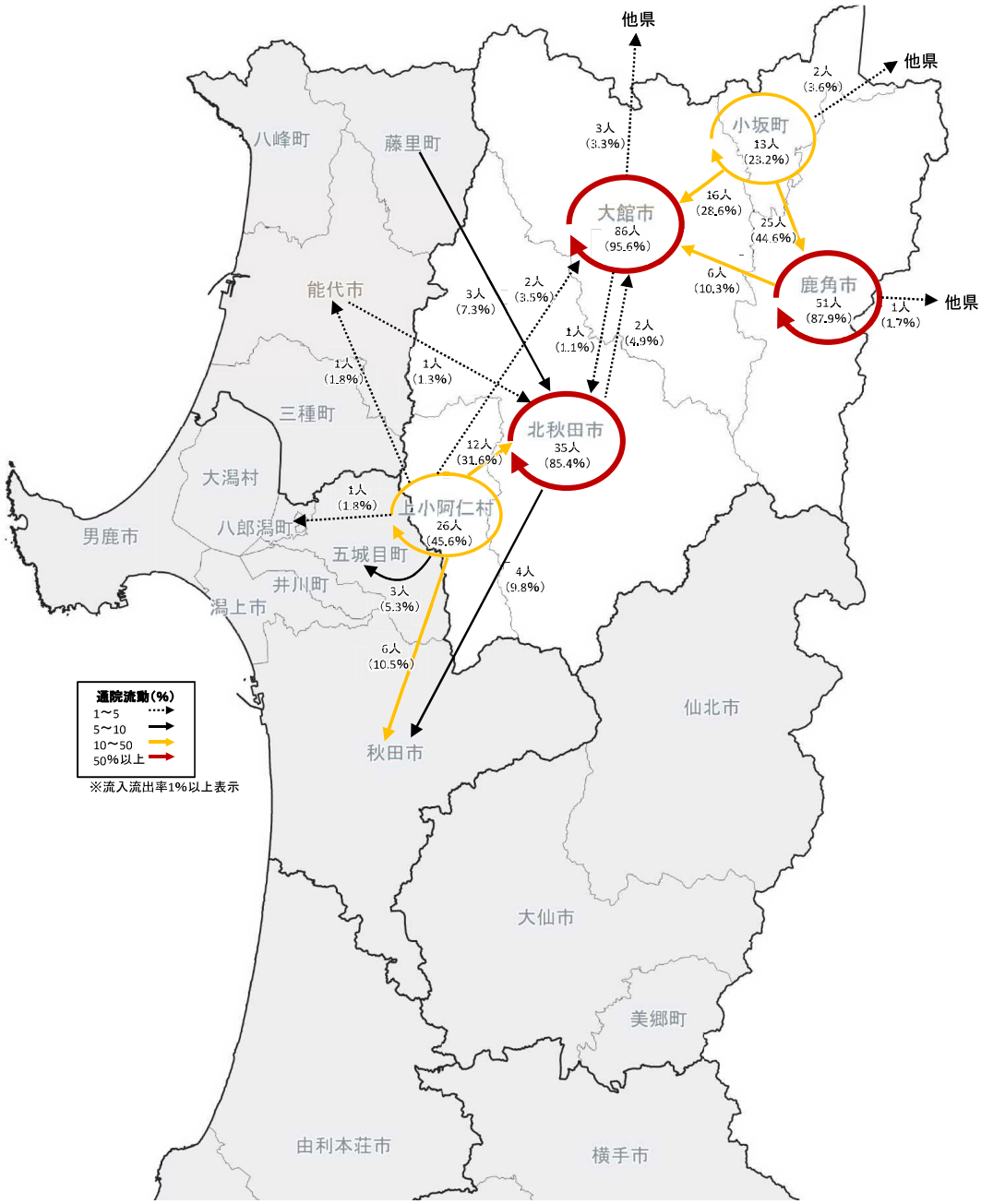



**図　鹿角・北秋田圏域の通院流動**

出典：県民アンケート調査（R3 実施）

○山本圏域

能代市では市内での移動が最も多くなっていますが、八峰町、藤里町、三種町においては能代市への移動割合が最も多くなっており、市域を跨いだ移動が発生しています。

三種町においては、能代市以外にも秋田市や八郎潟町、五城目町などの他圏域への移動も発生しています。

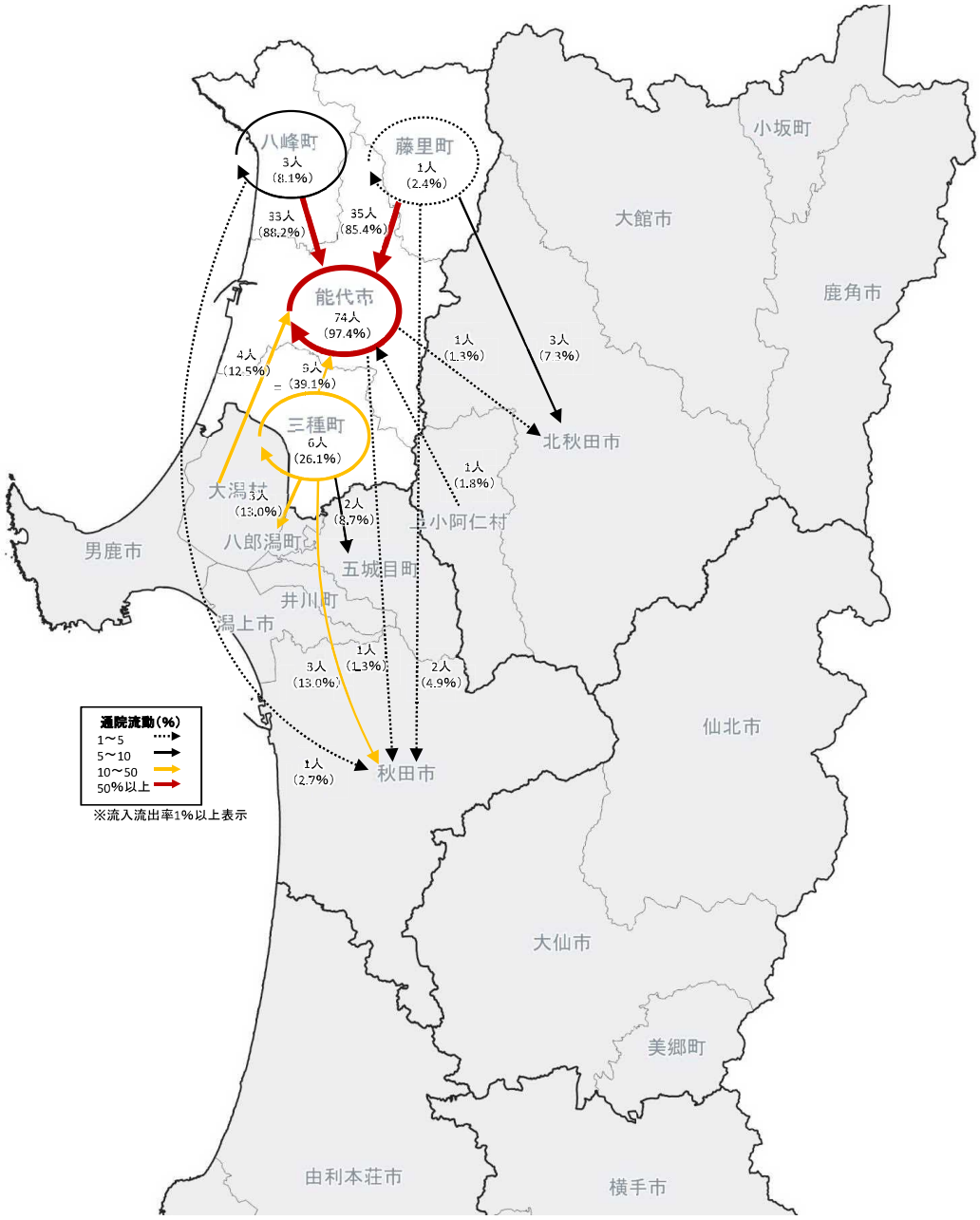



**図　山本圏域の通院流動**

出典：県民アンケート調査（R3 実施）

○秋田圏域

秋田市、男鹿市、潟上市では居住する市内での移動の割合が最も多い状況ですが、病院等の施設が多く立地する秋田市への移動の割合が高く、秋田市を中心とした広域的な移動が発生しています。

なお、五城目町や井川町では八郎潟町への移動も一定程度あり、秋田市以外への市域を跨いだ通院実態もみられます。

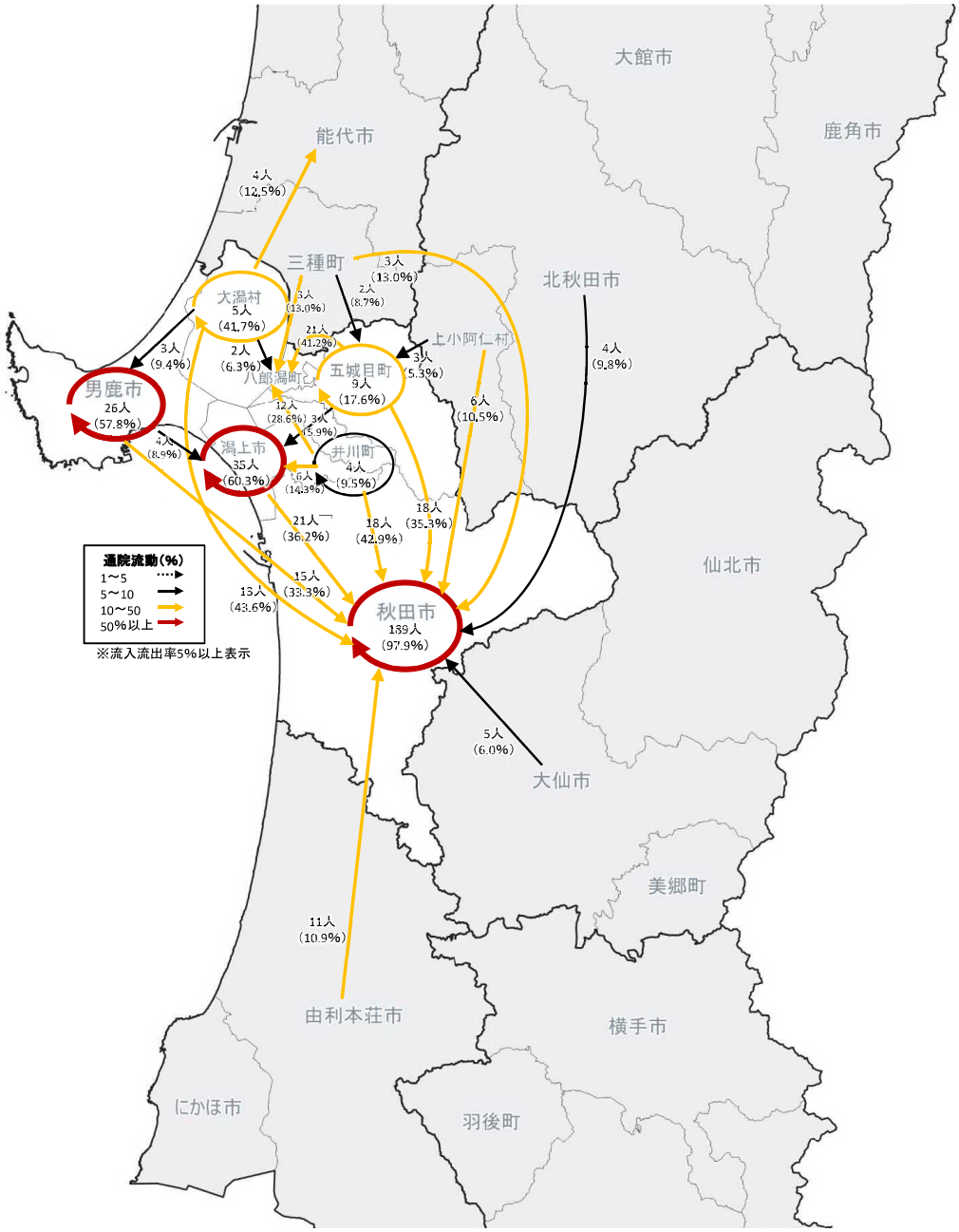



**図　秋田圏域の通院流動**

出典：県民アンケート調査（R3 実施）

○由利圏域

2 市ともに、市内での移動の割合が最も多い状況ですが、にかほ市では 3 割程度が由利本荘市へ移動するなど、市域を跨いだ広域的な移動が発生しています。

また、由利本荘市から秋田市への移動も一定数あるほか、限定的ではあるものの、にかほ市から山形県へ、県を跨いだ広域的な移動が発生しています。

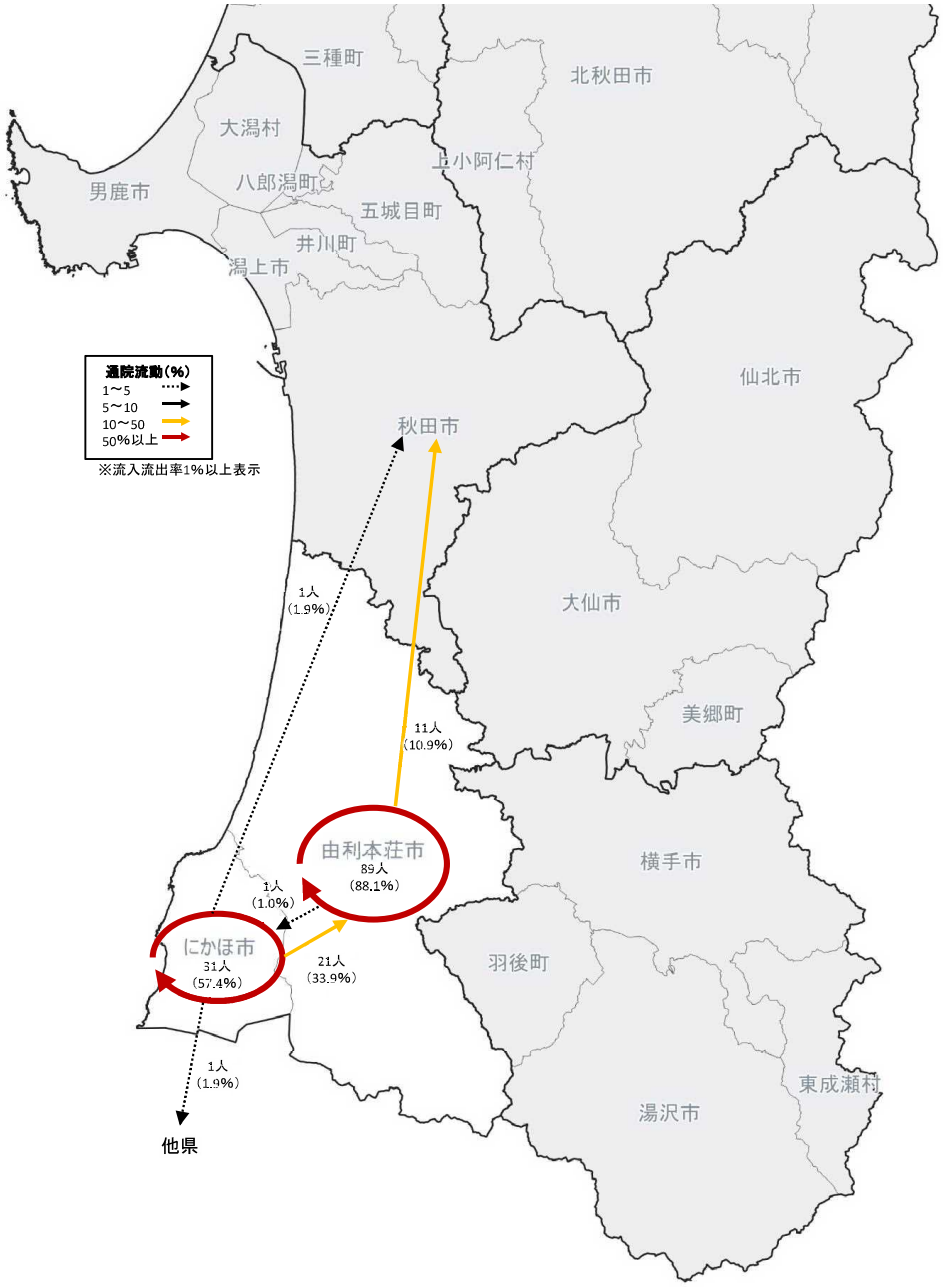



**図　由利圏域の通院流動**

出典：県民アンケート調査（R3 実施）

○仙北圏域

仙北市、大仙市、美郷町では居住する市内での移動が最も多くなっていますが、特に美郷町においては、病院等の施設がより多く立地する大仙市や横手市へ移動する割合が高く、市域を跨いだ移動が発生しています。

なお、仙北市と大仙市においては、限定的ではあるものの、岩手県への県を跨いだ広域的な移動が発生しています。

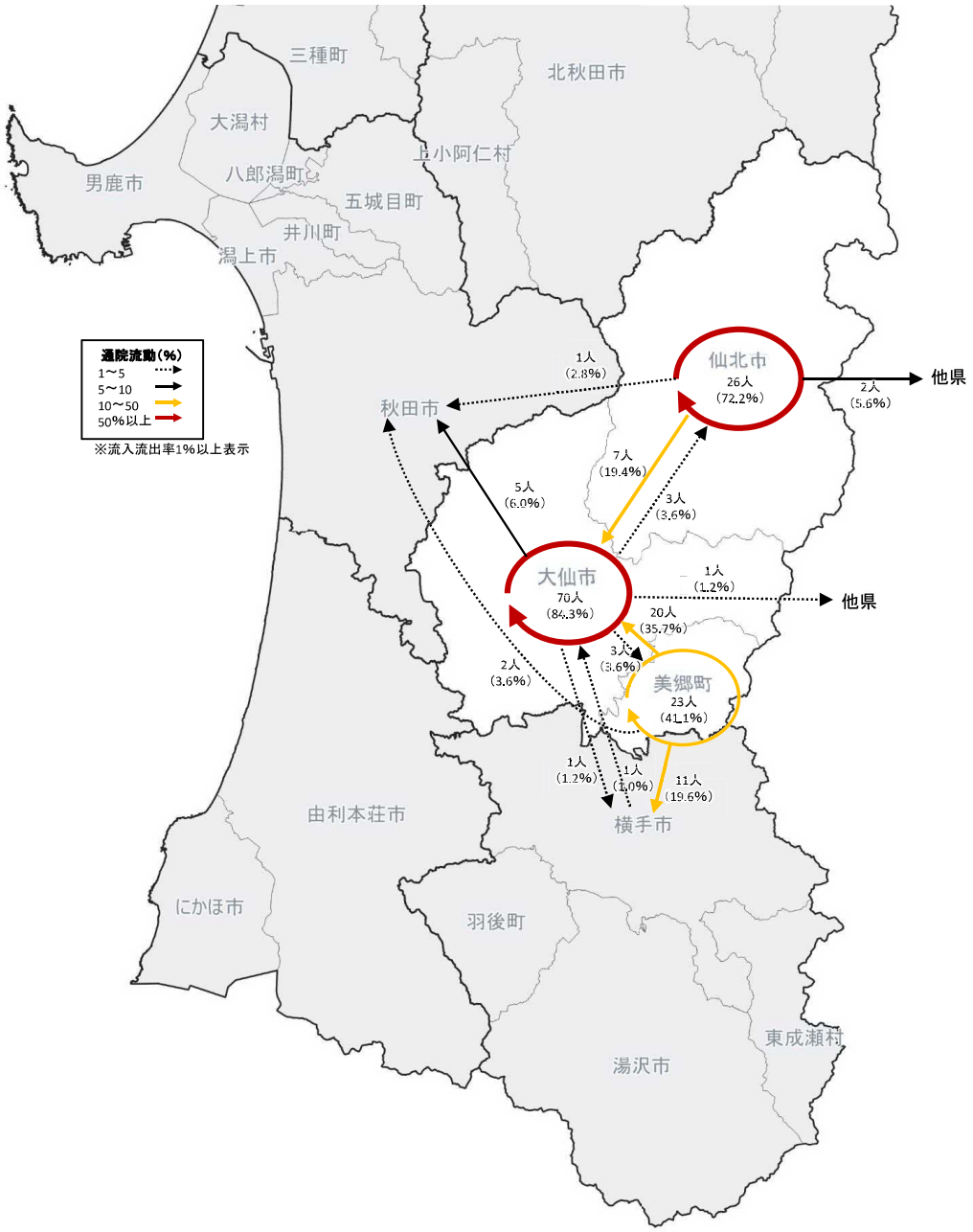



**図　仙北圏域の通院流動**

出典：県民アンケート調査（R3 実施）

○平鹿・雄勝圏域

横手市、湯沢市、羽後町では居住する自治体内での移動が最も多くなっていますが、東成瀬村においては、病院施設等が多く立地する横手市や湯沢市への移動が高く、市域を跨いだ移動が発生しています。

また、横手市、湯沢市、羽後町の 3 市町間の移動が発生しています。

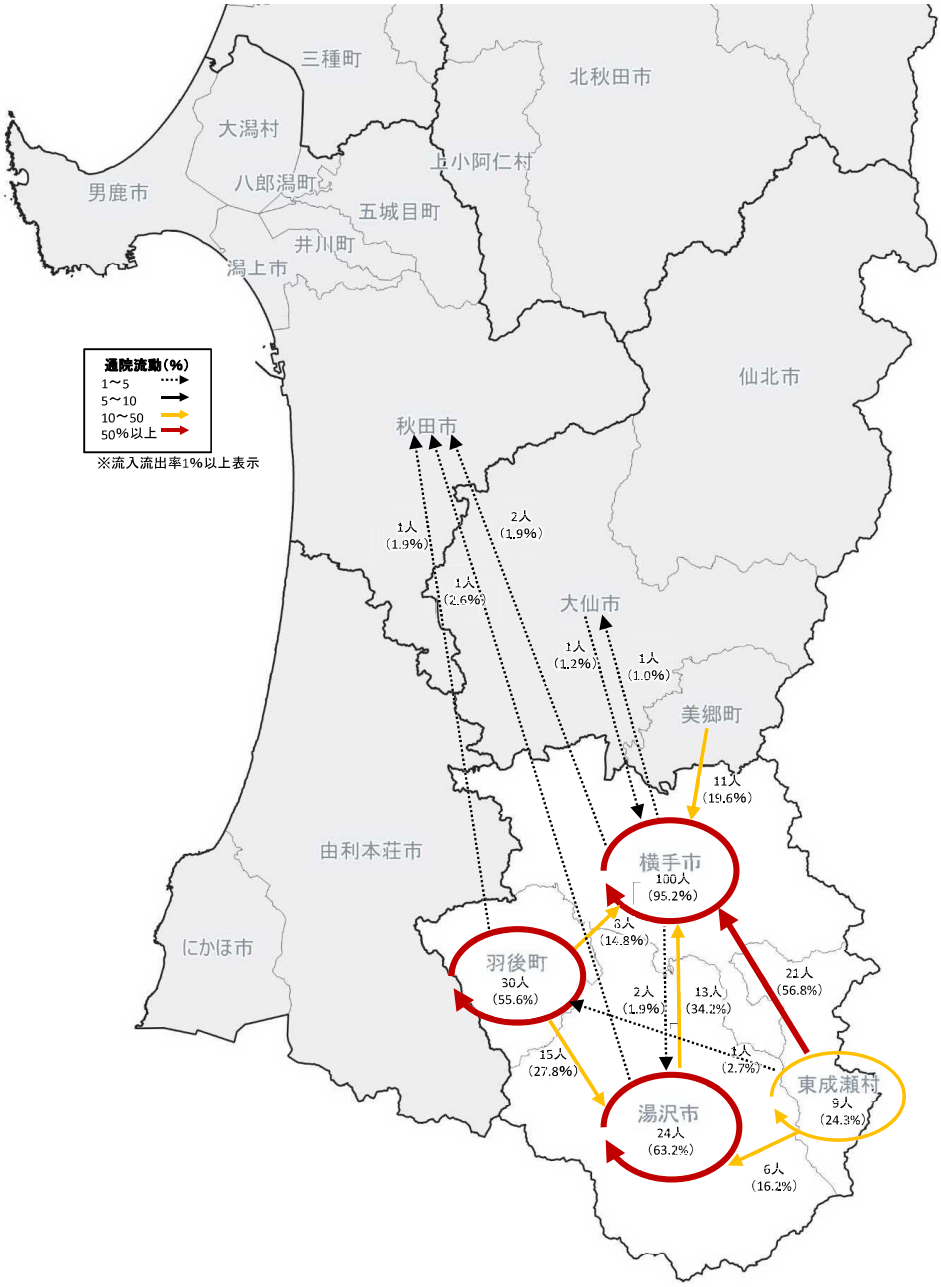



**図　平鹿・雄勝圏域の通院流動**

出典：県民アンケート調査（R3 実施）

②移動手段

県民アンケート結果によれば、30～60 歳代では、「自家用車（自分で運転）」が 8～9 割以上と最も多く、全ての年代、圏域において、地域公共交通利用の割合は非常に低い状況です。

70 歳代以上では、高齢になるにつれて「乗合バス等」の割合が高くなる傾向にあり、通院時の移動手段として地域公共交通を利用する実態を反映しています。

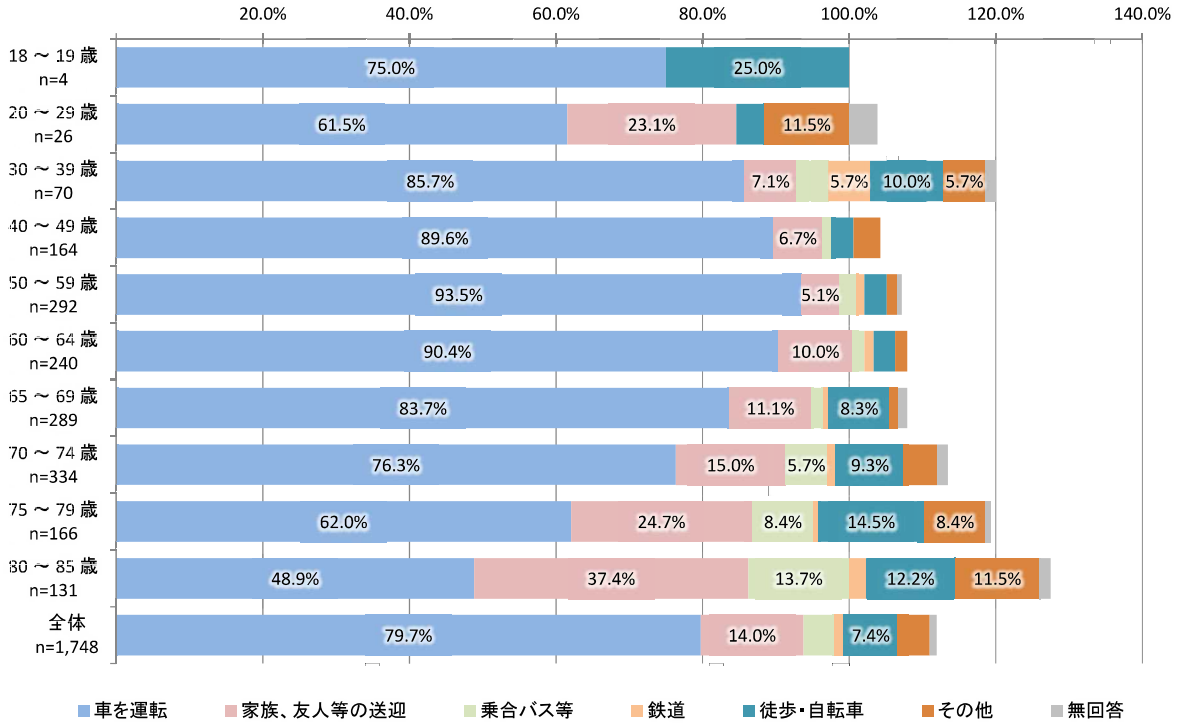



図　年齢別通院時の移動手段

出典：県民アンケート調査（R3 実施）

※5%未満非表示

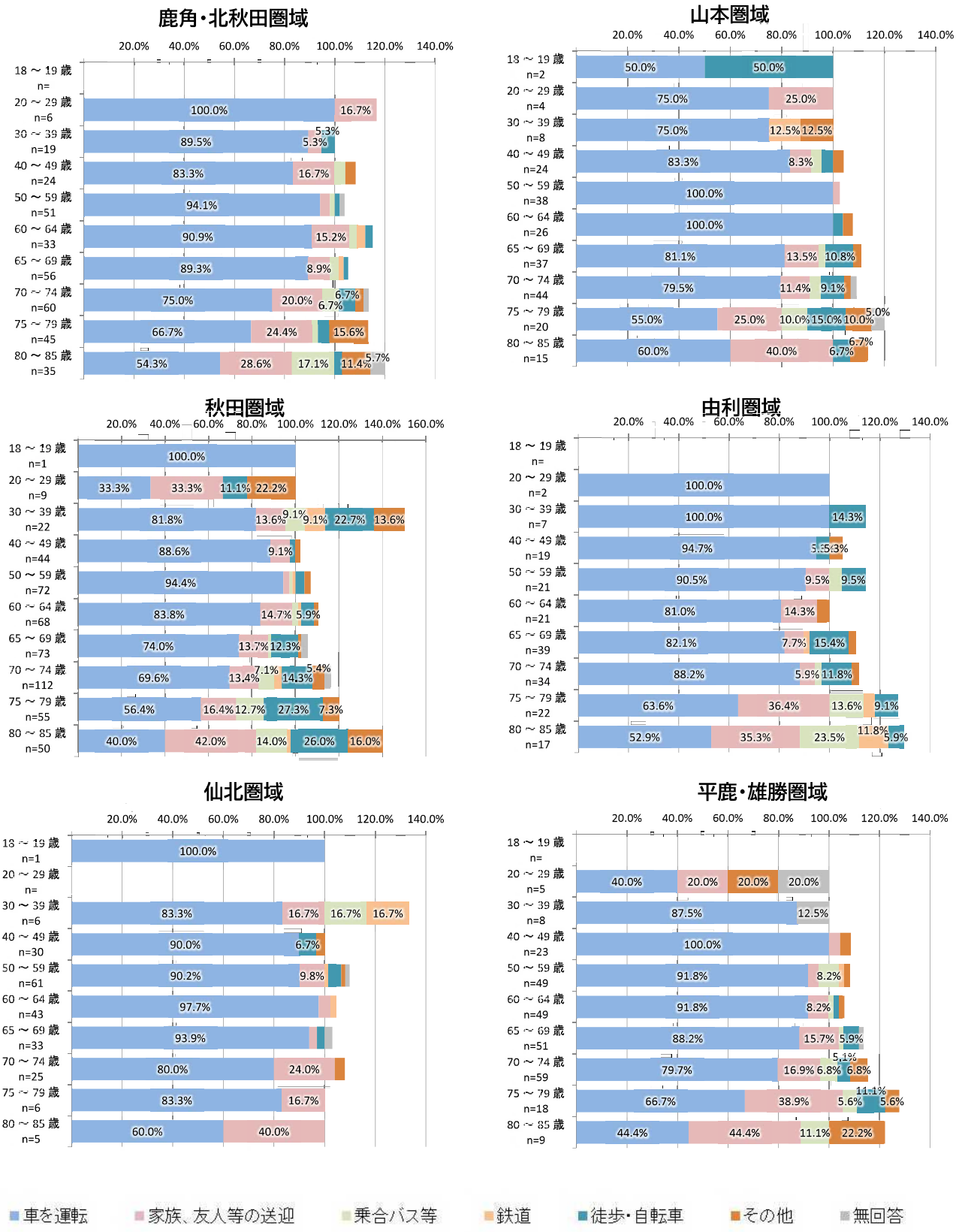



図　圏域別年齢別通院時の移動手段

出典：県民アンケート調査（R3 実施）

※5%未満非表示

## (5)県民の徒歩での移動可能距離

県民アンケート結果によれば、各年代での徒歩で移動することができる距離は、20 代～70 代前半までは概ね同様の傾向にあり、1,000m以上歩くことができる方の割合が最も多くなっています。

一方、75 歳以上になると、1,000m以上歩くことができる方の割合も一定数存在しますが、100m以内や 300m以内・500m以内の回答の割合が高くなるなど、徒歩での移動可能距離は短くなる傾向にあります。

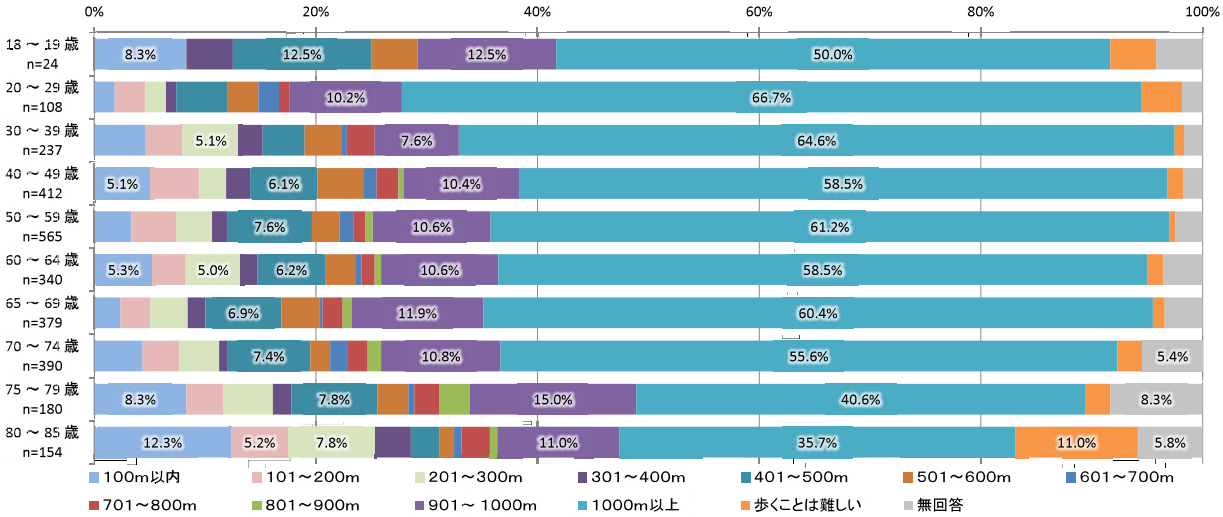



**図　年齢別徒歩での移動可能距離**

出典：県民アンケート調査（R3 実施）

※5%未満非表示

## 1-7 観光動向

### (1)観光地点等入込客数・外国人延べ宿泊数

本県における観光地点等入込客数及び外国人延べ宿泊数は 2019 年度（平成 31 年度）まで増加傾向にあり、2019 年度（平成 31 年度）には観光地点等入込客数 35,270 千人、外国人延べ宿泊数 119,320 人となっていました。

一方、2020 年度（令和 2 年度）には新型コロナウイルス感染症の影響により両者ともに大幅に減少しており、観光地点等入込客数は 18,360 千人（前年比 52.1%）、外国人延べ宿泊数は 20,010 人（前年比 16.8%）となっています。

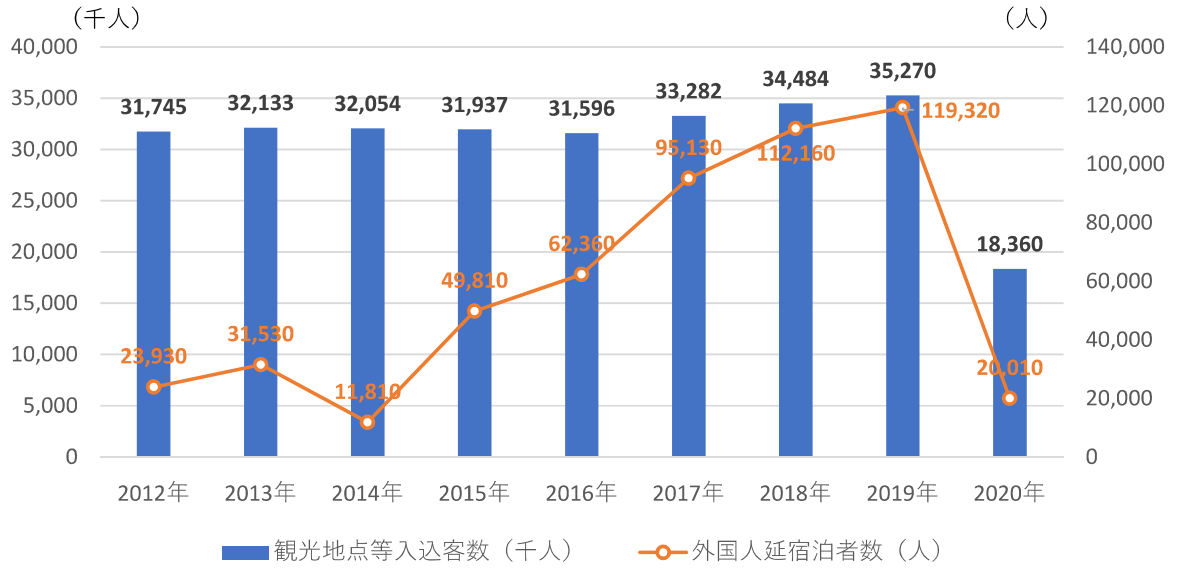



**図 観光地点等入込客数及び外国人延べ宿泊数**

出典：秋田県観光統計

圏域別の入込客数では秋田圏域や仙北圏域の占める割合が高く、秋田圏域では道の駅あきた港や秋田県立中央公園、男鹿市複合観光施設オガーレなど、仙北圏域では角館武家屋敷や道の駅協和四季の森、水沢温泉郷・乳頭温泉郷などが上位に挙がります。

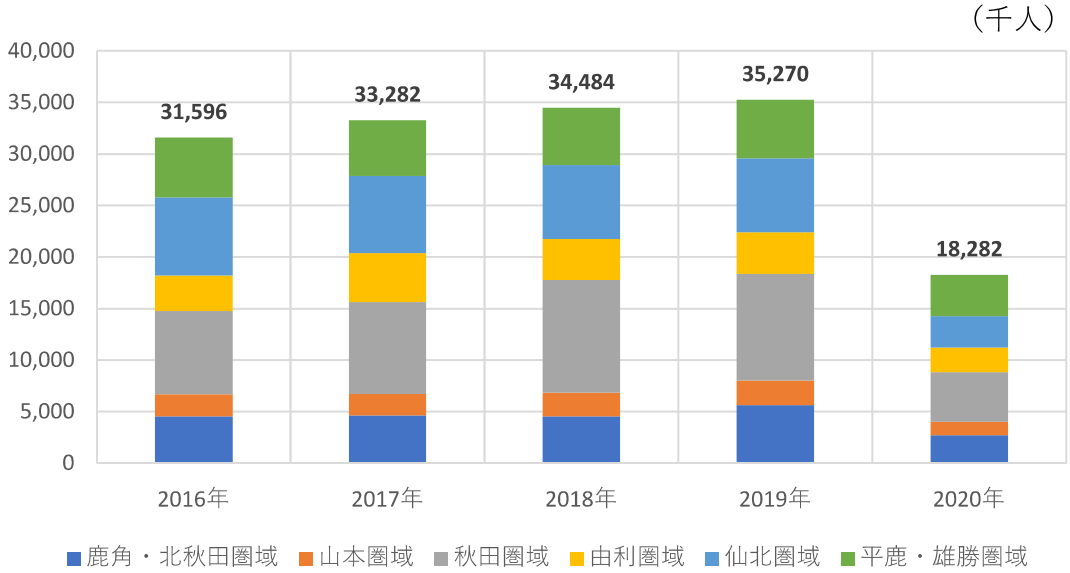



**図 圏域別の観光地点等入込客数**

出典：秋田県観光統計

表　観光地点別入込客数　上位 30 地点（2020 年度）

| 順位 | 地点名 | 市町村名 | 入込客数 | 前年比 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 道の駅あきた港 | 秋田市 | 1,837,365 | 112.1% |
| 2 | 道の駅ふたつい | 能代市 | 1,106,359 | 216.3% |
| 3 | 道の駅うご端縫いの郷 | 羽後町 | 744,707 | 103.2% |
| 4 | 秋田ふるさと村 | 横手市 | 629,511 | 98.0% |
| 5 | にかほ市観光拠点センター「にかほっと」 | にかほ市 | 606,040 | 90.3% |
| 6 | 道の駅十文字 | 横手市 | 525,500 | 103.5% |
| 7 | 秋田県立中央公園 | 秋田市 | 489,699 | 99.8% |
| 8 | 道の駅象潟ねむの丘 | にかほ市 | 482,880 | 94.0% |
| 9 | 男鹿市複合観光施設　オガーレ | 男鹿市 | 472,593 | 121.0% |
| 10 | 角館武家屋敷 | 仙北市 | 450,649 | 121.3% |
| 11 | 道の駅おがち「小町の郷」 | 湯沢市 | 417,649 | 99.6% |
| 12 | 道の駅雁の里せんなん | 美郷町 | 358,775 | 99.9% |
| 13 | 道の駅かみこあに | 上小阿仁村 | 349,933 | 114.2% |
| 14 | 秋田市千秋公園 | 秋田市 | 307,700 | 100.0% |
| 15 | 道の駅さんない | 横手市 | 305,511 | 98.8% |
| 16 | 秋田犬の里 | 大館市 | 278,435 | － |
| 17 | 鳥海山・鉾立 | にかほ市 | 276,819 | 110.7% |
| 18 | 秋田市大森山動物園 | 秋田市 | 275,027 | 100.8% |
| 19 | 道の駅にしめ | 由利本荘市 | 263,920 | 109.2% |
| 20 | 秋田県立小泉潟公園 | 秋田市 | 259,074 | 106.2% |
| 21 | 道の駅「岩城」 | 由利本荘市 | 238,556 | 102.3% |
| 22 | 道の駅協和「四季の森」 | 大仙市 | 221,736 | 98.0% |
| 23 | 大太鼓の里ぶっさん館（道の駅たかのす） | 北秋田市 | 215,448 | 94.4% |
| 24 | クアドーム　ザ・ブーン | 秋田市 | 206,272 | 105.3% |
| 25 | 男鹿水族館GAO | 男鹿市 | 193,077 | 107.4% |
| 26 | 水沢温泉郷 | 仙北市 | 181,236 | 97.2% |
| 27 | 乳頭温泉郷 | 仙北市 | 176,646 | 106.0% |
| 28 | 玉川温泉地区 | 仙北市 | 171,103 | 111.2% |
| 29 | ハタハタ館 | 八峰町 | 166,474 | 97.1% |
| 30 | 温泉保養センターはまなす | にかほ市 | 161,523 | 110.4% |

出典：秋田県観光統計

## (2)広域的な主要拠点からの二次交通の運行状況

本県の広域的な主要交通拠点である空港、フェリーターミナル、新幹線駅から観光地点等へ運行する観光二次交通の運行状況は下表のとおりです。

**表 主な二次交通の運行状況**

| 拠点 | 名称 | 行先 | 交通モード | 運行会社 |
|---|---|---|---|---|
| 秋田空港 | エアポートライナー | 角館・乳頭温泉地区、田沢湖・玉川温泉地区、男鹿温泉地区、横手・湯沢・栗駒方面、大仙・美郷町、本荘・象潟地区、秋田市内 | 乗合タクシー | ・キングタクシー<br>・秋田中央トランスポート<br>・中仙タクシー<br>・象潟合同タクシー |
| | 秋田空港リムジンバス | 秋田駅西口　など | 路線バス | 秋田中央交通 |
| | 秋田空港にかほGO | 象潟駅 | 乗合タクシー | 象潟合同タクシー |
| | スカイアクセス | 秋田市内 | 乗合タクシー | 秋田中央トランスポート |
| | 乗合タクシー | 由利本荘市内 | 乗合タクシー | 光タクシー |
| 大館能代空港 | リムジンバス | 大館市内、能代市内、上小阿仁村 | 乗合バス | 秋北タクシー |
| | 愛☆のりくん | 十和田湖、八幡平・玉川温泉 | 乗合タクシー | ・たかのす・ひかりタクシー<br>・丸宮タクシー |
| | 森吉山周遊タクシー | 阿仁スキー場周辺、伊勢堂岱遺跡、大太鼓の館・ぶっさん館 | 乗合タクシー | ・たかのす・ひかりタクシー<br>・丸宮タクシー<br>・北鹿観光ハイヤー<br>・米内沢タクシー |
| | 乗合タクシー | 上小阿仁村 | 乗合タクシー | ・丸宮タクシー<br>・北鹿観光ハイヤー<br>・たかのす・ひかりタクシー |
| 秋田フェリーターミナル | セリオン線 | 秋田駅 | 路線バス | ・秋田中央交通 |
| 秋田駅 | 中心市街地循環バス（ぐるる） | 木内前（秋田県）/川反入口 | 路線バス | ・秋田中央交通 |
| | 乗合タクシー | 男鹿温泉郷 | 乗合タクシー | ・秋田観光バス<br>・船川タクシー |
| 大曲駅 | 羽後交通 | 玉川温泉 | 路線バス | ・羽後交通 |
| 角館駅 | エアポートライナー | 田沢湖、乳頭温泉 | 乗合タクシー | ・キングタクシー |

## (3)観光施設・拠点の分布状況

〇鹿角・北秋田圏域

当該圏域には、観光入込客数 30 万人以上の「八幡平国立公園」や 20 万人以上の「道の駅かみこあに」のほか、「道の駅たかのす」など 10 万人以上の観光施設・拠点が複数立地しています。

なお、北秋田市の伊勢堂岱遺跡を含む「北海道・北東北の縄文遺跡群」が 2021 年に世界文化遺産に登録されたことから、今後の来訪者の増加に向けて情報発信や受入体制の構築が必要です。

**図 鹿角・北秋田圏域の観光施設・拠点の分布状況**

出典：秋田県観光統計（2020 年）

○山本圏域

当該圏域には、観光入込客数 30 万人以上の「道の駅ふたつい」のほか、10 万人以上の「ハタハタ館」が立地しています。

「ハタハタ館」は、JR 五能線あきた白神駅から徒歩 1 分の距離にあり、鉄道からアクセスしやすい環境となっています。

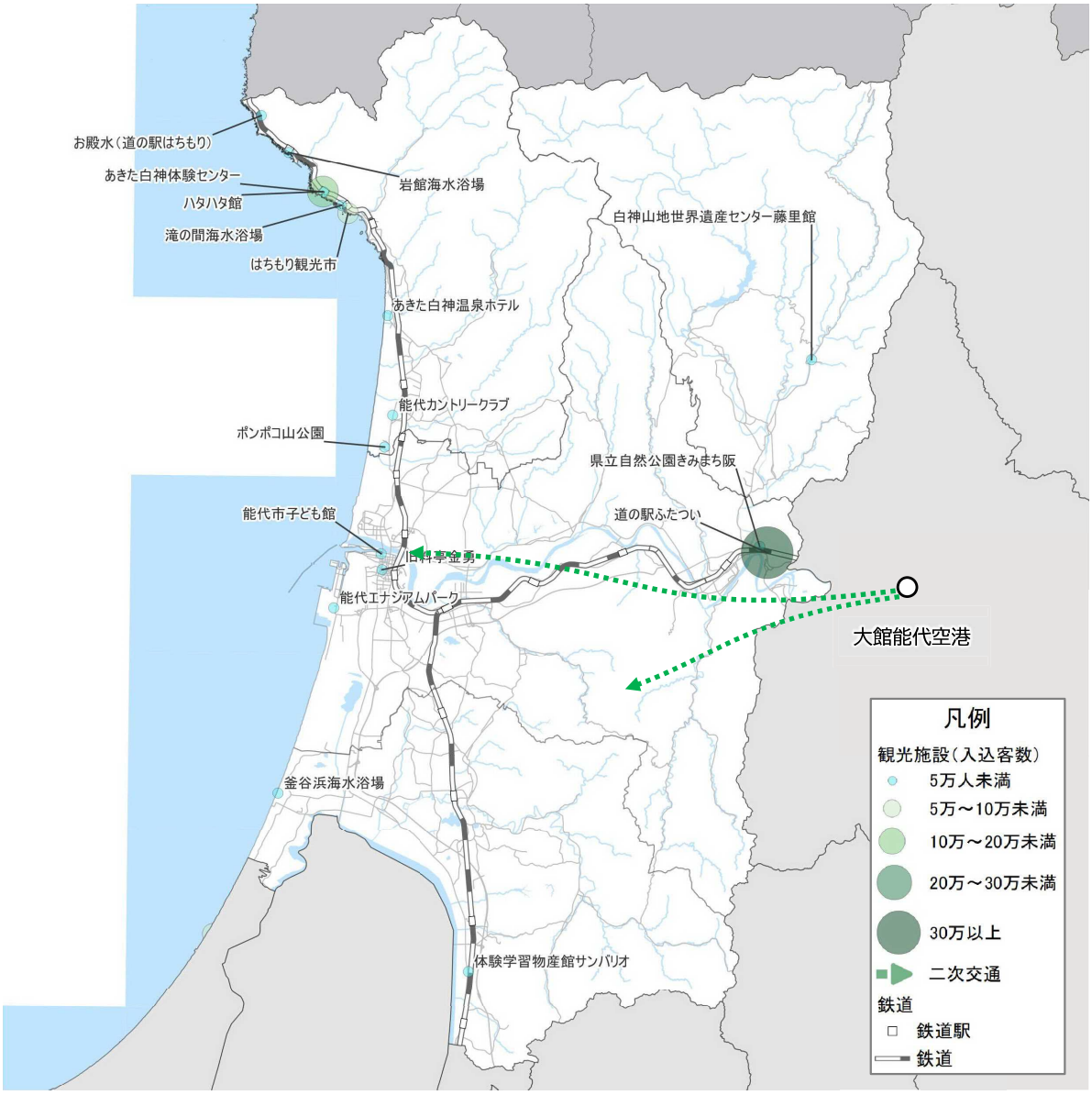



**図　山本圏域の観光施設・拠点の分布状況**

出典：秋田県観光統計（2020 年）

○秋田圏域

当該圏域には、「男鹿市複合観光施設オガーレ」や「道の駅あきた港」など、観光入込数30 万人以上の観光施設・拠点が複数あるほか、集客力の高い公園施設や動物公園なども立地しています。

また、空港やフェリーターミナル、秋田駅などの交通拠点があるほか、秋田市街地では路線バスなど地域公共交通が比較的充実しています。

男鹿市内には、温泉施設や宿泊施設等が立地していますが、秋田駅や秋田空港など主要な交通拠点からの二次交通が運行しており、アクセス性が確保されています。

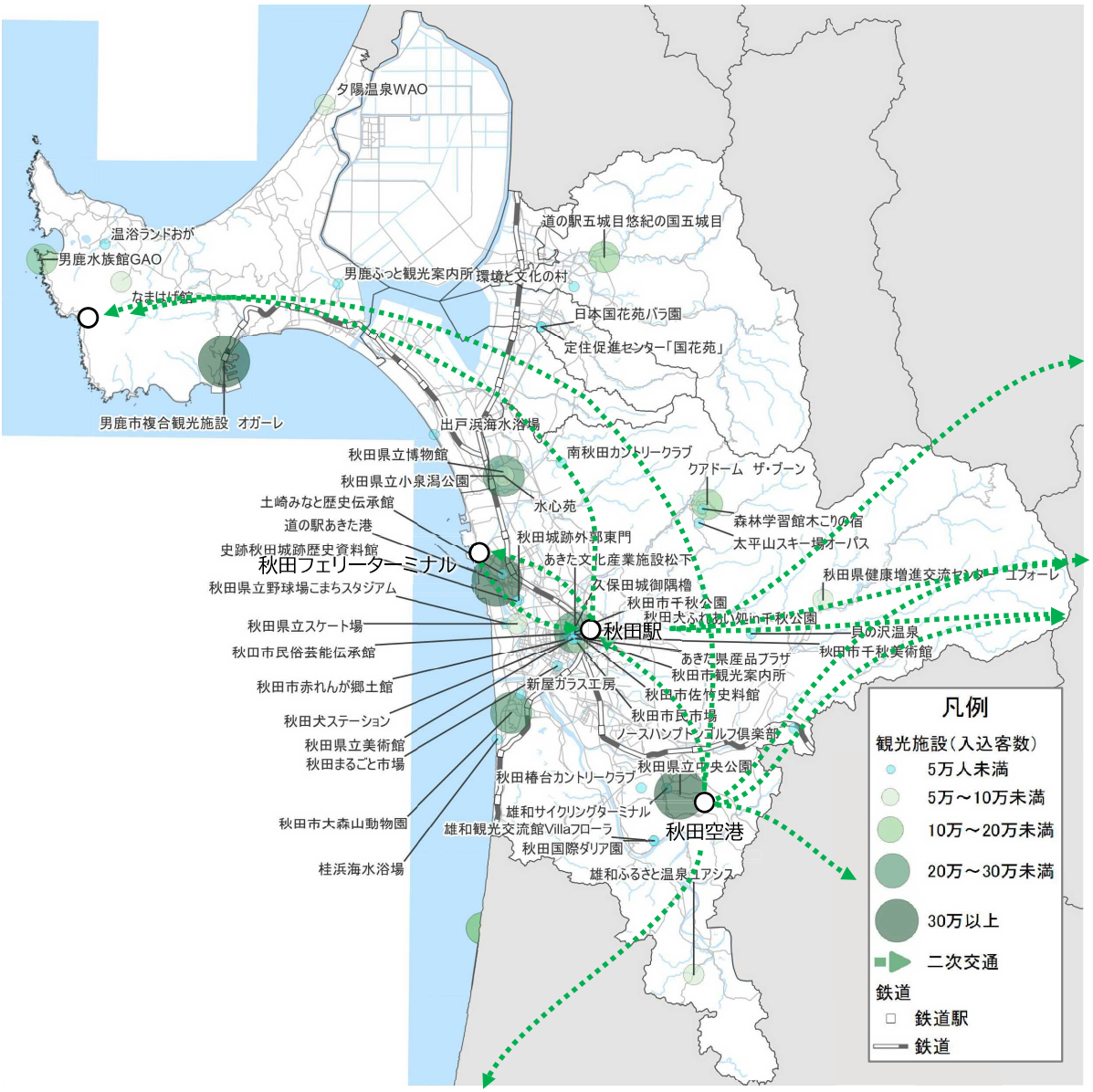



**図 秋田圏域の観光施設・拠点の分布状況**

出典：秋田県観光統計（2020 年）

○由利圏域

当該圏域では、観光入込客数 30 万人以上の「道の駅象潟ねむの丘」をはじめ、10 万人以上の道の駅などの観光施設・拠点が立地しています。

このほか、自然観光資源である鳥海山にも 10 万人以上の観光入込客数があり、観光シーズンには、にかほ市内からの二次交通が運行しています。

**図　由利圏域の観光施設・拠点の分布状況**

出典：秋田県観光統計（2020 年）

○仙北圏域

当該圏域は、本県を代表する観光拠点として、田沢湖や田沢湖近郊の温泉郷をはじめ、角館武家屋敷など、観光入込客数 10 万人以上の観光施設・拠点が複数立地しています。

角館武家屋敷には JR 角館駅から市内の公共交通を利用してアクセスすることができるほか、田沢湖や田沢湖近郊の温泉郷に対しては、田沢湖駅や秋田駅、秋田空港などから二次交通が運行しており、アクセス性が確保されています。

**図 仙北圏域の観光施設・拠点の分布状況**

出典：秋田県観光統計（2020 年）

○平鹿・雄勝圏域

当該圏域では、観光入込客数 30 万人以上の「秋田ふるさと村」や複数の道の駅が立地しています。

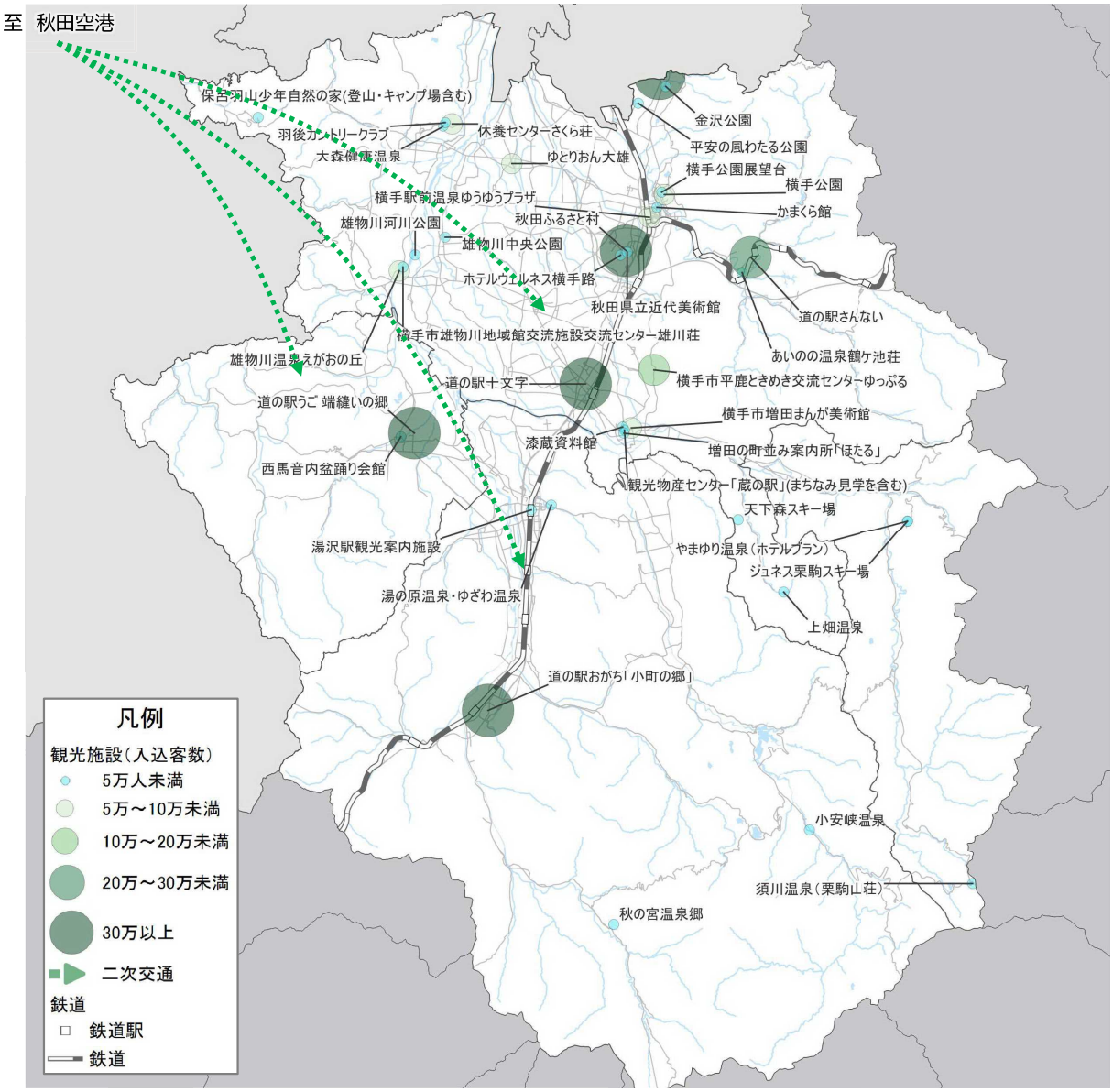



**図 圏域の観光施設・拠点の分布状況**

出典：秋田県観光統計（2020 年）

# 1-8 自動車・運転免許の保有者数

## (1)自動車の保有台数

秋田県全体の一世帯当たりの自動車保有台数は 1.82 台/世帯となっており、一世帯に 1 台以上の自動車を保有している状況となっています。

秋田市を含む秋田圏域は、1.55 台/世帯と県平均より低い数値になっていますが、由利、仙北、平鹿・雄勝の 3 圏域では、2 台/世帯以上となっています。

県全体の数値は東北平均（1.82 台/世帯）と同水準にありますが、全国平均（1.33 台/世帯）を大きく上回っているほか、圏域別にみると秋田圏域以外の 5 圏域は東北平均を上回っています。

**表 自動車の保有台数**

| 圏域 | 市町村名 | 自動車保有数 | | | 世帯 | 1世帯当たりの保有台数 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 乗用車 | 軽自動車 | 合計 | | |
| 鹿角・北秋田圏域 | 鹿角市 | 9,480 | 13,479 | 22,959 | 11,041 | 2.08 |
| | 小坂町 | 1,646 | 2,045 | 3,691 | 2,019 | 1.83 |
| | 大館市 | 23,324 | 26,937 | 50,261 | 28,300 | 1.78 |
| | 北秋田市 | 10,908 | 11,546 | 22,454 | 11,816 | 1.90 |
| | 上小阿仁村 | 803 | 796 | 1,599 | 854 | 1.87 |
| | 鹿角・北秋田圏域計 | 46,161 | 54,803 | 100,964 | 54,030 | 1.87 |
| 山本圏域 | 能代市 | 16,787 | 20,899 | 37,686 | 21,878 | 1.72 |
| | 藤里町 | 927 | 1,471 | 2,398 | 1,132 | 2.12 |
| | 三種町 | 5,296 | 7,905 | 13,201 | 5,802 | 2.28 |
| | 八峰町 | 2,217 | 3,175 | 5,392 | 2,615 | 2.06 |
| | 山本圏域計 | 25,227 | 33,450 | 58,677 | 31,427 | 1.87 |
| 秋田圏域 | 秋田市 | 113,166 | 88,787 | 201,953 | 138,183 | 1.46 |
| | 男鹿市 | 8,852 | 11,097 | 19,949 | 10,573 | 1.89 |
| | 潟上市 | 11,131 | 12,295 | 23,426 | 12,621 | 1.86 |
| | 五城目町 | 3,002 | 3,711 | 6,713 | 3,344 | 2.01 |
| | 八郎潟町 | 2,025 | 2,335 | 4,360 | 2,188 | 1.99 |
| | 井川町 | 1,611 | 2,012 | 3,623 | 1,543 | 2.35 |
| | 大潟村 | 1,417 | 1,498 | 2,915 | 883 | 3.30 |
| | 秋田圏域計 | 141,204 | 121,735 | 262,939 | 169,335 | 1.55 |
| 由利圏域 | 由利本荘市 | 26,969 | 30,701 | 57,670 | 28,629 | 2.01 |
| | にかほ市 | 9,180 | 9,218 | 18,398 | 8,752 | 2.10 |
| | 由利圏域計 | 36,149 | 39,919 | 76,068 | 37,381 | 2.03 |
| 仙北圏域 | 仙北市 | 9,063 | 10,865 | 19,928 | 9,352 | 2.13 |
| | 大仙市 | 28,993 | 34,193 | 63,186 | 28,585 | 2.21 |
| | 美郷町 | 6,669 | 8,909 | 15,578 | 6,064 | 2.57 |
| | 仙北圏域計 | 44,725 | 53,967 | 98,692 | 44,001 | 2.24 |
| 平鹿・雄勝圏域 | 横手市 | 28,934 | 39,296 | 68,230 | 31,096 | 2.19 |
| | 湯沢市 | 14,514 | 18,684 | 33,198 | 17,678 | 1.88 |
| | 羽後町 | 4,573 | 6,649 | 11,222 | 4,643 | 2.42 |
| | 東成瀬村 | 794 | 1,233 | 2,027 | 893 | 2.27 |
| | 平鹿・雄勝圏域計 | 48,815 | 65,862 | 114,677 | 54,310 | 2.11 |
| 秋田県計 | | | | 712,017 | 390,484 | 1.82 |
| 東北 | | | | 6,886,209 | 3,778,320 | 1.82 |
| 全国 | | | | 77,991,114 | 59,497,356 | 1.31 |

出典：市町村別保有車両数（東北運輸局）

## （2）運転免許の保有状況

県内の運転免許の保有状況は、概ね横ばいから微減の傾向にあります。また、65 歳以上の高齢者における免許返納者数は増加傾向にあり、県全体では 2020 年度の返納者数が 2016 年度に比べて約 59%増加しています。

県内の高齢者数が増加したことに加えて、社会的に免許返納を促す情勢の変化などがあったことが一因と考えられます。

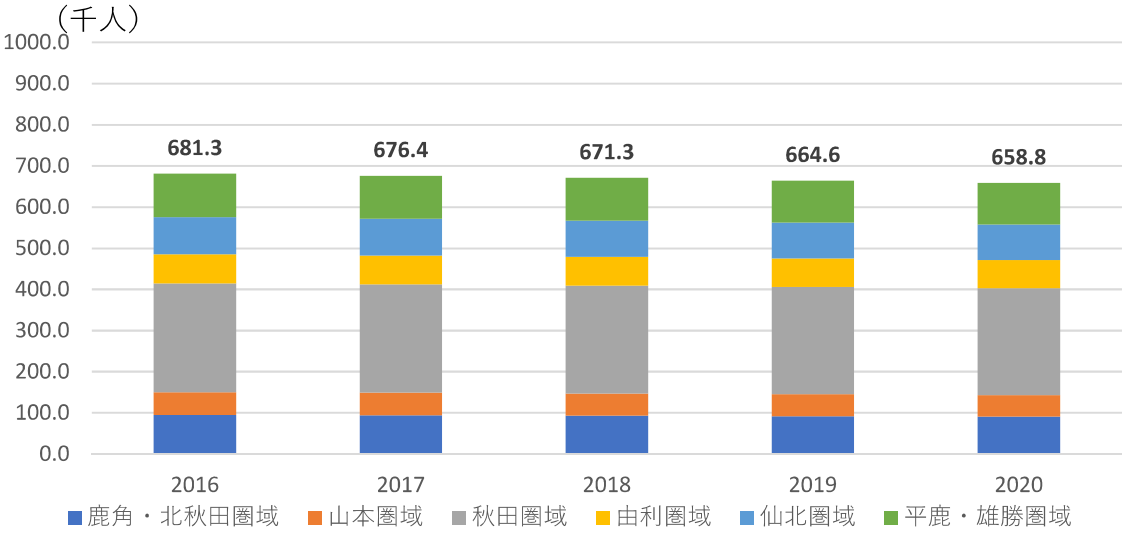



**図　圏域別の免許保有者数**

出典：市町村別免許人口

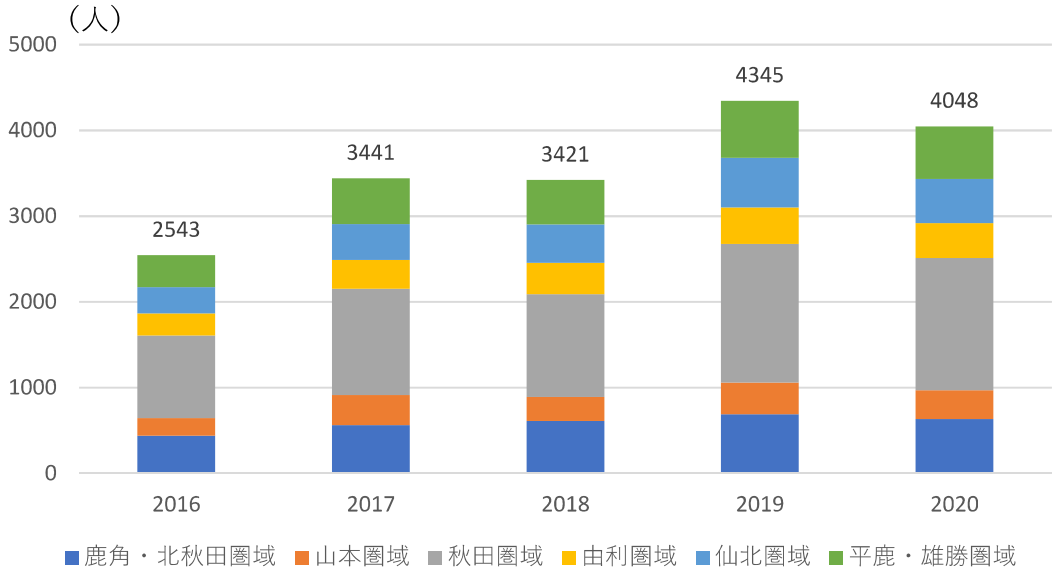



**図　圏域別の 65 歳以上の免許返納者数**

出典：警察署別運転免許全部返納者数及び
運転履歴証明書申請件数（65 歳以上）

## 1-9 交通事故発生件数等

県内の交通事故の発生件数は減少傾向にあり、2020 年（令和 2 年）の発生件数は 1,377 件となっています。

交通事故を起こした年代別にみると、65 歳以上の割合が増加しており、2016 年（平成 28 年）から 2020 年（令和 2 年）にかけて 7.9 ポイント増加しています。

社会的にも高齢者の運転に対する懸念や免許返納を推進する動きがありますが、特に本県は高齢化が顕著となっていることから、免許返納後の高齢者が地域公共交通を利用しやすい環境づくりが求められています。

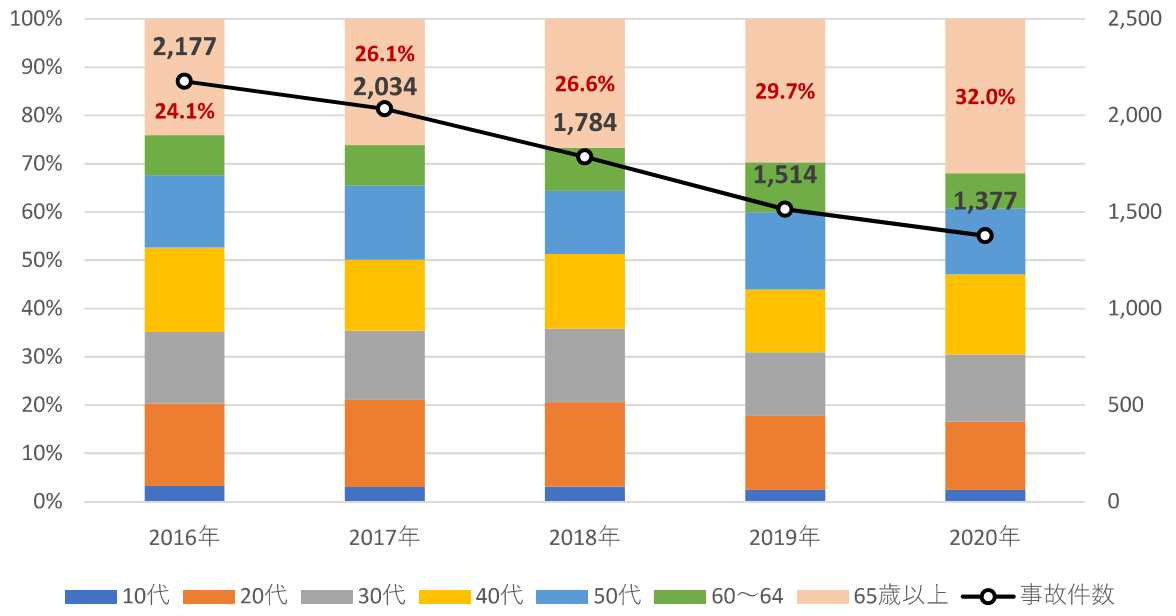



**図 秋田県全体の事故発生件数の推移と事故を起こした年代の割合**

出典：交通事故統計（秋田県警察本部）

## 1-10 社会的動向

### (1)高校の再編整備

本県では少子化による高校生の減少などを背景として、秋田県高等学校総合整備計画に基づき、高校の統合等再編整備を行っています。

今後も募集定員に対する入学者数の状況等を踏まえて見直し等を行うこととしていますが、高校の再編整備によって通学距離が増加することで、高校生の総数自体は減少しながらも公共交通に対する通学対応の必要性が高まることが想定されます。

表 今後の主な再編整備計画の予定一覧

| 圏域 | 対象校 | 実施予定年度 |
|---|---|---|
| 鹿角・北秋田圏域 | 花輪高校・十和田高校・小坂高校 | 2024 年（令和 6 年）4 月 |
| 秋田圏域 | 男鹿海洋高校・男鹿工業高校（2 キャンパス制） | 未定 |
| 平鹿・雄勝圏域 | 増田高校・雄物川高校・平成高校 | 未定 |

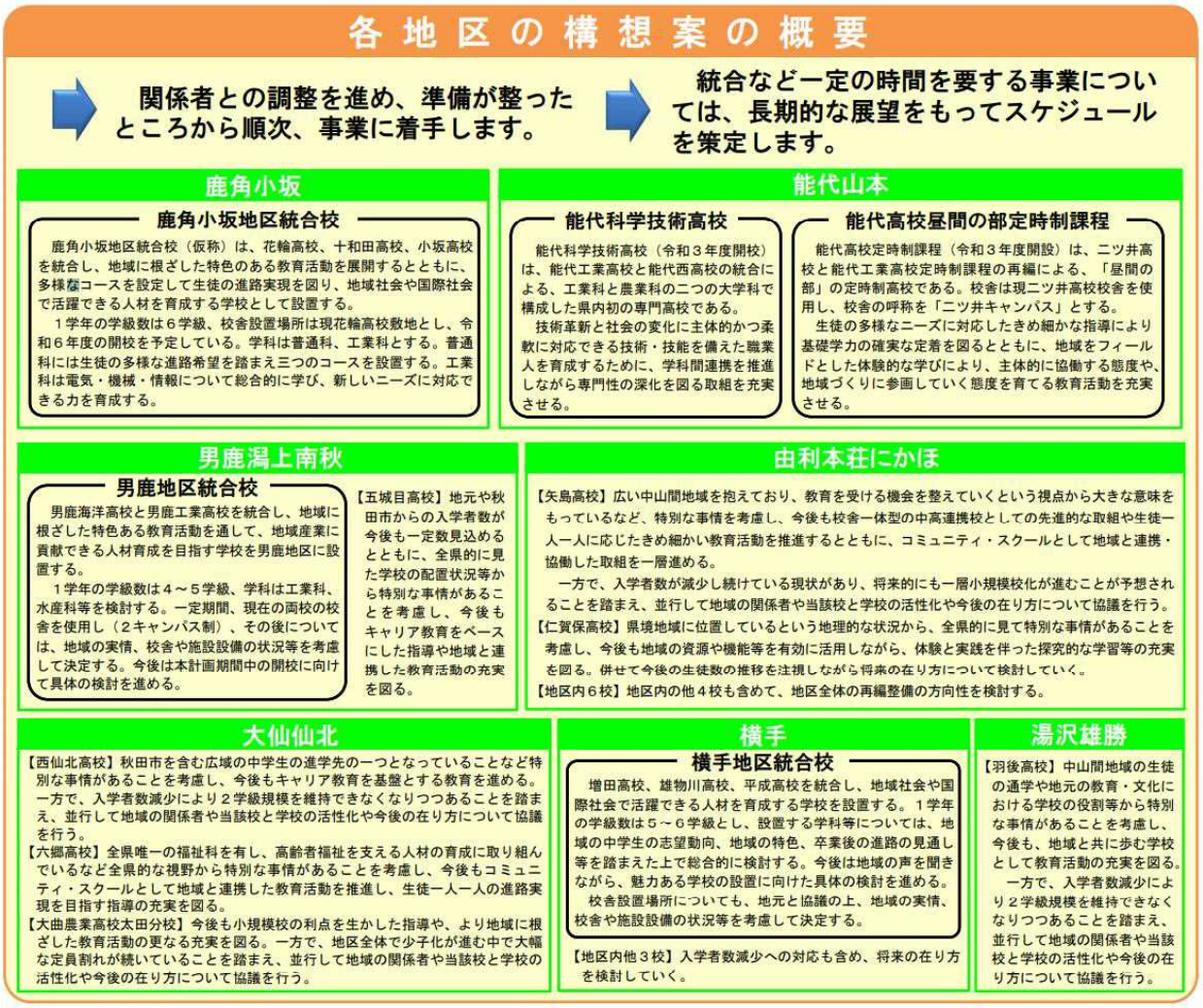



図 第七次秋田県高等学校総合整備計画の概要